第３章　各調査の結果

１．高齢者一般調査

（１）ウェイトバック集計について

第１章にも記載したとおり、今回実施した調査においては、国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」に相当するデータを取得するため、各日常生活圏域において一定数の有効回答数が得られるように調査対象を抽出していることから、回答者の日常生活圏域別の構成比について、実際の高齢者人口の分布とは異なる構成となっています。

そこで、区全体の回答傾向をより正確に把握することを目的として、集計データに以下のようなウェイトを乗じて算出する「ウェイトバック集計」を行うことにより、集計結果の補正を行っています。

なお、ウェイトバック集計を行ったため、本調査の回答結果を示す図表には回答者数を示す「n」を記載していません。

図表 34　高齢者一般調査におけるウェイト付けの補正値

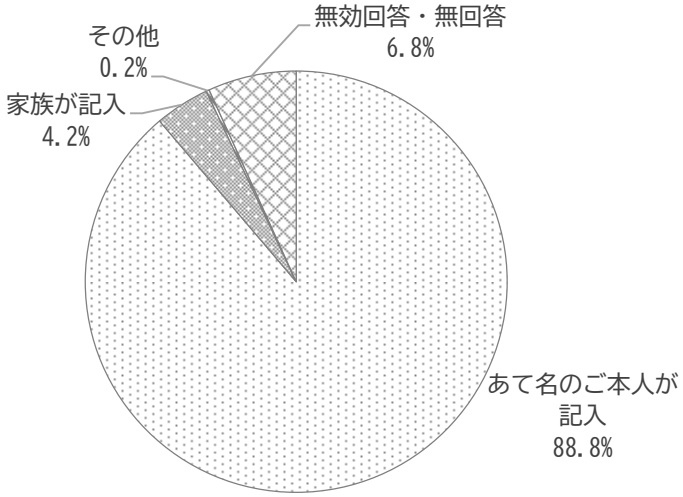
圏域名	母数（A）	構成比	回収数（B）	構成比	ウェイト（A/B）
大森東	3,764	2.72%	217	5.39%	17.346
大森西	11,933	8.61%	221	5.49%	53.995
入新井	7,391	5.33%	231	5.74%	31.996
馬込	9,588	6.92%	232	5.76%	41.328
池上	8,827	6.37%	220	5.46%	40.123
新井宿	4,322	3.12%	227	5.64%	19.040
嶺町	4,753	3.43%	217	5.39%	21.903
田園調布	4,629	3.34%	215	5.34%	21.530
鵜の木	4,833	3.49%	230	5.71%	21.013
久が原	5,620	4.06%	230	5.71%	24.435
雪谷	10,576	7.63%	221	5.49%	47.855
千束	4,631	3.34%	225	5.59%	20.582
糀谷	7,179	5.18%	226	5.61%	31.765
羽田	7,762	5.60%	224	5.56%	34.652
六郷	14,337	10.35%	223	5.54%	64.291
矢口	8,264	5.96%	230	5.71%	35.930
蒲田西	11,612	8.38%	222	5.51%	52.306
蒲田東	8,552	6.17%	216	5.36%	39.593
合計	138,573	100.00%	4,027	100.00%	―

※日常生活圏域が不明の回答が２件あったため、表中回収数の合計は有効回答数（4,029 件）と一致しません

（２）調査票への回答記入者

調査票に回答を記入した方については、「あて名のご本人が記入」が 88.8%、「家族が記入」が 4.2%、「その他」が 0.2%となっています。

図表 35　調査票への回答記入者



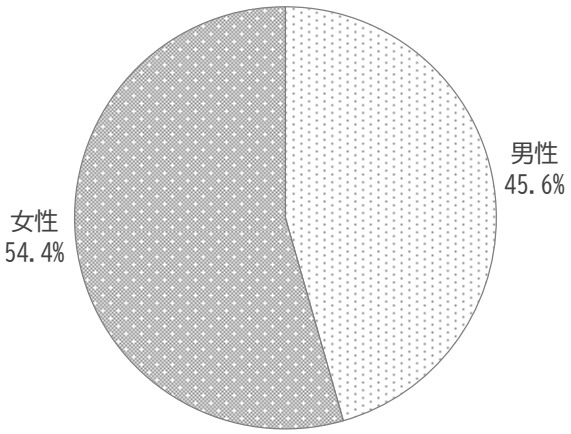
（３）回答者の属性

①回答者の性別・年齢

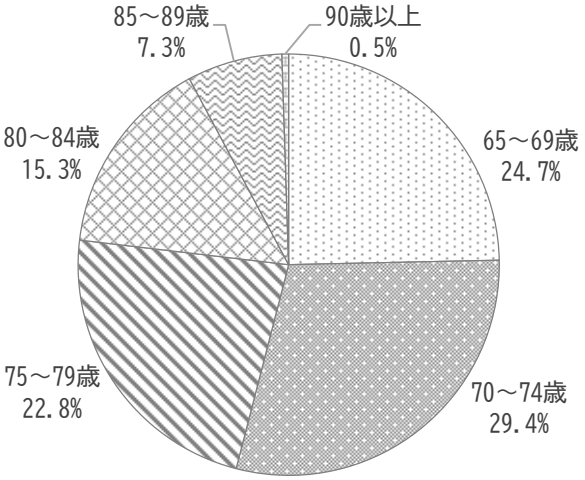
回答者の性別については、「男性」が 45.6%、「女性」が 54.4%となっています。

また、回答者の年齢は「70～74 歳」が 29.4%と最も多く、次いで「65～69 歳」が 24.7%であり、前期高齢者（65～74 歳）が 54.1%、後期高齢者（75 歳以上）が 45.9%となっています。

図表 36　回答者の性別



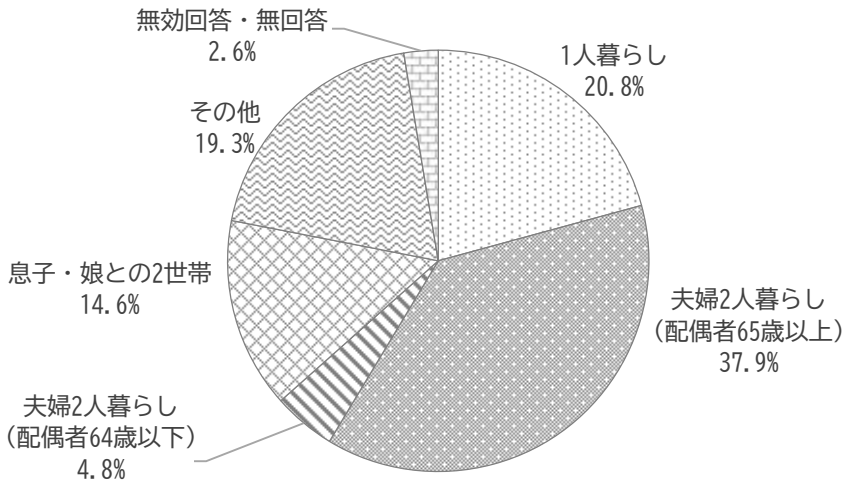
図表 37　回答者の年齢



②回答者の家族構成【問１（１）】

回答者の家族構成については、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 37.9%と最も多く、次いで「１人暮らし」が 20.8%となっています。

図表 38　回答者の家族構成

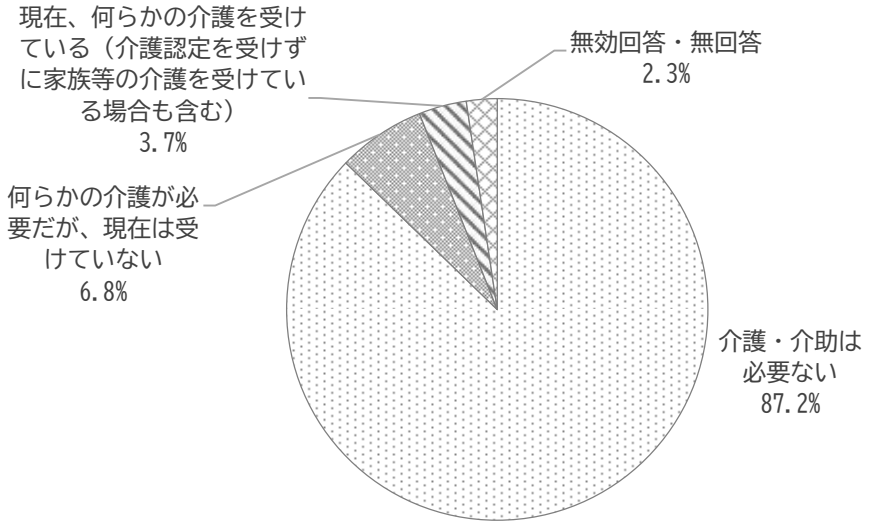


③介護や介助の必要性【問１（２）、問１（３）】

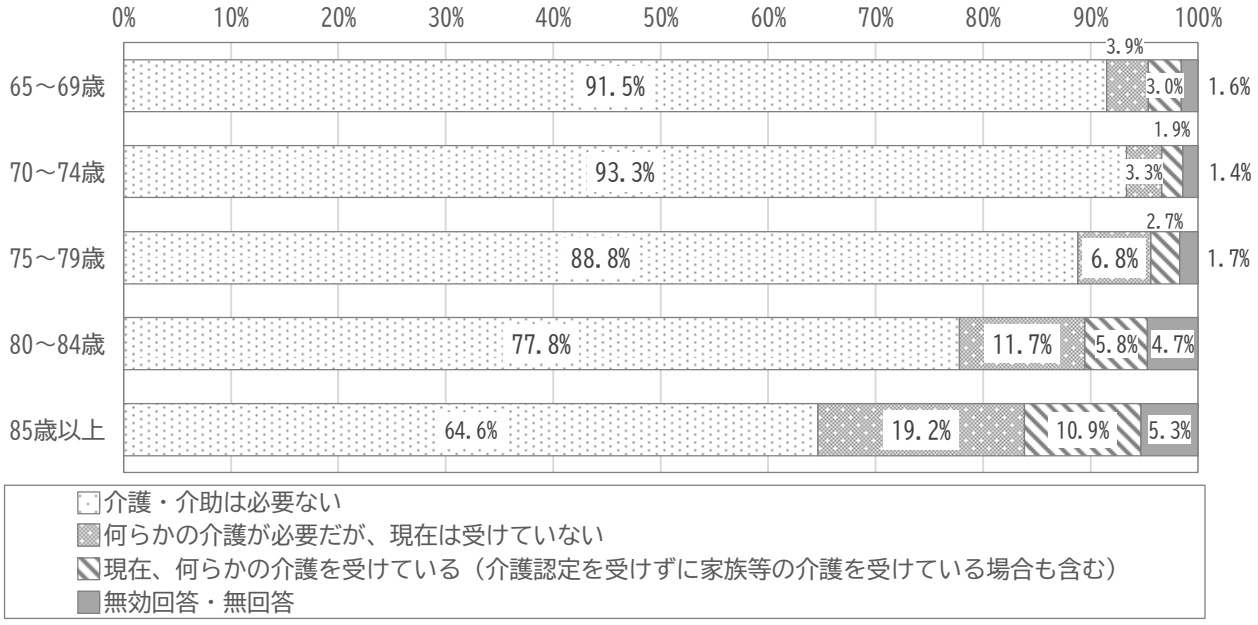
普段の生活において、他者からの介護や介助が必要な状態にあるかどうかについて、「介護・介助は必要ない」が 87.2%となっていますが、何らかの介護が必要との回答も１割程度見られます。

なお、年齢別の回答を見ると、年齢が高くなるほど「介護・介助は必要ない」の割合が低くなる傾向が見られます。

図表 39　介護や介助の必要性の有無

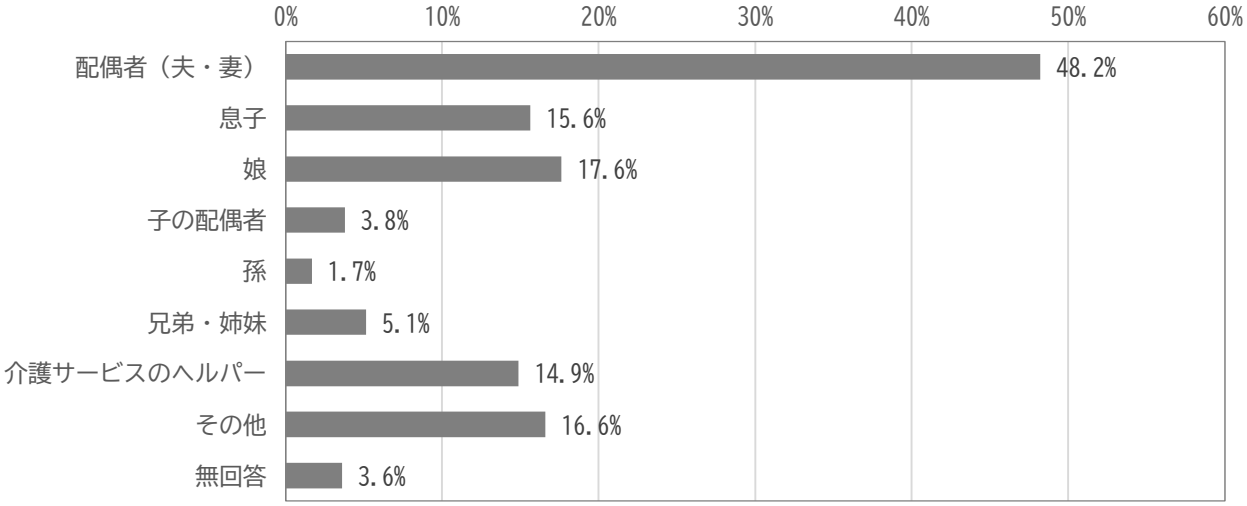


図表 40　介護や介助の必要性の有無（年齢別）



また、問１（２）において「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方に、どなたから介護・介助を受けているかたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が 48.2%と最も多く、次いで「娘」が 17.6%となっています。

図表 41　介護・介助を受けている相手（複数回答）



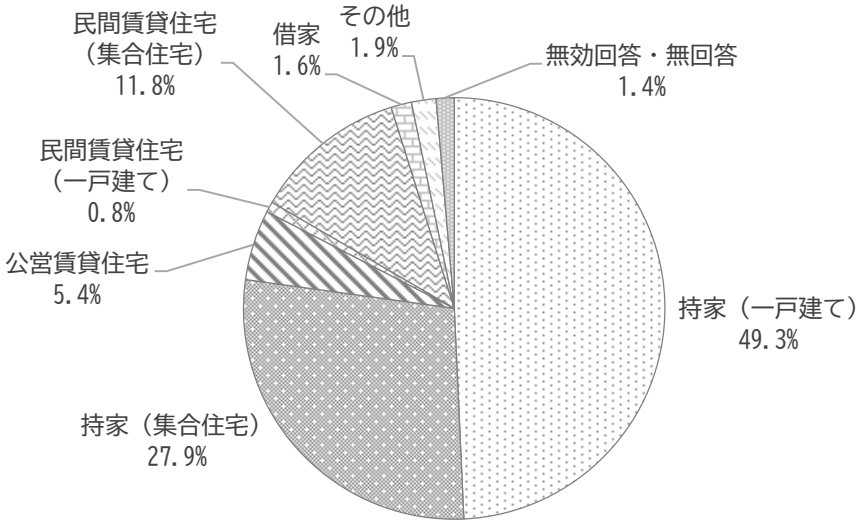
（４）住まいの状況

①住まいの種類【問２】

回答者の住まいの種類についてたずねたところ、「持家（一戸建て）」が 49.3%、「持家（集合住宅）」が 27.9%であり、持家に住んでいるという方が 77.2%となっています。

なお、家族構成別の回答を見ると、「１人暮らし」では他と比べて持家の割合が低く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が高くなっています。

図表 42　回答者の住まいの種類



図表 43　回答者の住まいの種類（家族構成別）

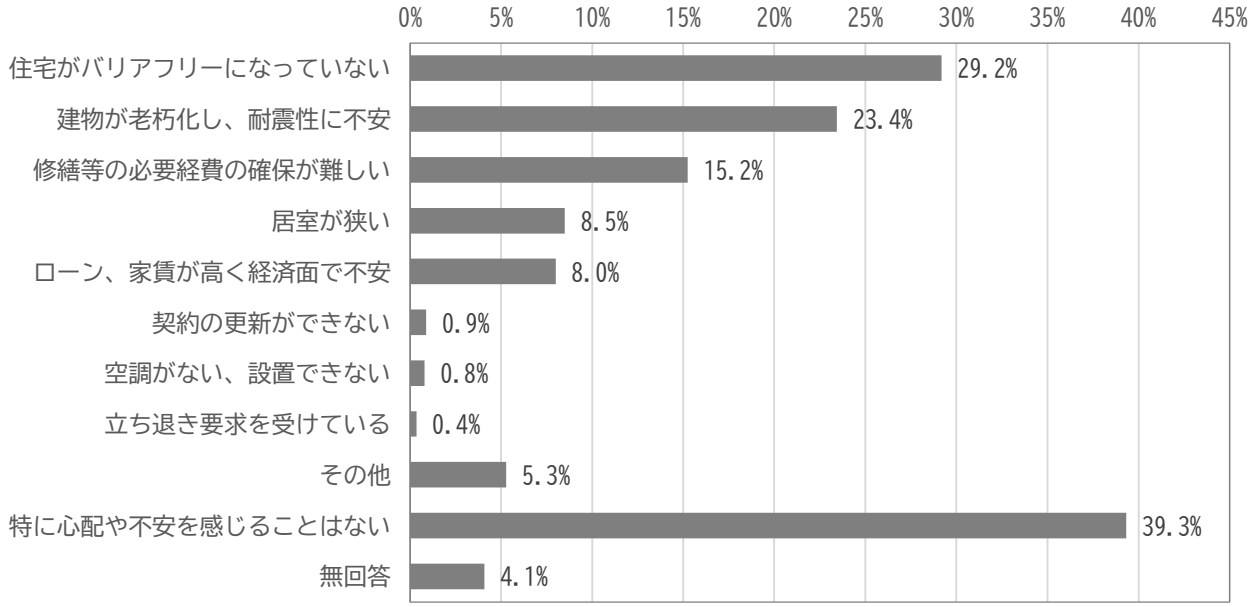
	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無効回答・無回答
1人暮らし	29.7%	29.7%	9.7%	0.6%	24.6%	3.0%	2.3%	0.4%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	51.5%	32.0%	4.7%	0.7%	8.8%	0.7%	0.8%	0.9%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	46.2%	34.4%	1.2%	2.1%	12.1%	1.8%	1.4%	0.8%
息子・娘との2世帯	64.4%	19.9%	4.0%	1.0%	7.1%	1.4%	1.7%	0.5%
その他	56.6%	23.3%	4.7%	0.9%	7.8%	2.0%	3.8%	0.9%

②住まいに関する不安や困りごと【問３】

現在の住まいに関する不安や困りごとについてたずねたところ、「特に心配や不安を感じることはない」との回答が 39.3%でした。不安や困りごとを感じている内容については、「住宅がバリアフリーになっていない」が 29.2%と最も多く、次いで「建物が老朽化し、耐震性に不安」が 23.4%、「修繕等の必要経費の確保が難しい」が 15.2%となっています。

なお、年齢別・家族構成別の回答は図表 45 のとおりであり、いずれの属性においても概ね同様の結果となっています。なお、「１人暮らし」については、持家の割合が低いこともあり、「修繕等の必要経費の確保が難しい」の回答割合は他より低くなっています。

図表 44　現在の住まいに関する不安や困りごと（複数回答）

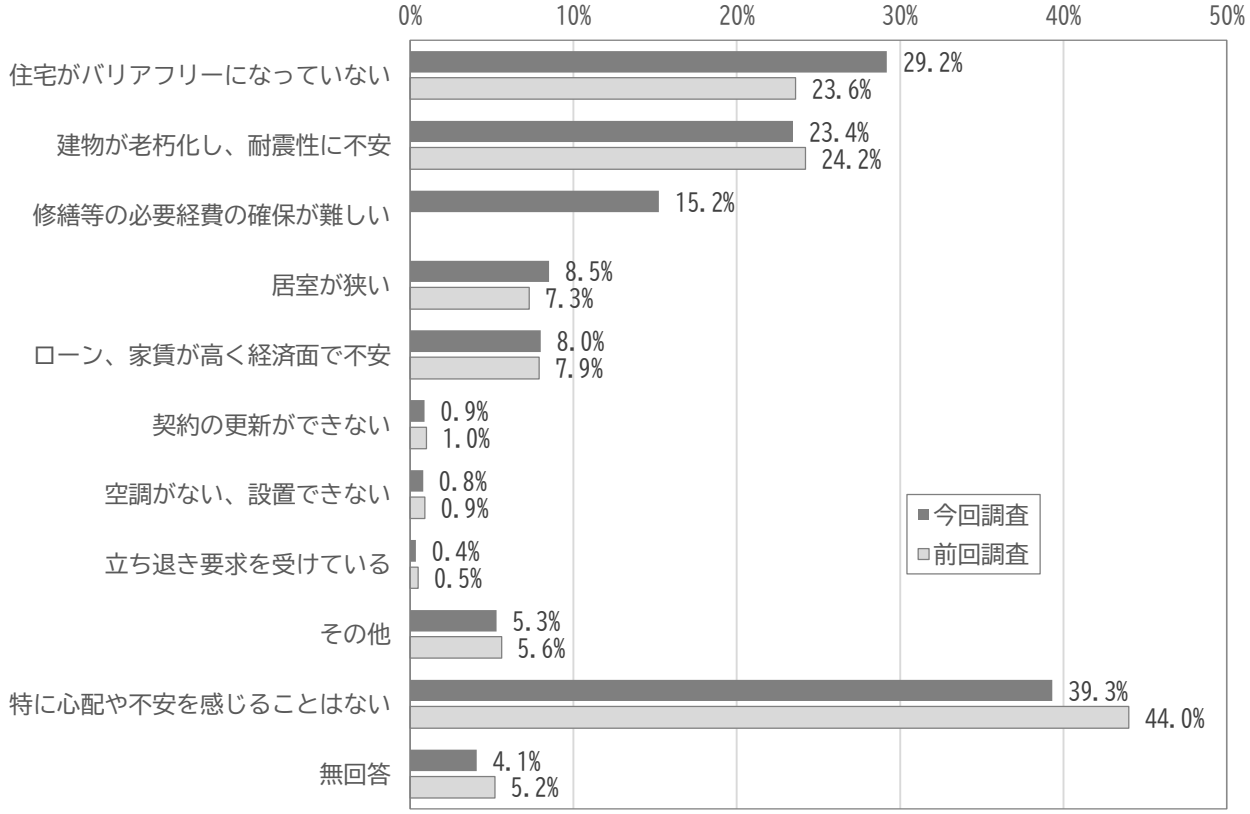


図表 45　現在の住まいに関する不安や困りごと（年齢別・家族構成別）

	住宅がバリアフリーになっていない	居室が狭い	空調がない、設置できない	建物が老朽化し、耐震性に不安	ローン、家賃が高く経済面で不安	修繕等の必要経費の確保が難しい	契約の更新ができない	立ち退き要求を受けている	その他	特に心配や不安を感じることはない	無回答
65～69歳	26.4%	9.8%	0.7%	24.2%	10.9%	17.4%	0.9%	0.5%	5.0%	39.2%	2.1%
70～74歳	28.5%	8.0%	1.1%	22.3%	10.2%	15.7%	1.3%	0.4%	5.7%	39.2%	3.3%
75～79歳	30.2%	8.7%	0.8%	23.2%	5.4%	13.6%	0.2%	0.1%	5.2%	39.7%	4.1%
80～84歳	31.9%	7.1%	0.6%	24.7%	5.1%	13.8%	1.5%	0.2%	5.2%	37.9%	7.2%
85歳以上	32.1%	8.7%	0.3%	23.3%	4.0%	14.4%	0.0%	0.8%	5.0%	41.7%	7.2%
1人暮らし	24.5%	7.4%	1.5%	26.7%	8.8%	10.3%	1.9%	0.6%	4.6%	39.4%	5.2%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	32.7%	8.4%	0.5%	23.5%	5.9%	16.4%	0.5%	0.2%	5.1%	39.1%	2.9%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	26.7%	9.6%	0.3%	21.6%	8.9%	16.3%	1.5%	2.3%	4.5%	43.5%	0.6%
息子・娘との2世帯	26.6%	10.0%	0.5%	18.8%	11.9%	17.0%	0.3%	0.2%	3.6%	42.4%	3.9%
その他	30.7%	8.8%	1.0%	24.1%	8.6%	17.1%	0.9%	0.1%	8.2%	37.9%	2.4%

前回調査の結果と比較すると、「特に心配や不安を感じることはない」の割合が 4.7 ポイント低下しています。回答傾向は概ね前回と同様ですが、「住宅がバリアフリーになっていない」の割合が前回より 5.6 ポイント高くなっています。

図表 46　現在の住まいに関する不安や困りごと（前回調査との比較）



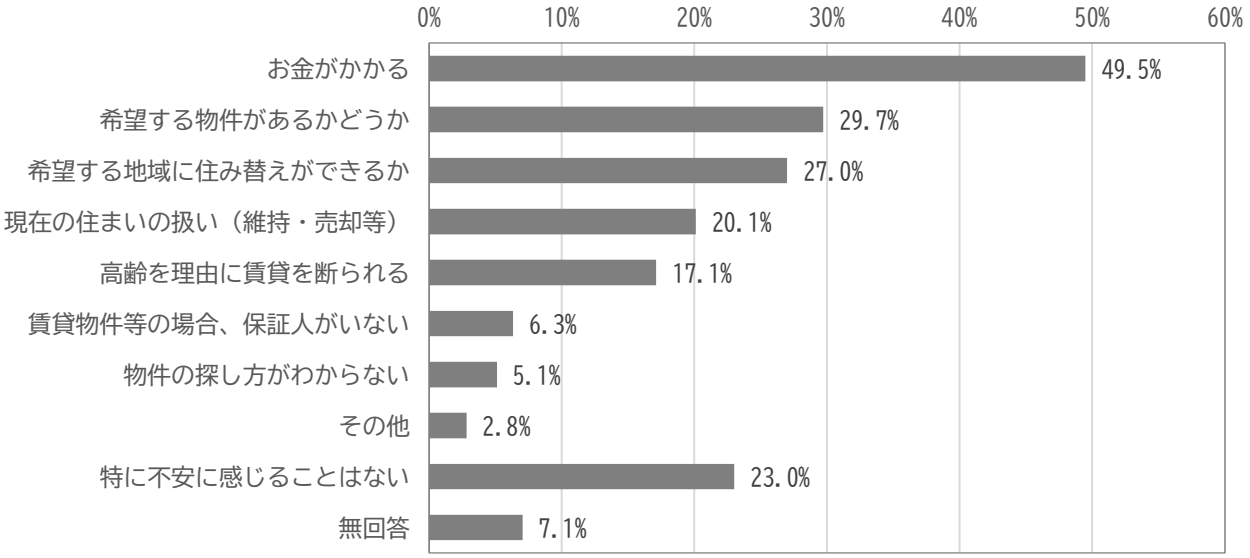
※「修繕等の必要経費の確保が難しい」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

③住み替えに関して不安なこと【問４】

現在の住まいからの住み替えに関して不安を感じることについてたずねたところ、「お金がかかる」が 49.5%と最も多く、次いで「希望する物件があるかどうか」が 29.7%、「希望する地域に住み替えができるか」が 27.0%となっています。なお、「特に不安に感じることはない」との回答は 23.0%でした。

年齢別・家族構成別の回答は図表 48 のとおりであり、「高齢を理由に賃貸を断られる」の割合については「65～69 歳」や「１人暮らし」における回答割合が高くなっています。

図表 47　住み替えに関して不安なこと（複数回答）

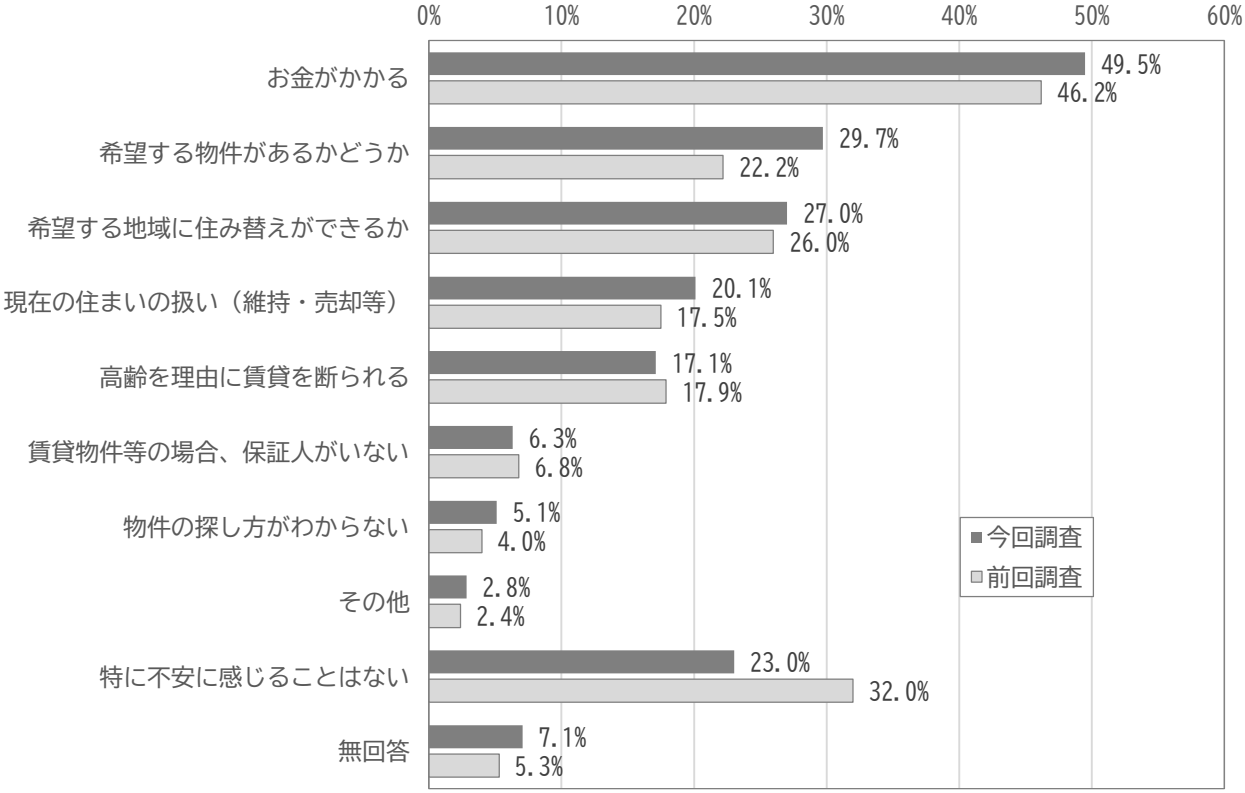


図表 48　住み替えに関して不安なこと（年齢別・家族構成別）

	お金がかかる	希望する地域に住み替えができるか	物件の探し方がわからない	希望する物件があるかどうか	高齢を理由に賃貸を断られる	賃貸物件等の場合、保証人がいない	現在の住まいの扱い（維持・売却等）	その他	特に不安に感じることはない	無回答
65～69歳	59.8%	30.6%	4.0%	36.8%	20.8%	8.2%	22.5%	2.5%	18.9%	2.0%
70～74歳	50.2%	29.0%	5.5%	33.4%	17.9%	7.5%	22.6%	2.6%	22.1%	5.0%
75～79歳	44.0%	24.0%	4.5%	24.8%	16.0%	4.3%	18.2%	2.9%	26.6%	7.3%
80～84歳	43.9%	25.0%	7.1%	23.6%	16.1%	5.5%	18.5%	4.0%	25.0%	12.6%
85歳以上	41.1%	21.1%	5.2%	20.2%	8.2%	3.9%	11.9%	2.6%	25.1%	19.5%
1人暮らし	49.2%	27.0%	7.7%	29.4%	27.2%	11.6%	16.7%	2.8%	21.8%	6.7%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	49.5%	28.0%	5.0%	31.9%	15.2%	4.9%	22.0%	3.4%	23.1%	5.4%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	52.6%	29.1%	3.7%	30.7%	16.9%	5.1%	20.3%	1.3%	23.1%	4.1%
息子・娘との2世帯	50.4%	25.8%	3.6%	29.3%	12.6%	4.8%	19.9%	2.3%	25.2%	7.1%
その他	50.5%	27.0%	4.3%	27.6%	14.3%	5.8%	21.1%	2.4%	23.5%	7.5%

前回調査の結果と比較すると、「特に不安を感じることはない」の割合が 9.0 ポイント低下しています。「高齢を理由に賃貸を断られる」と「賃貸物件の場合、保証人がいない」以外の項目ではいずれも前回調査より割合が高く、特に「希望する物件があるかどうか」については前回調査より 7.5 ポイント高くなっています。

図表 49　住み替えに関して不安なこと（前回調査との比較）

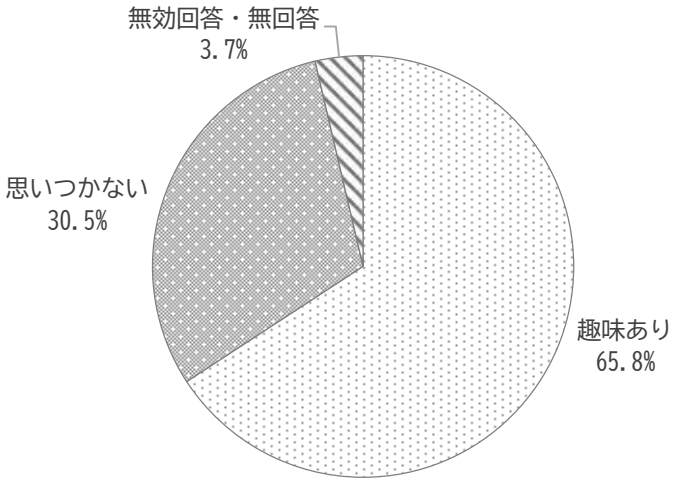


（５）現在の生活に関する状況

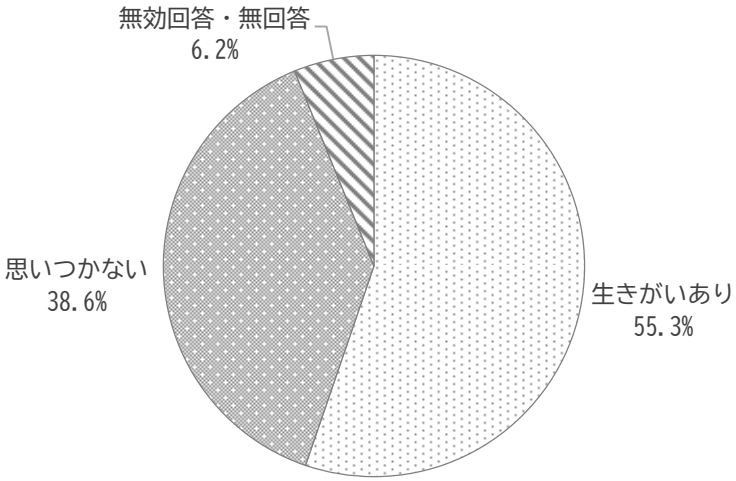
①趣味や生きがいの有無【問５、問６】

趣味の有無については、「趣味あり」が 65.8%、「思いつかない」が 30.5%となっています。
生きがいの有無については、「生きがいあり」が 55.3%、「思いつかない」が 38.6%でした。

図表 50　趣味の有無



図表 51　生きがいの有無

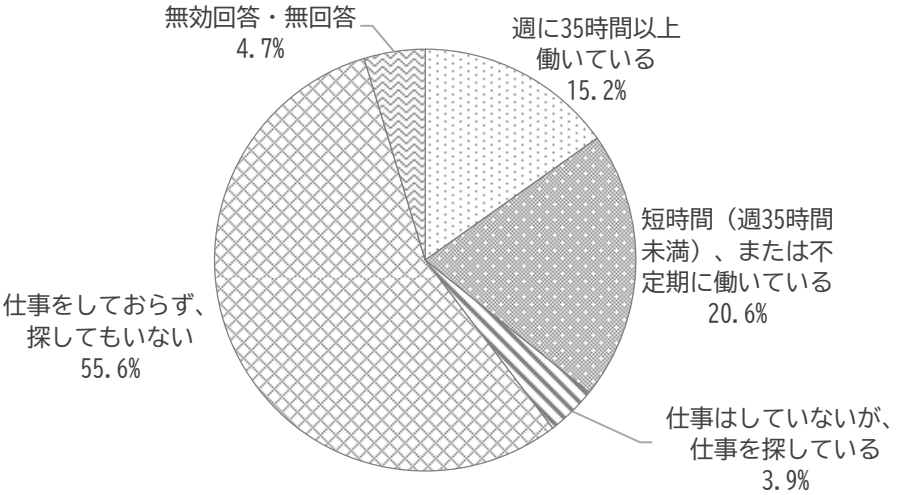


②現在の就労状況【問７】

現在収入を伴う仕事（パート・アルバイト、家事の手伝いを含む）をしているかどうかたずねたところ、「仕事をしておらず、探してもいない」が 55.6%でした。

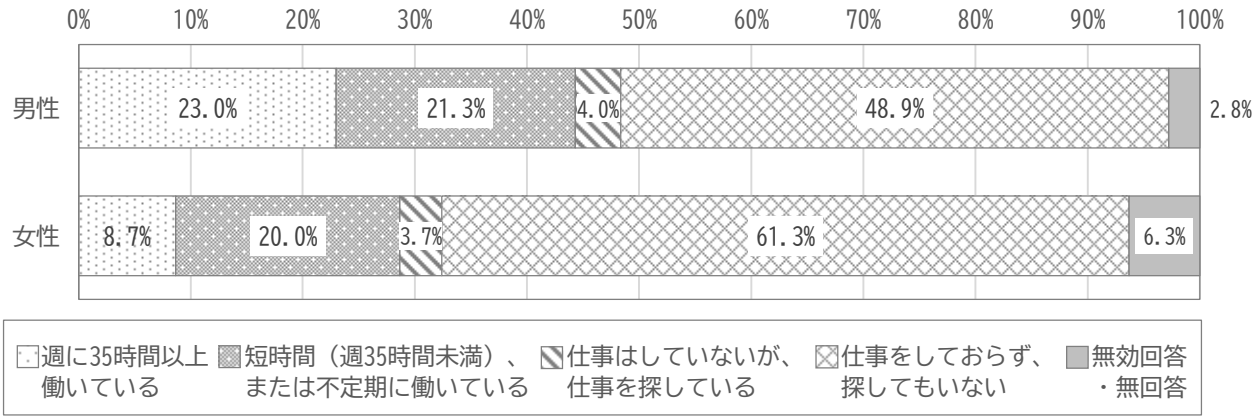
何らかのかたちで仕事をしているとの回答では、「週に 35 時間以上働いている」が 15.2%、「短時間（週 35 時間未満）、または不定期に働いている」が 20.6%となっています。

図表 52　現在の就労状況



現在の就労状況について、男女別の回答結果を見ると、男性のほうが仕事をしている割合が高く、特に「週に 35 時間以上働いている」の割合は男性の方が 14.3 ポイント高くなっています。

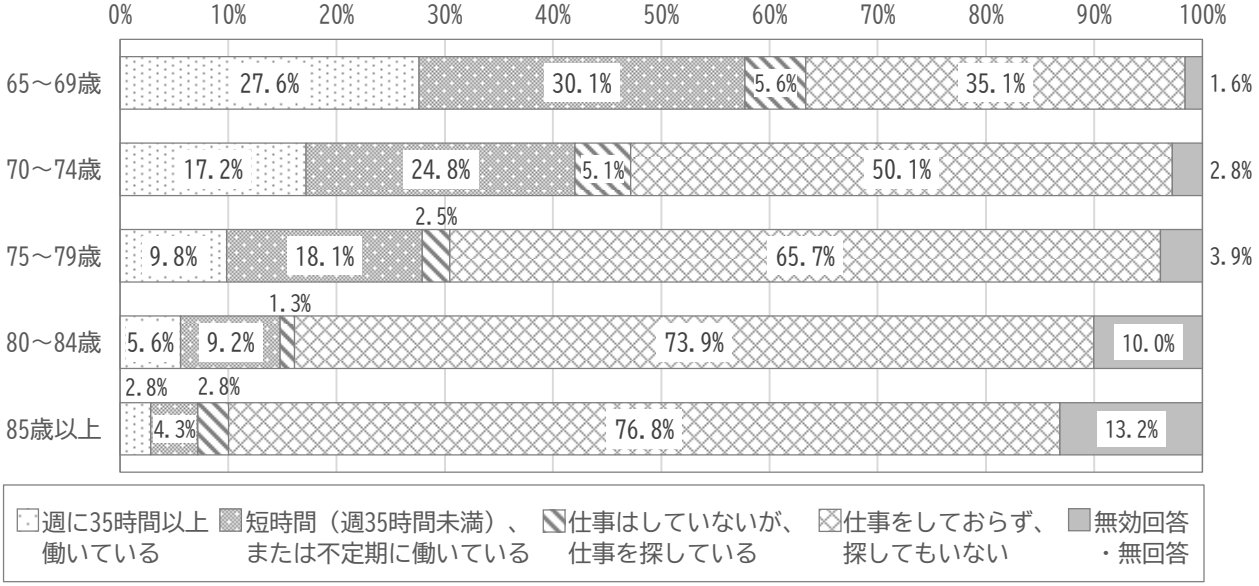
図表 53　現在の就労状況（男女別）



また、年齢別の回答結果を見ると、65～69 歳では「週に 35 時間以上働いている」が 27.6%、「短時間（週 35 時間未満）、または不定期に働いている」が 30.1%であり、57.7%が仕事をしていると回答しています。

仕事をしているとの回答割合は、年齢が高くなるほど低くなる傾向が見られますが、80 歳以上でも 1 割程度となっています。

図表 54　現在の就労状況（年齢別）

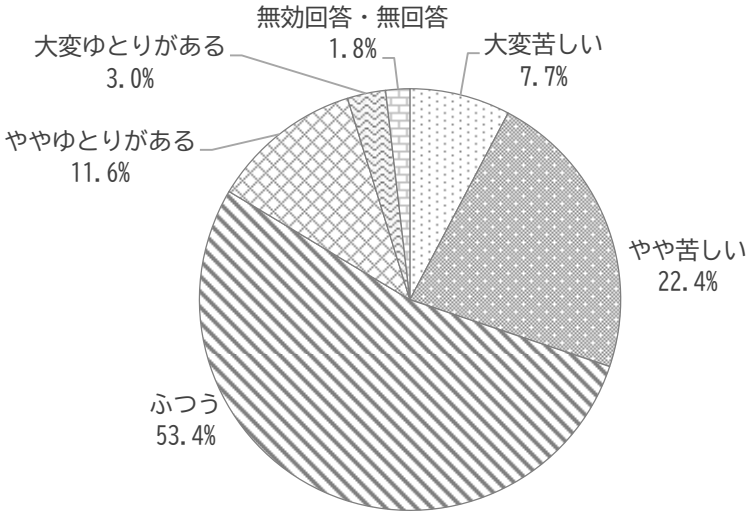


③現在の暮らしの経済的状況【問８】

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じているかたずねたところ、「ふつう」が 53.4%であり、「大変ゆとりがある」は 3.0%、「ややゆとりがある」は 11.6%でした。一方「大変苦しい」が 7.7%、「やや苦しい」が 22.4%であり、「経済的に苦しい」との回答が 30.1%となっています。

男女別・年齢別・家族構成別の回答は図表 56 のとおりであり、「１人暮らし」では他の家族構成と比べ「大変苦しい」、「やや苦しい」の割合が高くなっています。

図表 55　現在の暮らしの経済的状況



図表 56　現在の暮らしの経済的状況（男女別・年齢別・家族構成別）

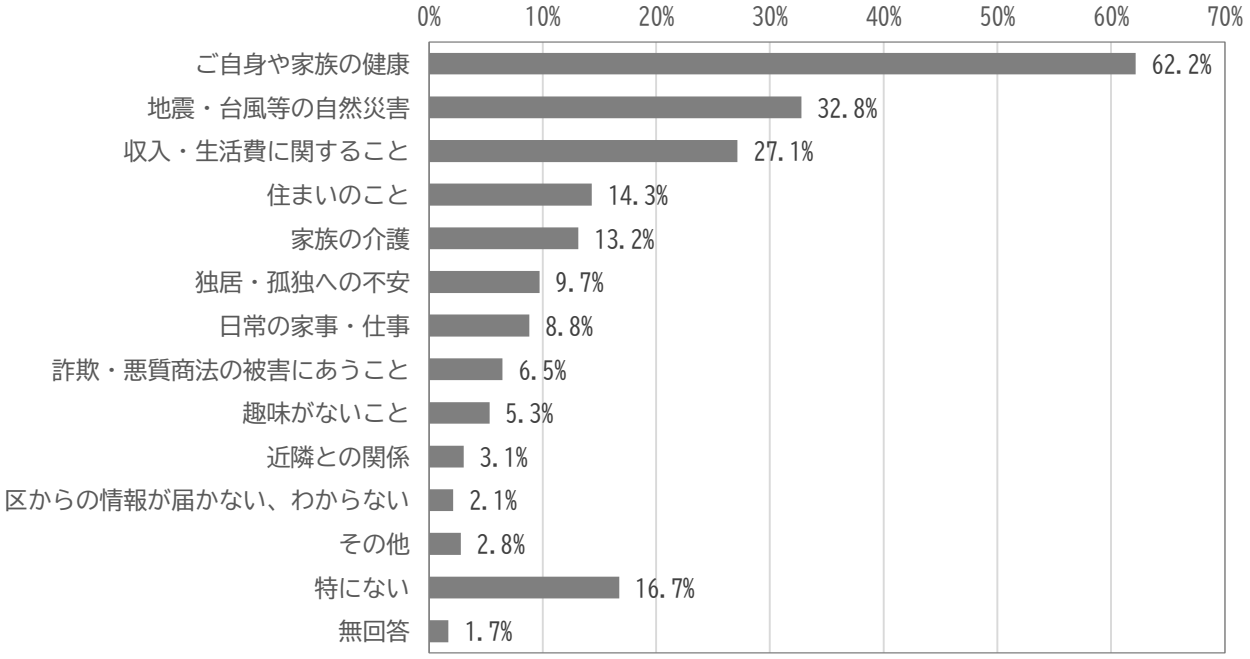
	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無効回答	無回答
男性	8.1%	25.6%	50.3%	11.8%	2.7%	0.2%	1.3%
女性	7.4%	19.8%	56.1%	11.5%	3.2%	0.6%	1.6%
65～69歳	7.9%	24.5%	50.4%	12.7%	3.1%	0.1%	1.4%
70～74歳	9.0%	24.4%	50.5%	11.9%	3.0%	0.1%	1.1%
75～79歳	5.6%	20.9%	57.2%	11.0%	3.0%	0.6%	1.7%
80～84歳	8.4%	20.7%	55.2%	10.9%	2.6%	1.1%	1.1%
85歳以上	7.2%	16.5%	59.2%	10.6%	2.9%	0.4%	3.2%
1人暮らし	9.5%	25.1%	52.4%	8.9%	2.7%	0.8%	0.6%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	6.4%	20.6%	54.7%	13.8%	3.5%	0.2%	0.8%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	6.7%	23.8%	46.3%	18.3%	3.9%	0.0%	1.0%
息子・娘との2世帯	9.1%	20.5%	55.8%	11.3%	2.7%	0.3%	0.3%
その他	8.0%	24.8%	54.2%	9.4%	2.2%	0.3%	1.1%

④日常生活での心配ごと【問９】

日常生活での心配ごとについてたずねたところ、「ご自身や家族の健康」が 62.2%と最も多く、他の項目と比べ割合が特に高くなっています。次いで「地震・台風等の自然災害」が 32.8%、「収入・生活費に関すること」が 27.1%となっています。なお、「特にない」との回答は 16.7%でした。

家族構成別の回答を見ると、「１人暮らし」では「独居・孤独への不安」や「住まいのこと」の回答割合が他と比べて高いほか、「ご自身や家族の健康」や「家族の介護」以外の項目について、総じて他よりも割合が高くなっています。

図表 57　日常生活での心配ごと（複数回答）



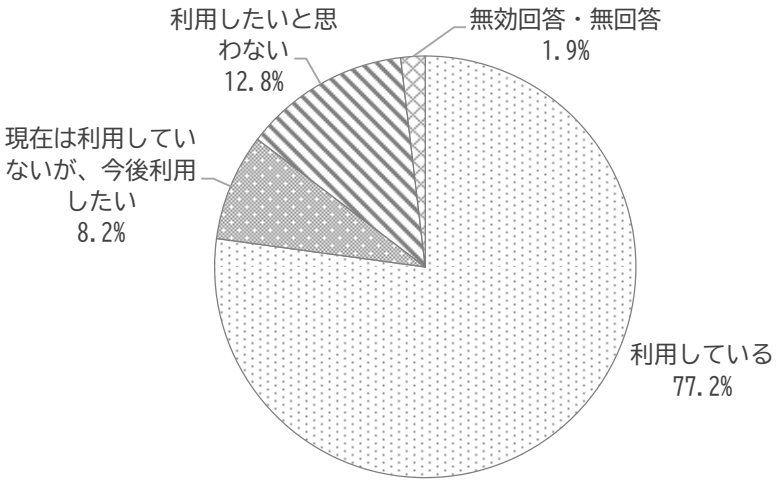
図表 58　日常生活での心配ごと（家族構成別）

	ご自身や家族の健康	家族の介護	地震・台風等の自然災害	独居・孤独への不安	住まいのこと	日常の家事・仕事	収入・生活費に関すること	近隣との関係	区からの情報が届かない、わからない	趣味がないこと	詐欺・悪質商法の被害にあうこと	その他	特にない	無回答
1人暮らし	43.5%	1.6%	33.9%	25.2%	17.8%	9.1%	28.6%	4.8%	3.8%	6.4%	8.1%	3.0%	18.0%	1.5%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	69.4%	19.3%	33.0%	8.0%	13.3%	8.5%	24.3%	3.7%	1.7%	5.2%	6.6%	2.4%	15.6%	1.2%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	65.2%	15.5%	23.0%	6.8%	12.1%	8.2%	26.7%	0.7%	2.9%	8.8%	2.5%	2.6%	18.2%	0.9%
息子・娘との2世帯	66.1%	8.3%	31.0%	2.2%	13.4%	10.0%	29.0%	1.6%	2.7%	5.2%	6.8%	2.3%	18.1%	0.7%
その他	66.0%	16.7%	35.6%	3.5%	14.3%	8.8%	30.2%	2.0%	1.0%	4.1%	5.5%	4.0%	17.1%	1.1%

⑤スマートフォンや SNS 等の利用状況【問 10】

友人・知人や家族等との連絡手段として、スマートフォンやメール、SNS 等を利用しているかどうかについてたずねたところ、「利用している」が 77.2%、「現在は利用していないが、今後利用したい」が 8.2%、「利用したいと思わない」が 12.8%でした。

図表 59　スマートフォンやメール、SNS 等の利用状況



年齢別の回答を見ると、「65～69 歳」では９割、70 代では８割程度が「利用している」と回答していますが、総じて年齢が高まるほどに「利用している」の割合が低下し、「利用したいと思わない」の割合が高まる傾向が見られます。ただし、「85 歳以上」の方でも 49.5%が「利用している」と回答しており、高齢者への連絡や情報発信において、デジタル機器は有効な手段の１つとなっていることがうかがえます。

なお、男女別・家族構成別の回答については、属性による差異はあまり見られませんでした。

図表 60　スマートフォンやメール、SNS 等の利用状況（男女別・年齢別・家族構成別）

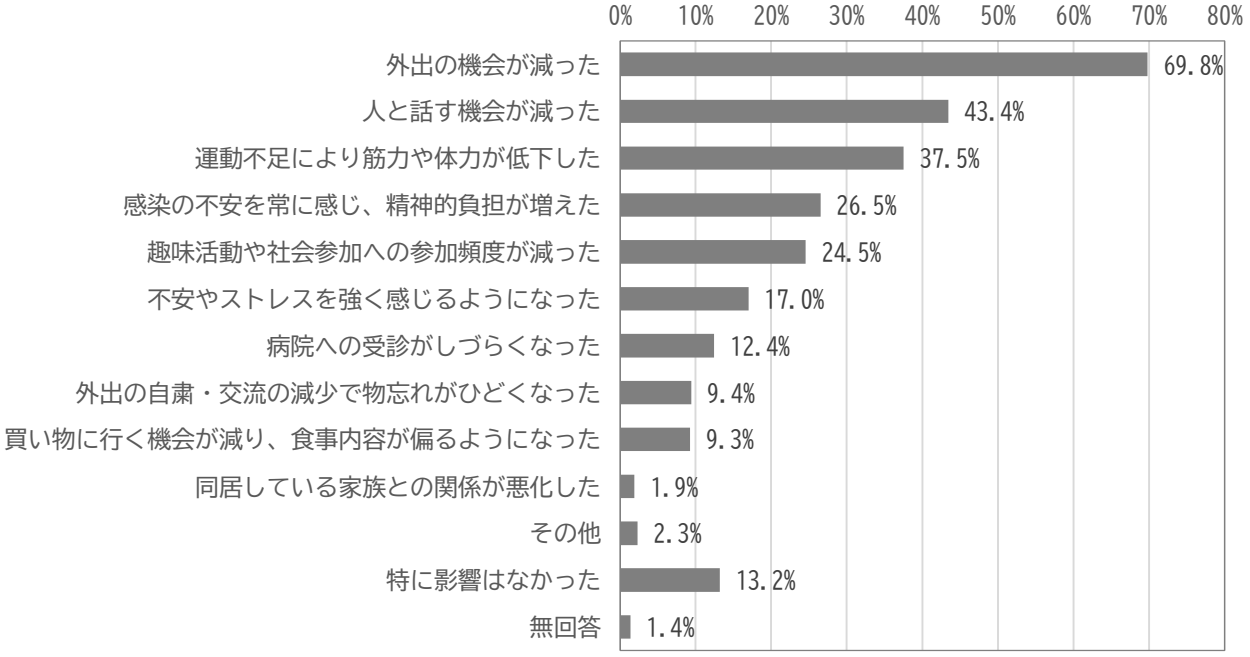
	利用している	現在は利用していないが、今後利用したい	利用したいと思わない	無効回答・無回答
男性	74.2%	10.5%	13.7%	1.6%
女性	79.6%	6.2%	12.0%	2.1%
65～69歳	91.5%	3.5%	3.8%	0.0%
70～74歳	83.2%	6.1%	9.5%	0.1%
75～79歳	74.6%	9.7%	14.3%	0.0%
80～84歳	60.6%	14.1%	21.9%	0.5%
85歳以上	49.5%	14.6%	31.0%	4.9%
1人暮らし	74.5%	10.3%	13.4%	1.7%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	79.8%	8.8%	10.5%	0.9%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	79.2%	6.2%	13.2%	1.4%
息子・娘との2世帯	78.0%	6.8%	13.6%	1.6%
その他	76.8%	5.6%	16.4%	1.2%

⑥新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化【問 11】

新型コロナウイルス感染症の影響により、生活にどのような変化が生じたかたずねたところ、「外出の機会が減った」が 69.8%、「人と話す機会が減った」が 43.4%となっており、他者との交流機会が減少するという影響が出ていることがわかります。また、「運動不足により筋力や体力が低下した」が 37.5%、「感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた」が 26.5%となっており、心身の健康にも悪影響が及んでいることがうかがえます。

年齢別の回答を見ると、概ねの回答傾向はいずれも同様となっていますが、「運動不足により筋力や体力が低下した」や「買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった」との回答について年齢が高いほど回答割合が高まる傾向が見られ、高齢な人ほど、身体の健康に関して影響が出ていることがうかがえます。

図表 61　新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（複数回答）



図表 62　新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（年齢別）

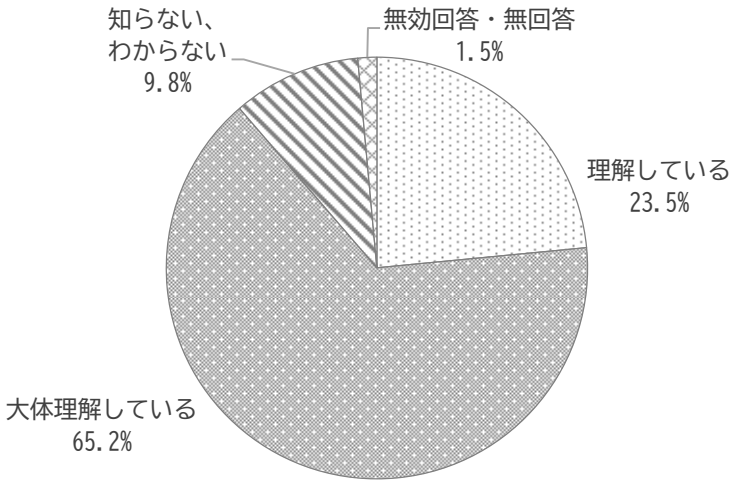
	外出の機会が減った	感染の不安を常に感じ、精神的負担が増えた	人と話す機会が減った	運動不足により筋力や体力が低下した	趣味活動や社会参加への参加頻度が減った	不安やストレスを強く感じるようになった	病院への受診がしづらくなった	買い物に行く機会が減り、食事内容が偏るようになった	外出の自粛・交流の減少で物忘れがひどくなった	同居している家族との関係が悪化した	その他	特に影響はなかった	無回答
65～69歳	70.9%	22.3%	41.2%	30.6%	21.5%	15.5%	14.3%	5.9%	5.4%	1.5%	2.7%	13.7%	1.1%
70～74歳	69.8%	27.0%	43.9%	34.6%	24.8%	16.5%	12.4%	8.0%	7.6%	1.9%	2.3%	13.5%	1.0%
75～79歳	70.1%	27.0%	44.8%	41.1%	27.5%	16.0%	10.8%	10.6%	10.0%	1.8%	1.9%	12.3%	1.0%
80～84歳	69.2%	30.3%	43.9%	43.1%	25.9%	19.8%	11.1%	12.0%	13.6%	2.5%	2.5%	13.1%	2.4%
85歳以上	66.6%	29.5%	43.7%	48.8%	21.7%	20.9%	14.0%	15.4%	18.6%	2.3%	2.0%	13.1%	2.5%

⑦災害への備えや行動に関する理解【問 12】

災害が起きた際に、どのような備えが必要か、また自分がどのように行動すべきかを理解しているかどうかについては、「理解している」が 23.5%、「大体理解している」が 65.2%でした。一方、「知らない、わからない」との回答は 9.8%となっています。

年齢別・家族構成別の回答を見ると、「85 歳以上」や「１人暮らし」の方において「知らない、わからない」の割合がやや高くなっています。

図表 63　災害への備えや行動に関する理解



図表 64　災害への備えや行動に関する理解（年齢別、家族構成別）

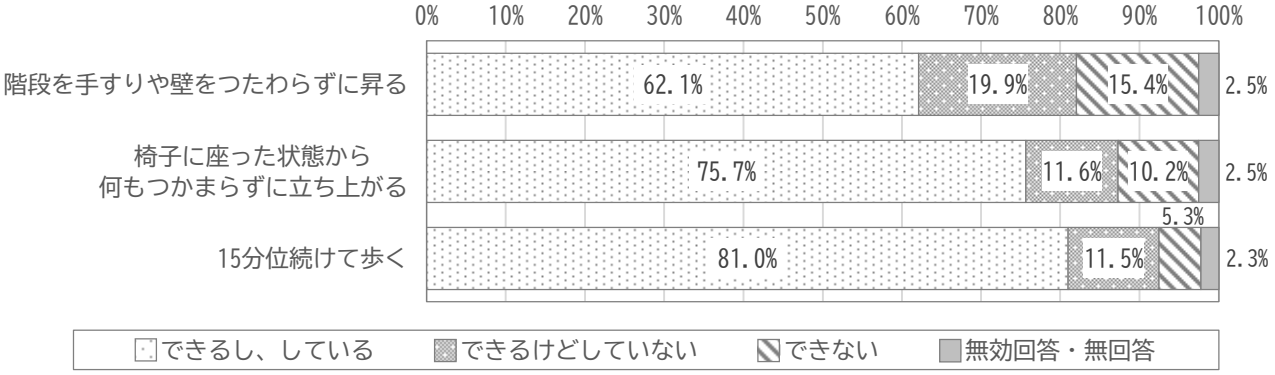
	理解している	大体理解している	知らない、わからない	無効回答・無回答
65～69歳	22.6%	66.3%	9.8%	0.0%
70～74歳	23.2%	66.1%	9.7%	0.0%
75～79歳	25.0%	64.8%	8.8%	0.1%
80～84歳	22.1%	66.1%	9.6%	0.1%
85歳以上	25.6%	57.9%	14.4%	100.0%
1人暮らし	24.3%	61.1%	13.5%	1.1%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	23.3%	66.8%	8.9%	0.9%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	27.1%	66.9%	5.7%	0.3%
息子・娘との2世帯	22.1%	67.1%	10.2%	0.6%
その他	24.1%	66.7%	8.4%	0.8%

（６）運動器の機能や外出の状況

①運動器の機能に関する状況【問 13（１）～問 13（３）】

運動器の機能の状況については、図表 65 のような回答が得られました。「階段を手すりや壁をつたわらずに昇る」という行動については、他の項目に比べ「できない」の割合が高くなっています。

図表 65　運動器の機能に関する状況

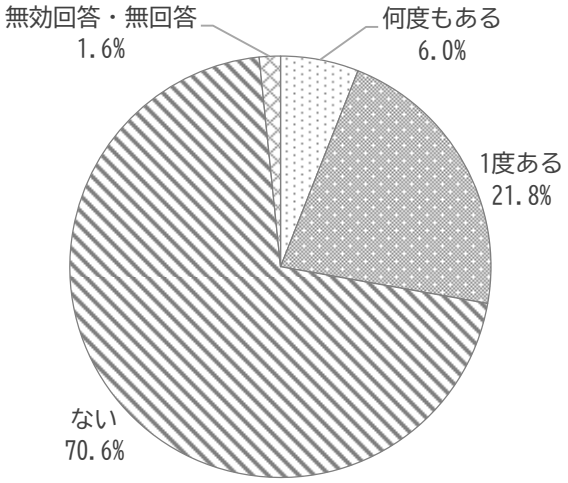


②転んだ経験の有無と転倒に対する不安【問 13（４）、問 13（５）】

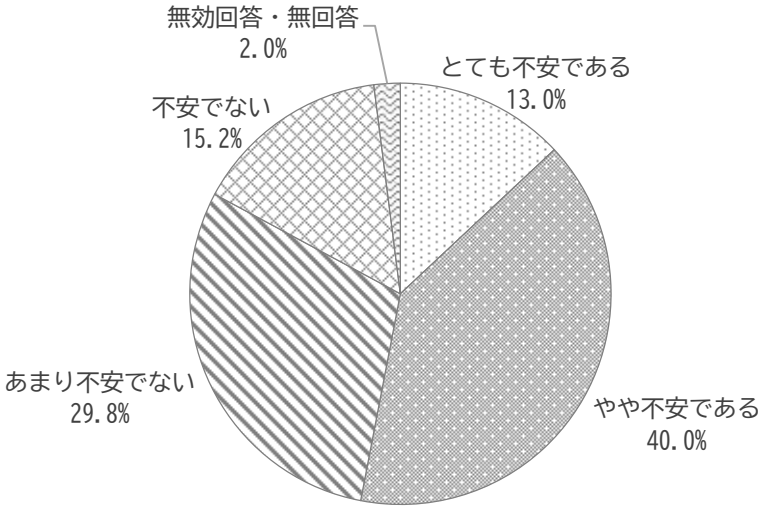
過去 1 年間に転んだ経験があるかどうかについて、「何度もある」は 6.0%、「１度ある」が 21.8%であり、「ない」は 70.6%でした。

また、転倒に対する不安については、「とても不安である」が 13.0%、「やや不安である」が 40.0%であり、53.0%が「不安である」と回答しています。

図表 66　転んだ経験の有無（過去１年間）



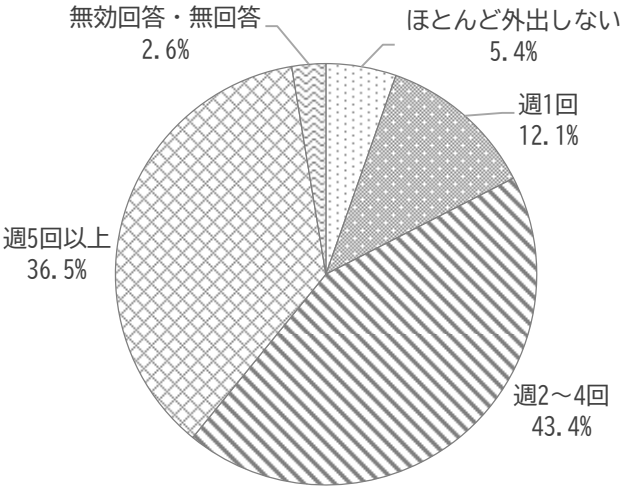
図表 67　転倒に対する不安



③外出の状況【問 13（６）～問 13（９）】

外出の状況については、「週２～４回」が 43.4%と最も多く、次いで「週５日以上」が 36.5%となっています。一方、「ほとんど外出しない」との回答は 5.4%でした。

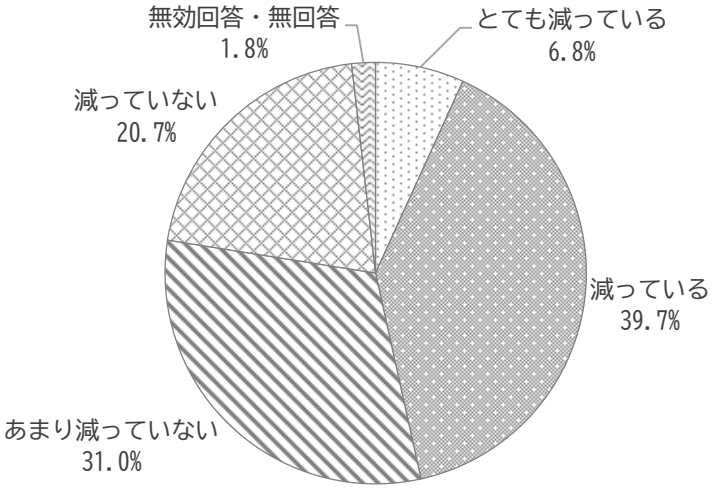
図表 68　外出の頻度



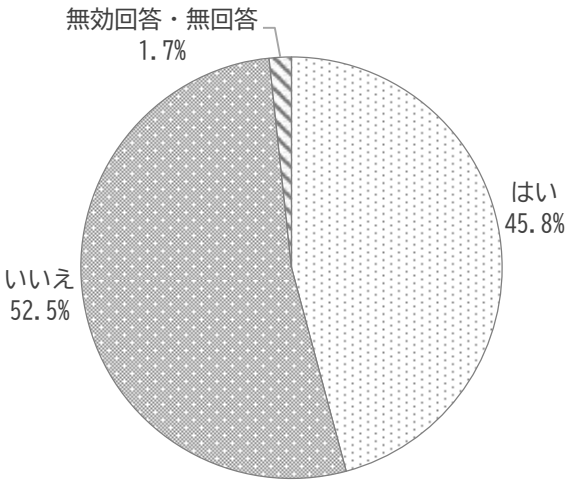
昨年と比べ外出の回数が減っているかどうかたずねたところ、「とても減っている」が 6.8%、「減っている」が 39.7%となっています。

なお、外出を控えているかどうかについては、「はい」が 45.8%、「いいえ」が 52.5%となっています。

図表 69　外出頻度の増減（昨年との比較）

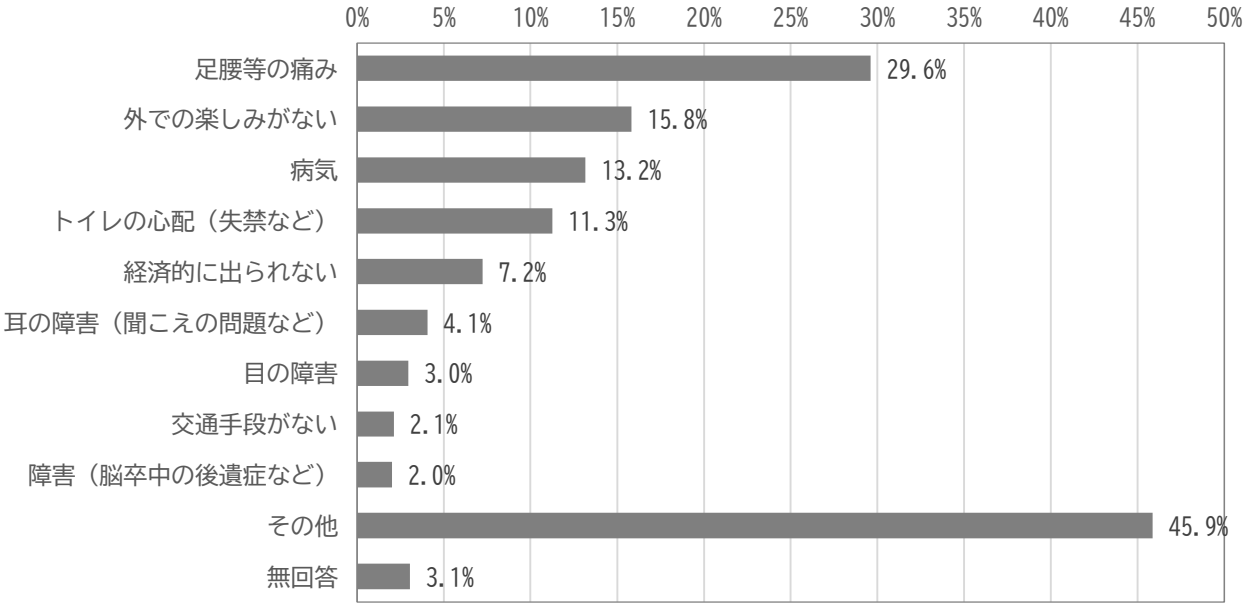


図表 70　外出を控えているかどうか



外出を控えている理由としては、「足腰等の痛み」が 29.6%、「外での楽しみがない」が 15.8%となっています。なお、「その他」の内容については、「新型コロナウイルス感染症の感染予防のため」といった理由が多く挙げられています。

図表 71　外出を控えている理由（複数回答）

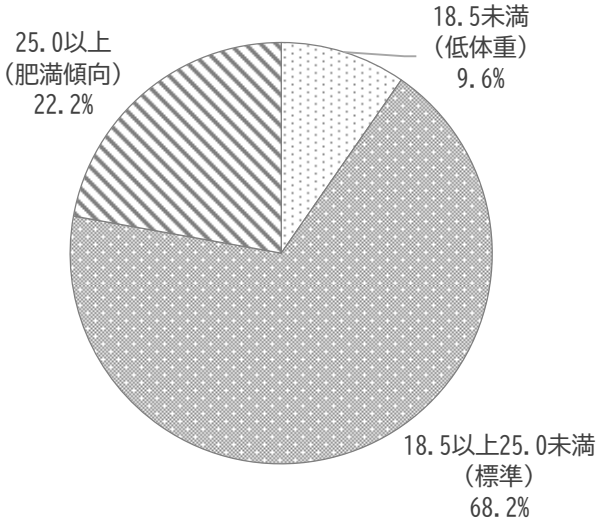


（７）栄養状態や口腔機能等に関する状況

①栄養状態【問 14（１）～問 14（２）】

回答者の身長・体重についての回答に基づき、BMI を算出したところ、「18.5 未満（低体重）」が 9.6%、「18.5 以上 25.0 未満（標準）」が 68.2%、「25.0 以上（肥満傾向）」が 22.2%となっています。

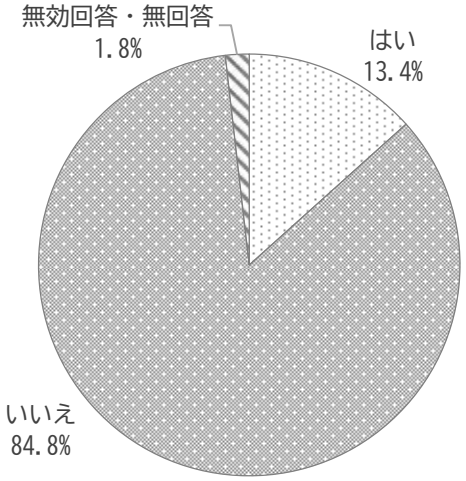
図表 72　回答者の BMI※



※BMI の計算式：体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）
　なお、身長・体重に関する回答のうち、現実的でないと思われる数値は除いて集計

また、６か月間に２～３kg 以上の体重減少があったかどうかたずねたところ、「はい」が 13.4%、「いいえ」が 84.8%でした。

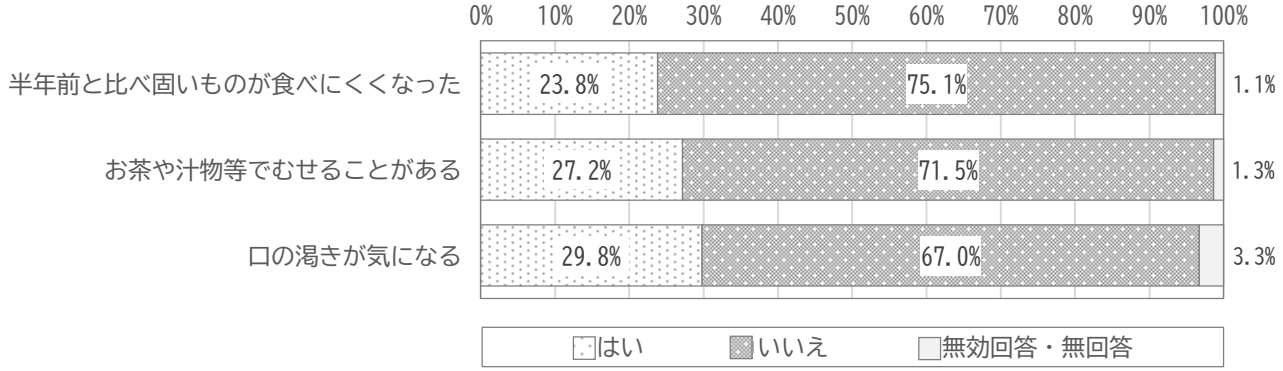
図表 73　２～３kg 以上の体重減少の有無（６か月間）



②口腔機能に関する状況【問 14（３）～問 14（６）】

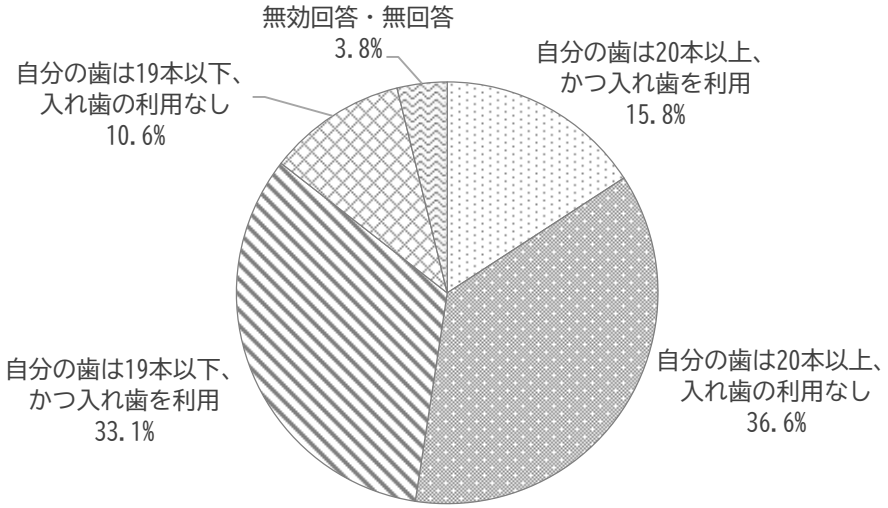
口腔機能に関する質問について、「半年前と比べ固いものが食べにくくなった」との回答は 23.8%、「お茶や汁物等でむせることがある」は 27.2%、「口の渇きが気になる」は 29.8%となっています。

図表 74　口腔機能に関する状況



歯の本数及び入れ歯の利用状況について、「自分の歯は 20 本以上」（「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」の合計）の回答が 52.4%であり、また「入れ歯を利用している」（「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の合計）との回答は 48.9%となっています。

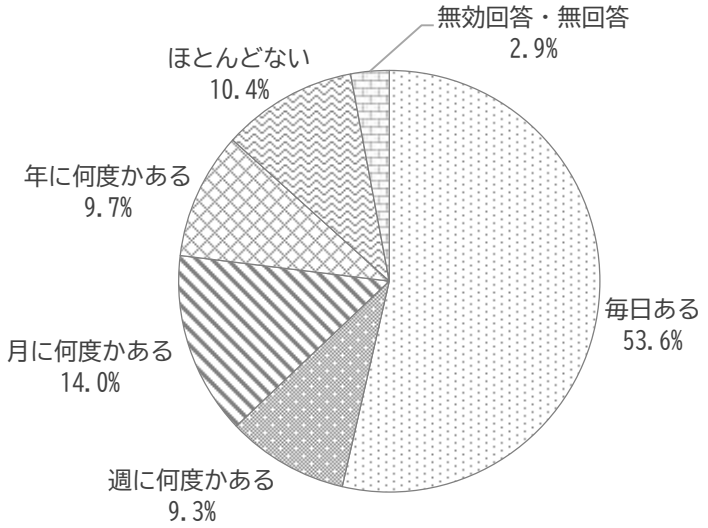
図表 75　歯の本数と入れ歯の利用有無



③誰かと食事をともにすることの頻度【問 14（７）】

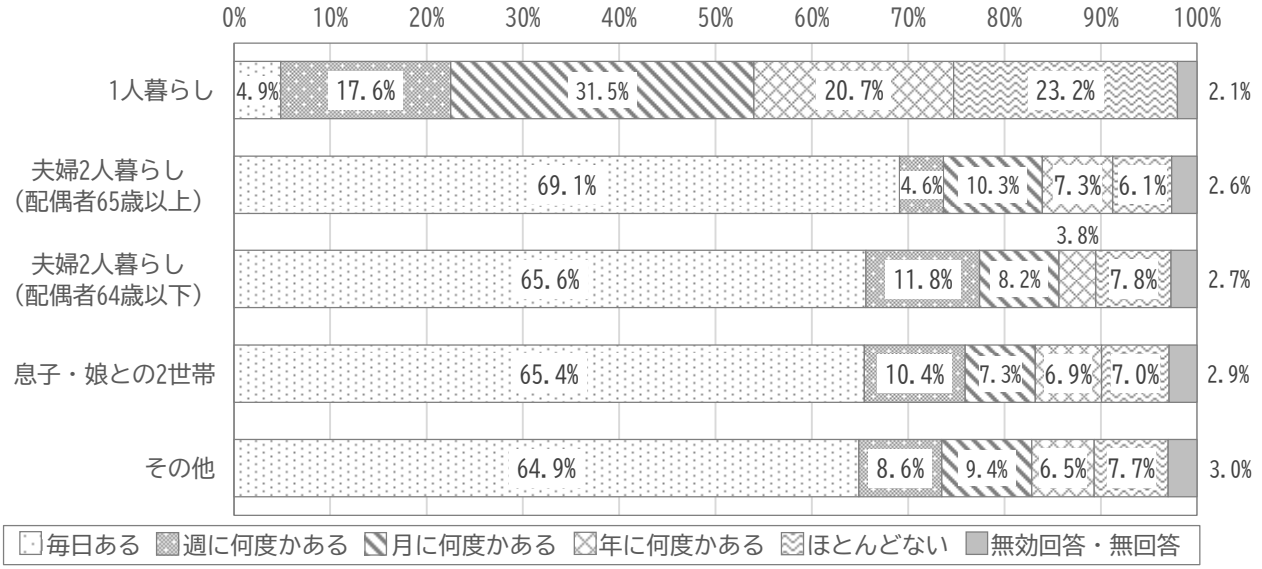
誰かと一緒に食事をする機会があるかどうかについて、「毎日ある」が 53.6%となっている一方、「年に何度かある」、「ほとんどない」といった、頻度の低い回答も見られます。

図表 76　誰かと食事をともにすることの頻度



家族構成別の回答を見ると、同居者がいる場合には「毎日ある」が６～７割であるのに対し、「１人暮らし」では「ほとんどない」が 23.2%、「年に何度かある」が 20.7%であり、１年を通じてほぼ毎日が孤食（ひとりで食事をする）の状態にあるという方の割合が高いことがうかがえます。

図表 77　誰かと食事をともにすることの頻度（家族構成別）

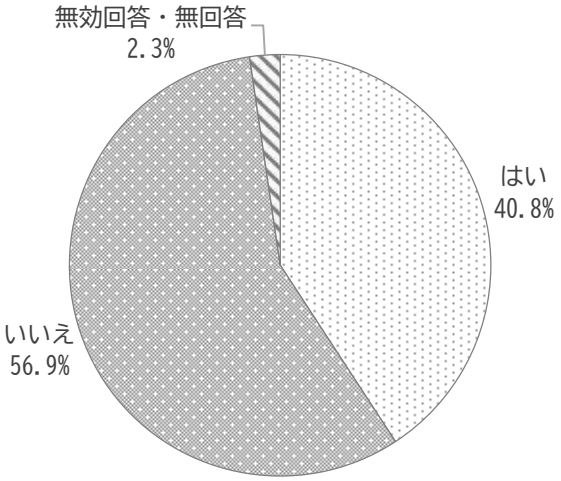


（８）認知機能や手段的日常生活動作（IADL）の状況

①認知機能の低下に関する状況【問 15（１）】

物忘れが多いと感じるかどうかについて、「はい」が 40.8%、「いいえ」が 56.9%となっています。

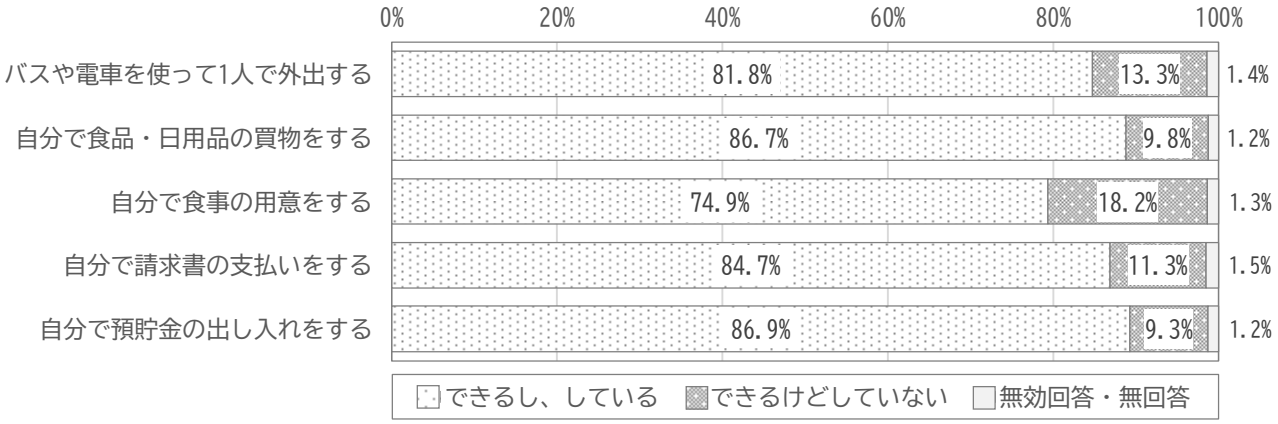
図表 78　物忘れが多いと感じるかどうか



②手段的日常生活動作（IADL）に関する状況【問 15（２）～問 15（６）】

手段的日常生活動作（IADL）に関する状況について、いずれの項目も概ね８～９割程度が「できるし、している」と回答していますが、「自分で食事の用意をする」については他よりも「できるけどしていない」の割合が高くなっています。

図表 79　手段的日常生活動作（IADL）に関する状況



（９）地域とのつながりや近所づきあいに関する状況

①地域活動への参加状況【問 16（１）】

地域で行われている様々な活動への参加状況については、総じて「参加していない」が７～８割程度となっています。一方、「収入のある仕事」や「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」については、活動に参加しているとの回答が比較的多く見られます。

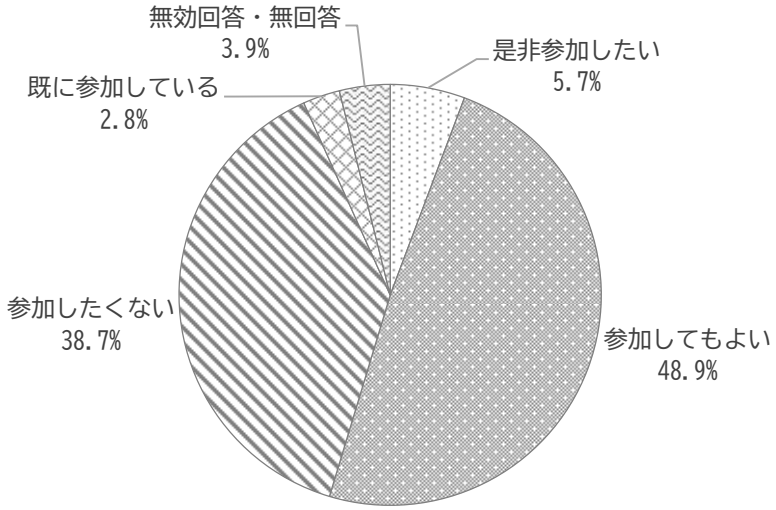
図表 80　地域活動への参加状況

	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場	シニアクラブ	自治会・町会	収入のある仕事
週4回以上	0.3%	3.0%	1.4%	0.4%	0.5%	0.1%	0.2%	20.0%
週2～3回	1.2%	8.0%	3.7%	0.6%	1.1%	0.5%	0.7%	8.0%
週1回	1.3%	5.8%	5.5%	1.9%	1.2%	1.0%	0.7%	1.2%
月1～3回	3.8%	3.7%	10.8%	3.7%	0.7%	1.7%	4.2%	1.8%
年に数回	2.9%	2.2%	5.6%	2.9%	0.4%	1.1%	8.6%	1.3%
参加していない	78.3%	68.2%	64.7%	80.2%	86.2%	85.4%	75.5%	59.2%
無効回答・無回答	12.1%	9.0%	8.5%	10.5%	9.8%	10.2%	10.1%	8.5%

②いきいきした地域づくりへの参加意向【問 16（２）、問 16（３）】

地域住民の有志により、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行い、いきいきした地域づくりを進めることについて、「活動の参加者」として参加してみたいかどうかたずねたところ、「是非参加したい」が 5.7%、「参加してもよい」が 48.9%であり、54.6%が前向きな意向を示しています。

図表 81　いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の参加者として）



地域づくりへの、「活動の参加者」としての参加意向について、年齢別の回答を見ると、年齢が若いほど参加意向が高く、年齢が高くなるにつれて参加意向が低くなる傾向が見られます。なお、80 歳以上でも４割～５割程度が「是非参加したい」・「参加してもよい」と回答しています。

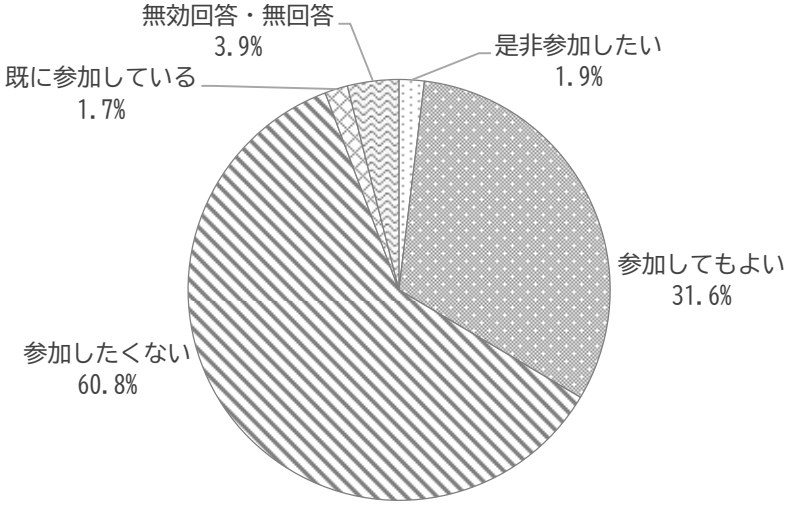
日常生活圏域別の回答を見ると、「是非参加したい」・「参加してもよい」の割合の合計が最も高いのは「田園調布」で 60.5%、次いで「池上」が 60.0%となっています。一方で最も低い「大森東」では 41.9%となっており、地域によって差があることがわかります。

図表 82　いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の参加者として、年齢別・日常生活圏域別）

	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無効回答・無回答
65～69歳	5.4%	53.1%	38.1%	1.5%	1.9%
70～74歳	4.9%	51.1%	39.8%	1.4%	2.8%
75～79歳	6.4%	49.5%	35.6%	4.5%	4.0%
80～84歳	7.5%	43.0%	38.1%	4.0%	7.4%
85歳以上	4.3%	37.6%	46.1%	6.8%	5.2%
大森東	3.2%	38.7%	49.3%	2.8%	6.0%
大森西	5.0%	47.1%	41.6%	0.9%	5.4%
入新井	6.5%	51.5%	36.4%	3.0%	2.6%
馬込	5.2%	47.8%	39.7%	3.4%	3.9%
池上	5.9%	54.1%	31.4%	3.6%	5.0%
新井宿	8.8%	45.4%	40.5%	2.6%	2.6%
嶺町	6.0%	53.5%	34.6%	2.3%	3.7%
田園調布	6.5%	54.0%	34.9%	1.9%	2.8%
鵜の木	8.7%	50.4%	33.5%	2.2%	5.2%
久が原	5.7%	49.6%	38.7%	3.0%	3.0%
雪谷	5.0%	52.0%	37.1%	1.8%	4.1%
千束	7.6%	47.1%	38.2%	1.8%	5.3%
糀谷	5.3%	46.5%	42.5%	2.7%	3.1%
羽田	4.5%	42.9%	44.6%	4.0%	4.0%
六郷	5.4%	48.0%	39.5%	3.6%	3.6%
矢口	7.4%	51.3%	35.2%	3.0%	3.0%
蒲田西	5.9%	51.8%	36.0%	2.3%	4.1%
蒲田東	4.2%	44.9%	43.5%	5.1%	2.3%

また、こうした活動について、「企画・運営（お世話役）」として参加してみたいと思うかどうかについては、「参加したくない」が 60.8%であり、消極的な意見のほうが多くなっています。一方で「是非参加したい」は 1.9%、「参加してもよい」は 31.6%であり、活動の担い手としての参加意向を持っている方も少なくないことがうかがえます。

図表 83　いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の企画・運営者として）



年齢別の回答を見ると、年齢が若いほど「参加してもよい」の割合が高く、年齢が高くなるにつれて参加意向が低くなる傾向が見られます。なお、80 歳以上でも２～３割程度が「是非参加したい」・「参加してもよい」と回答しています。

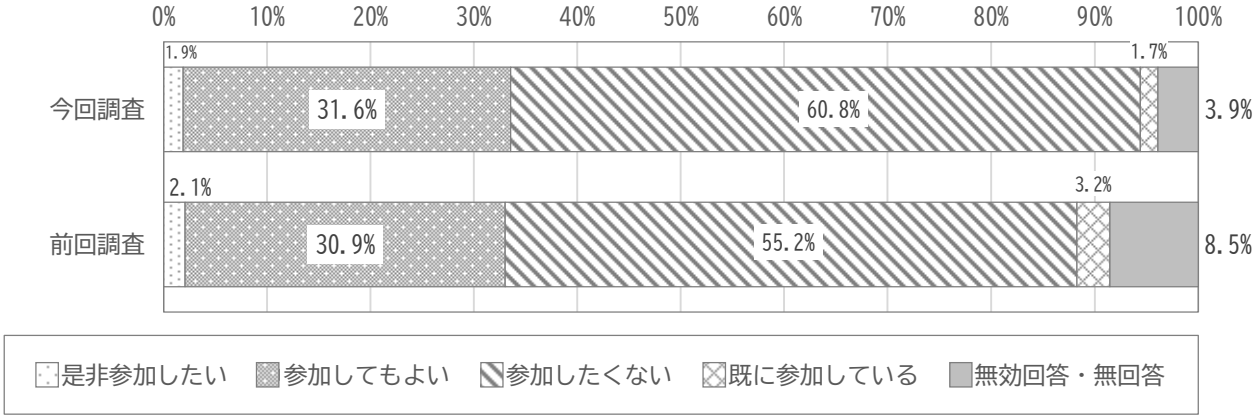
日常生活圏域別の回答を見ると、「是非参加したい」・「参加してもよい」の割合の合計が最も高いのは「新井宿」・「蒲田西」でともに 40.1%、次いで「久が原」が 38.7%となっています。一方で最も低い「大森東」では 26.7%となっており、地域によって差があることがわかります。

図表 84　いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の企画・運営者として、年齢別・日常生活圏域別）

	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無効回答・無回答
65～69歳	2.0%	34.6%	60.0%	1.3%	2.0%
70～74歳	2.0%	32.6%	62.3%	0.7%	2.3%
75～79歳	2.1%	32.4%	58.7%	2.6%	4.3%
80～84歳	1.7%	28.9%	58.9%	2.7%	7.8%
85歳以上	1.5%	21.3%	67.4%	7.1%	2.8%
大森東	0.9%	25.8%	67.7%	1.4%	4.1%
大森西	2.3%	26.2%	63.8%	1.4%	6.3%
入新井	3.0%	29.9%	61.0%	2.6%	3.5%
馬込	1.7%	29.7%	62.5%	2.2%	3.9%
池上	4.5%	30.9%	59.1%	2.3%	3.2%
新井宿	1.8%	38.3%	55.9%	2.2%	1.8%
嶺町	1.4%	32.7%	58.5%	1.4%	6.0%
田園調布	3.3%	34.4%	57.7%	0.5%	4.2%
鵜の木	4.8%	33.0%	56.5%	0.0%	5.7%
久が原	1.7%	37.0%	55.2%	1.7%	4.3%
雪谷	1.4%	28.5%	63.8%	1.4%	5.0%
千束	0.9%	34.7%	57.3%	2.7%	4.4%
糀谷	1.3%	32.3%	60.6%	2.2%	3.5%
羽田	0.9%	27.2%	65.6%	2.7%	3.6%
六郷	1.3%	31.4%	62.8%	1.3%	3.1%
矢口	1.7%	34.8%	58.3%	2.2%	3.0%
蒲田西	1.4%	38.7%	55.4%	1.4%	3.2%
蒲田東	1.4%	29.2%	64.8%	1.9%	2.8%

前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「参加したくない」の割合が前回より 5.6 ポイント高くなっています。

図表 85　いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の企画・運営者として、前回調査との比較）



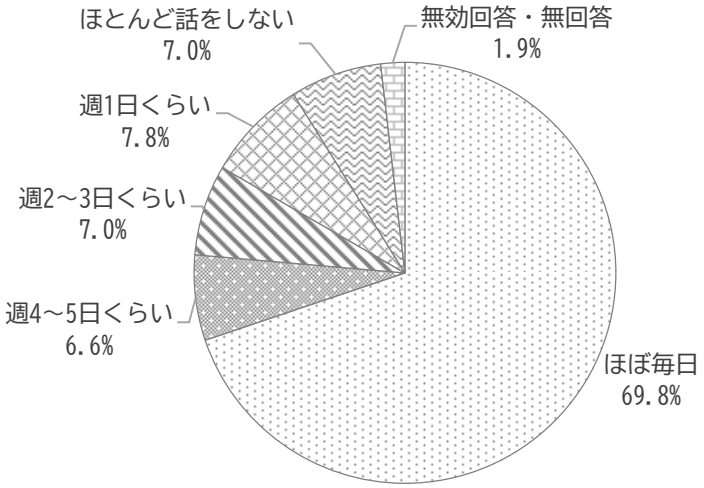
③家族や知人、近所とのつきあいの状況【問 17（１）、問 17（７）】

ふだん、家族・親族や知人等と話をする頻度（メールや電話を含む）について、「ほぼ毎日」が 69.8%となっていますが、一方で「ほとんど話をしない」が 7.0%であり、誰かと話をする頻度が低いという回答も見られます。

家族構成別の回答を見ると、「１人暮らし」の方については「週１日くらい」、「ほとんど話をしない」との回答が合わせて 37.9%となっており、頻度が低いことがうかがえます。

日常生活圏域別の回答では、総じて「ほぼ毎日」、「週４～５日くらい」との回答が７～８割程度となっています。

図表 86　家族・親族や知人等と話をする頻度（メールや電話を含む）

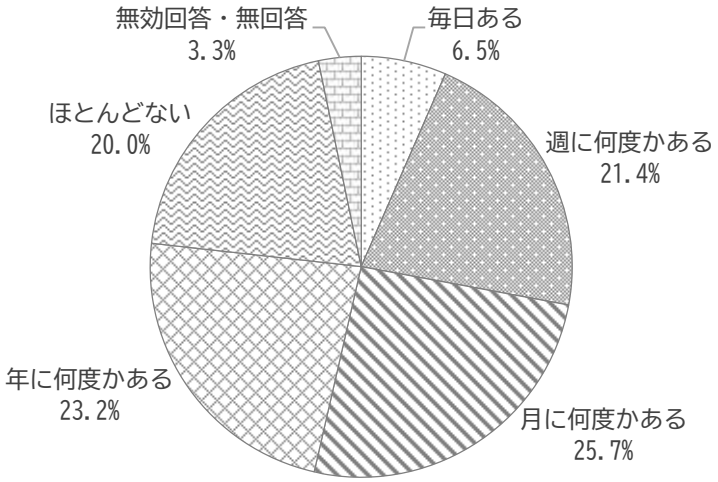


図表 87　家族・親族や知人等と話をする頻度（メールや電話を含む、家族構成別、日常生活圏域別）

	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	ほとんど話をしない	無効回答・無回答
1人暮らし	28.7%	14.0%	16.2%	19.2%	18.7%	3.2%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	79.7%	4.3%	5.6%	5.5%	3.8%	1.1%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	78.5%	6.1%	2.9%	4.6%	7.1%	0.8%
息子・娘との2世帯	82.4%	4.8%	4.9%	3.6%	3.6%	0.8%
その他	82.9%	4.6%	3.3%	4.5%	3.4%	1.4%
大森東	71.9%	6.5%	4.6%	7.4%	7.8%	1.8%
大森西	63.8%	7.2%	6.3%	8.1%	11.3%	3.2%
入新井	74.9%	5.6%	5.6%	5.2%	5.6%	3.0%
馬込	71.1%	6.0%	5.6%	6.9%	9.1%	1.3%
池上	70.9%	5.5%	9.5%	5.5%	6.8%	1.8%
新井宿	69.2%	7.0%	7.5%	8.4%	6.6%	1.3%
嶺町	71.0%	5.1%	7.4%	6.9%	6.5%	3.2%
田園調布	75.3%	7.0%	4.7%	6.0%	5.1%	1.9%
鵜の木	68.7%	8.7%	7.8%	8.7%	3.5%	2.6%
久が原	70.9%	7.8%	5.7%	6.5%	7.4%	1.7%
雪谷	72.9%	6.8%	6.3%	9.5%	2.7%	1.8%
千束	69.8%	9.3%	7.1%	6.2%	5.3%	2.2%
糀谷	68.1%	8.8%	8.0%	4.9%	8.0%	2.2%
羽田	67.9%	3.6%	9.4%	12.1%	5.8%	1.3%
六郷	71.3%	4.5%	6.3%	8.5%	7.6%	1.8%
矢口	65.2%	7.8%	11.7%	7.4%	7.0%	0.9%
蒲田西	68.9%	5.9%	5.0%	10.8%	9.0%	0.5%
蒲田東	69.4%	8.8%	6.9%	6.9%	6.0%	1.9%

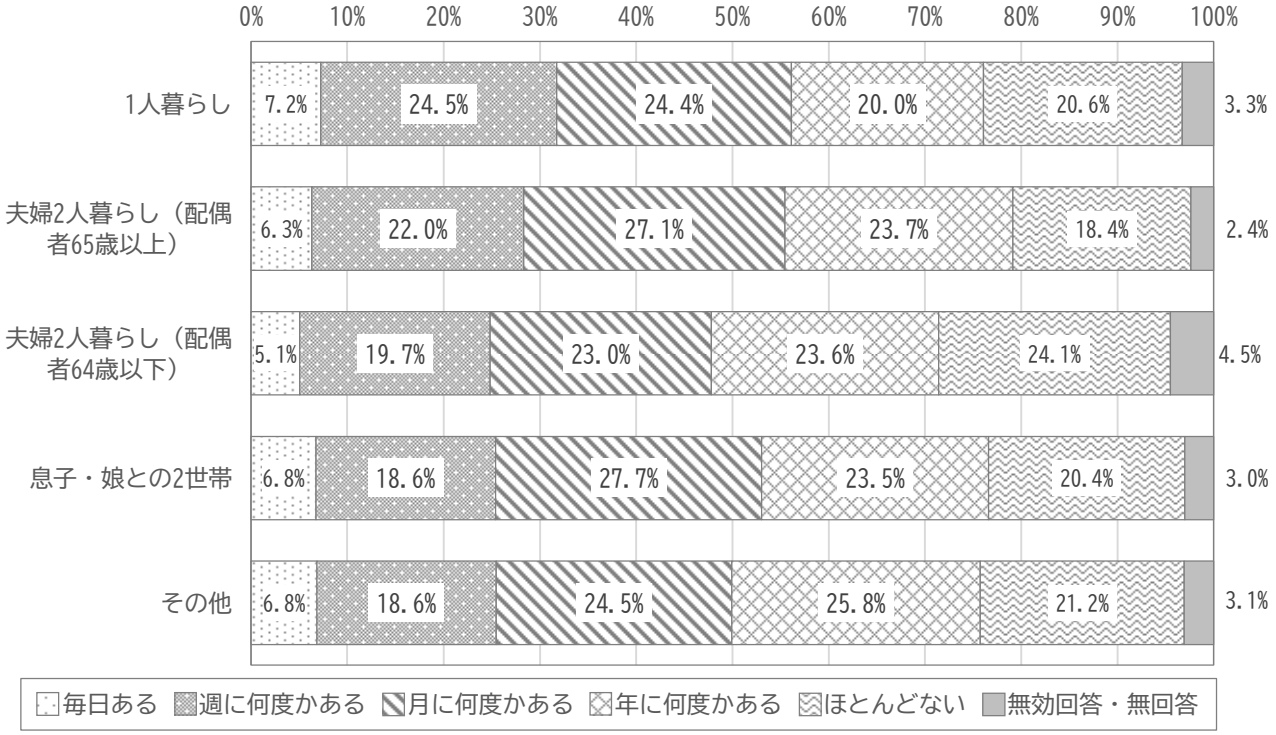
また、友人・知人と会う頻度については、「毎日ある」が 6.5%、「週に何度かある」が 21.4%となっている一方、「ほとんどない」が 20.0%、「年に何度かある」が 23.2%であり、頻度が低いという回答も多く見られます。

図表 88　友人・知人と会う頻度



友人・知人と会う頻度についての家族構成別の頻度は以下のとおりであり、家族形態に関わらず、４～５割程度は「ほとんどない」、「年に何度かある」といった頻度の低い回答となっています。

図表 89　友人・知人と会う頻度（家族構成別）



④近所とのつきあいの状況【問 17（２）】

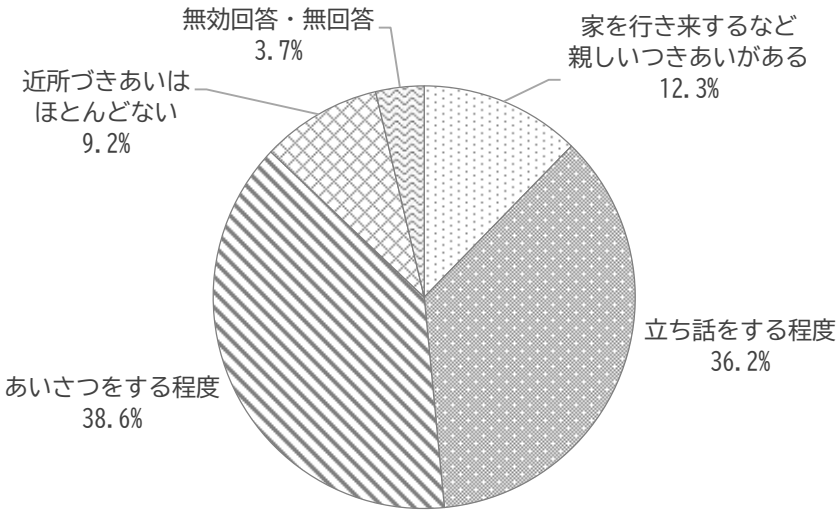
近所づきあいの程度について、「あいさつをする程度」が 38.6%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が 36.2%でした。一方、「近所づきあいはほとんどない」は 9.2%となっています。

男女別の回答を見ると、女性のほうが「家を行き来するなど親しいつきあいがある」や「立ち話をする程度」の割合が高く、男性よりも近所づきあいの程度が高いことがうかがえます。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほうが「家を行き来するなど親しいつきあいがある」の割合が高く、一方で「近所づきあいはほとんどない」との回答の割合は「65～69 歳」が最も高くなっています。

また、家族構成別の回答結果を見ると、「１人暮らし」の方で「近所づきあいはほとんどない」との回答が 17.1%となっており、孤立のリスクが高い環境にある方が一定数存在していることがうかがえます。

図表 90　近所づきあいの程度



図表 91　近所づきあいの程度（男女別・年齢別・家族構成別）

	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはほとんどない	無効回答・無回答
男性	6.7%	29.0%	49.5%	12.2%	2.7%
女性	16.7%	42.3%	29.6%	6.9%	4.4%
65～69歳	9.2%	30.9%	46.1%	12.1%	1.8%
70～74歳	9.8%	36.3%	42.4%	9.0%	2.6%
75～79歳	13.4%	41.3%	33.5%	7.3%	4.5%
80～84歳	16.9%	37.1%	31.4%	8.6%	6.1%
85歳以上	19.4%	35.9%	30.0%	8.3%	6.5%
1人暮らし	13.9%	29.6%	35.1%	17.1%	4.2%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	11.9%	38.8%	40.5%	6.4%	2.4%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	7.9%	25.8%	45.8%	16.7%	3.8%
息子・娘との2世帯	11.2%	39.5%	38.2%	7.3%	3.7%
その他	12.8%	38.8%	37.5%	6.7%	4.2%

日常生活圏域別の回答結果を見ると、「家を行き来するなど親しいつきあいがある」の割合が最も高いのは「大森東」で 18.4%、次いで「矢口」が 16.1%となっていますが、対して最も低い「入新井」では 8.2%となっており、地域によって差が見られます。なお、「近所づきあいはほとんどない」の割合については、「蒲田東」が 16.7%と最も高く、次いで「新井宿」が 12.8%となっています。

図表 92　近所づきあいの程度（日常生活圏域別）

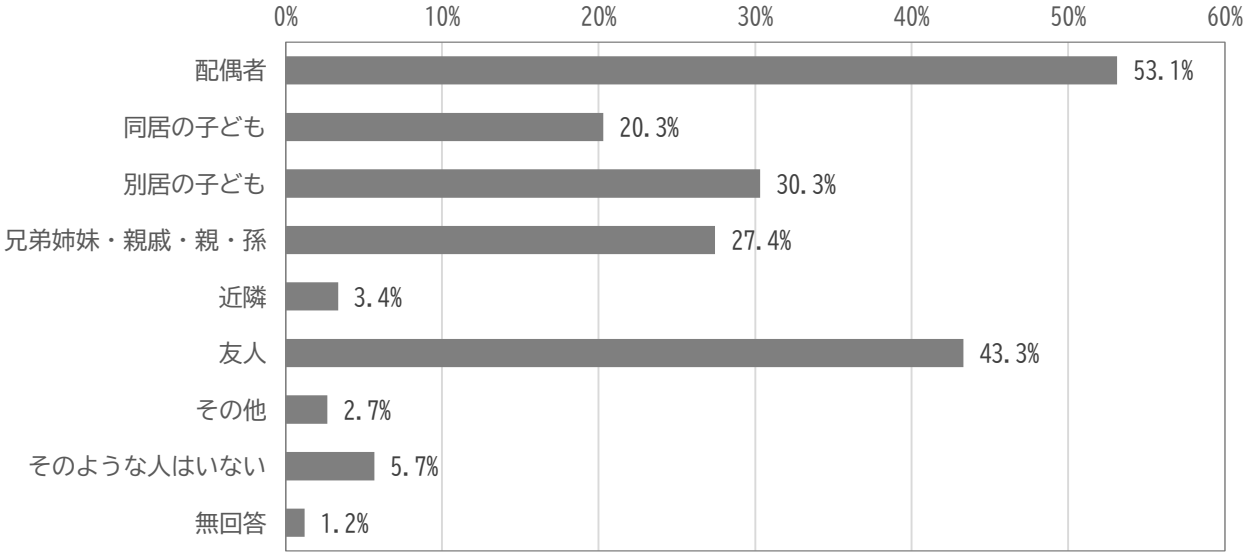
	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはほとんどない	無効回答・無回答
大森東	18.4%	34.1%	34.1%	8.3%	5.1%
大森西	14.9%	35.7%	38.9%	5.9%	4.5%
入新井	8.2%	45.5%	31.2%	11.7%	3.5%
馬込	10.3%	37.1%	41.4%	8.6%	2.6%
池上	12.7%	39.1%	37.3%	7.7%	3.2%
新井宿	11.5%	40.5%	31.7%	12.8%	3.5%
嶺町	9.2%	35.0%	46.1%	7.4%	2.3%
田園調布	9.3%	32.1%	48.4%	7.9%	2.3%
鵜の木	11.7%	33.9%	38.7%	9.1%	6.5%
久が原	10.9%	36.1%	38.3%	12.6%	2.2%
雪谷	8.6%	38.9%	36.7%	10.0%	5.9%
千束	11.1%	38.2%	41.3%	5.3%	4.0%
糀谷	11.1%	36.7%	40.3%	8.8%	3.1%
羽田	13.8%	38.8%	39.7%	5.4%	2.2%
六郷	13.0%	36.8%	37.7%	8.5%	4.0%
矢口	16.1%	31.3%	38.3%	10.4%	3.9%
蒲田西	13.1%	30.2%	43.7%	9.9%	3.2%
蒲田東	15.3%	31.9%	32.4%	16.7%	3.7%

⑤まわりの人との「助け合い」の状況【問 17（３）～問 17（６）】

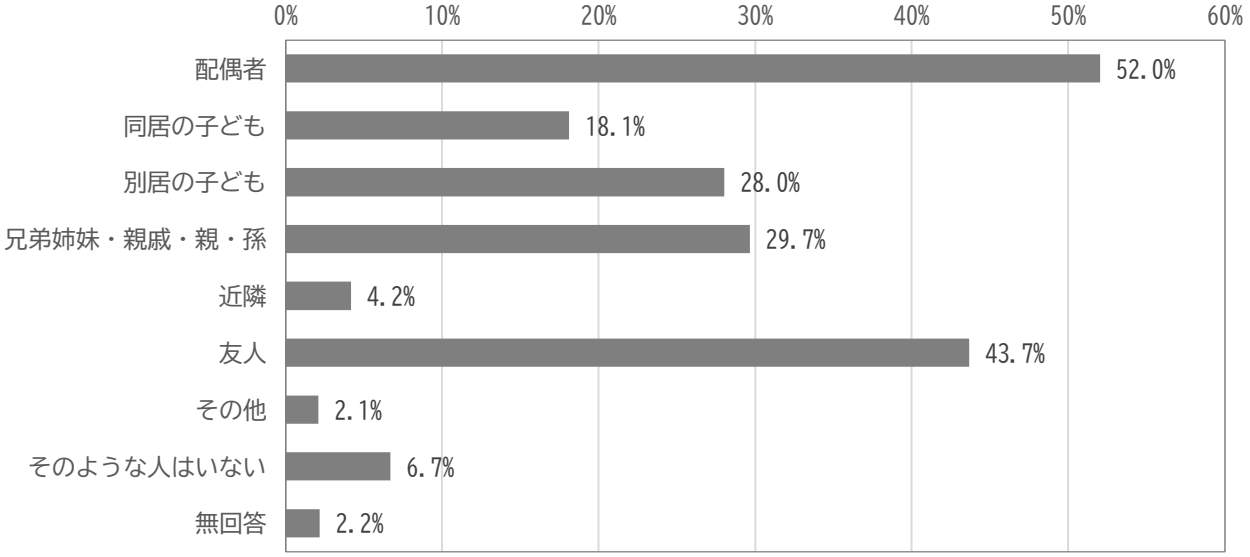
心配ごとや愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 53.1%と最も多く、次いで「友人」が 43.3%となっています。

なお、反対に心配ごとや愚痴を聞いてあげる相手については、「配偶者」が 52.0%と最も多く、次いで「友人」が 43.7%であり、総じて同様の結果となっています。

図表 93　愚痴を聞いてくれる相手（複数回答）



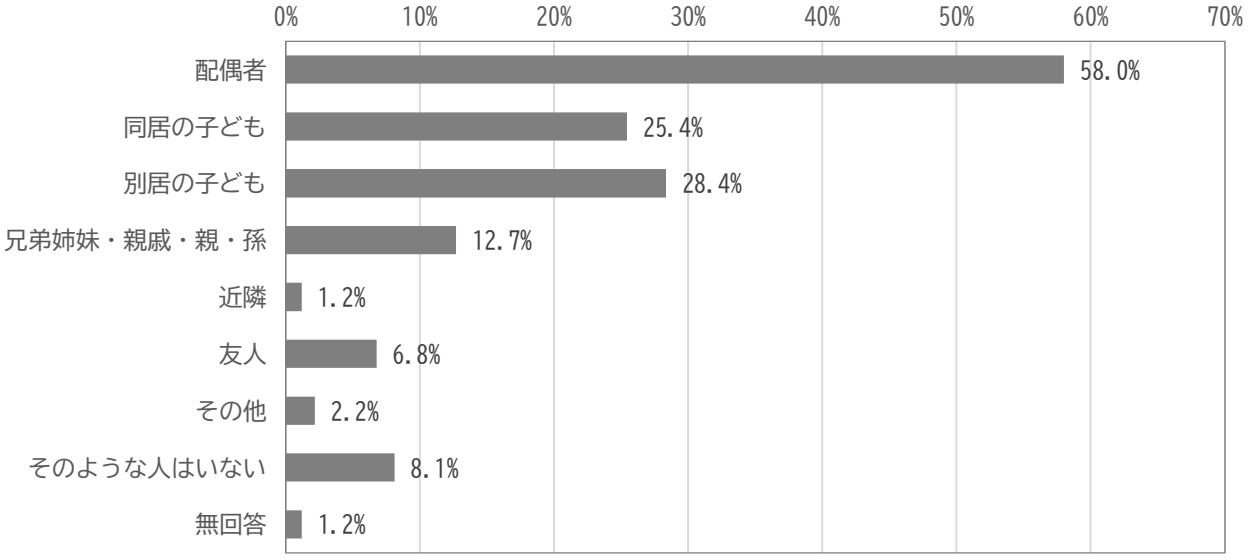
図表 94　愚痴を聞いてあげる相手（複数回答）



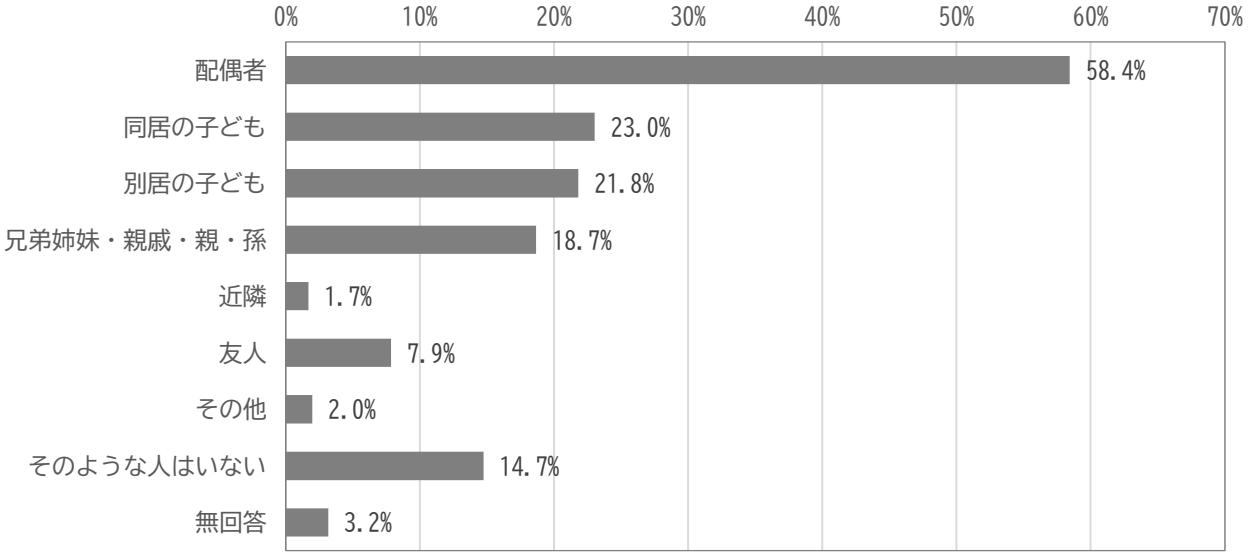
看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 58.0%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 28.4%、「同居の子ども」が 25.4%となっていますが、家族以外の割合は低くなっています。

逆に看病や世話をしてあげる相手については、「配偶者」が 58.4%と最も多く、次いで「同居の子ども」が 23.0%、「別居の子ども」が 21.8%であり、こちらも家族以外の割合は低く、「そのような人はいない」という回答は 14.7%となっています。

図表 95　看病や世話をしてくれる相手（複数回答）



図表 96　看病や世話をしてあげる相手（複数回答）



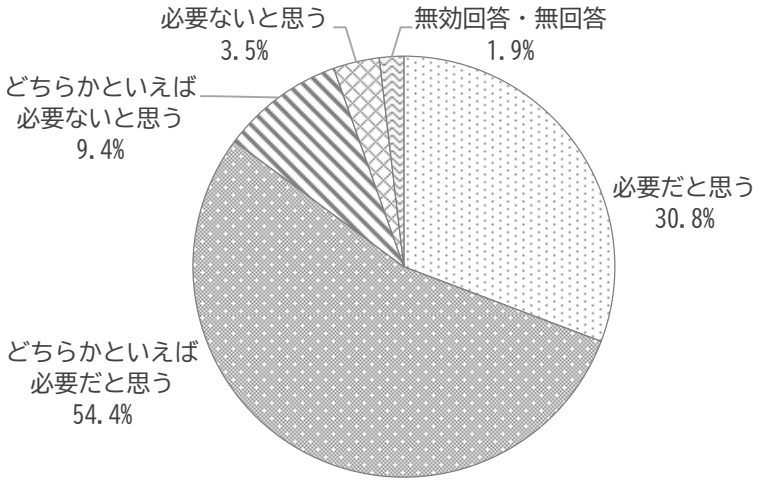
⑥地域のつながりの必要性に対する考え【問 18、問 19】

日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合い等）の必要性についてどのように感じているかたずねたところ、「必要だと思う」が 30.8%、「どちらかといえば必要だと思う」が 54.4%であり、必要性を感じているとの回答が 85.2%となっています。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「必要だと思う」の割合が高まる傾向が見られます。

また日常生活圏域別では、「必要だと思う」の割合が最も高いのは「蒲田西」で 37.8%、次いで「六郷」が 35.4%となっています。

図表 97　地域のつながりの必要性に対する考え

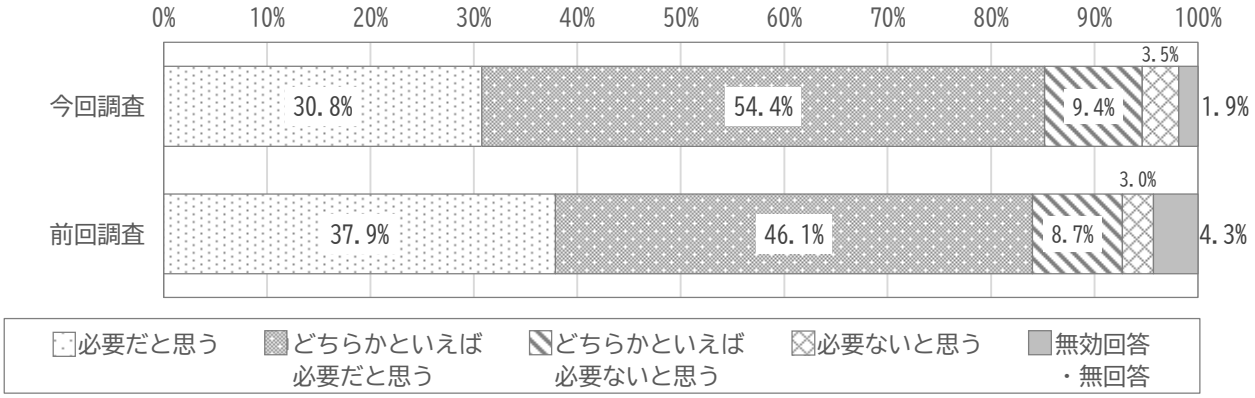


図表 98　地域のつながりの必要性に対する考え（年齢別・日常生活圏域別）

	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	必要ないと思う	無効回答・無回答
65～69歳	28.5%	58.2%	9.5%	2.5%	1.2%
70～74歳	28.3%	55.9%	10.4%	4.2%	1.2%
75～79歳	32.0%	54.3%	9.1%	2.4%	2.2%
80～84歳	36.0%	47.6%	8.8%	4.6%	2.9%
85歳以上	33.7%	49.9%	7.5%	2.6%	6.2%
大森東	35.0%	47.9%	9.7%	4.1%	3.2%
大森西	27.6%	57.5%	8.6%	3.6%	2.7%
入新井	28.1%	58.0%	8.7%	3.0%	2.2%
馬込	31.0%	53.0%	11.6%	1.7%	2.6%
池上	34.1%	53.6%	9.1%	2.3%	0.9%
新井宿	24.7%	65.2%	5.3%	3.1%	1.8%
嶺町	25.3%	57.6%	12.0%	3.7%	1.4%
田園調布	25.1%	56.3%	11.6%	5.1%	1.9%
鵜の木	34.3%	51.3%	8.3%	2.6%	3.5%
久が原	33.9%	53.9%	7.4%	3.5%	1.3%
雪谷	23.5%	61.1%	10.4%	2.3%	2.7%
千束	29.8%	54.7%	11.1%	2.2%	2.2%
糀谷	27.0%	59.3%	9.3%	3.5%	0.9%
羽田	29.5%	53.6%	8.0%	7.1%	1.8%
六郷	35.4%	49.3%	8.1%	4.9%	2.2%
矢口	34.3%	50.9%	10.9%	3.5%	0.4%
蒲田西	37.8%	47.7%	9.0%	3.6%	1.8%
蒲田東	30.1%	55.1%	11.1%	3.2%	0.5%

前回調査の結果と比較すると、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計には前回調査結果と大きな差は見られませんが、「必要だと思う」の割合が 7.1 ポイント低下し、一方で「どちらかといえば必要だと思う」が 8.3 ポイント上昇しており、回答の内訳には変化が見られます。

図表 99　地域のつながりの必要性に対する考え（前回調査との比較）

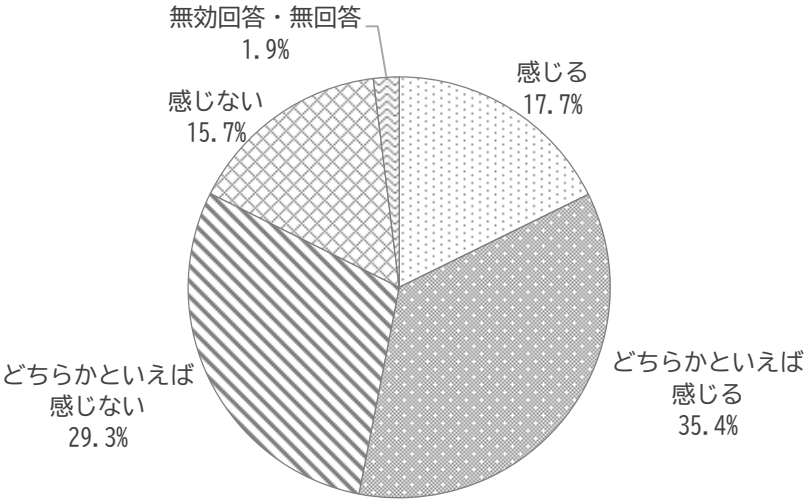


一方、日々の暮らしの中で、地域のつながりを実際に感じることがあるかどうかについては、「感じる」が 17.7%、「どちらかといえば感じる」が 35.4%であり、実感しているとの回答は 53.1%となっています。必要性を感じているとの回答と比べ、実感しているとの回答の割合が低いという結果となっており、理想と現実との乖離があることがうかがえます。

年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「感じる」の割合が高まる傾向が見られます。

また日常生活圏域別では、「感じる」の割合が最も高いのは「大森東」で 22.6%、次いで「蒲田西」が 22.1%となっています。一方、「田園調布」では「感じる」の割合が 11.6%、「雪谷」では 11.3%であり、地域によって差が見られます。

図表 100　地域のつながりを実感することの有無

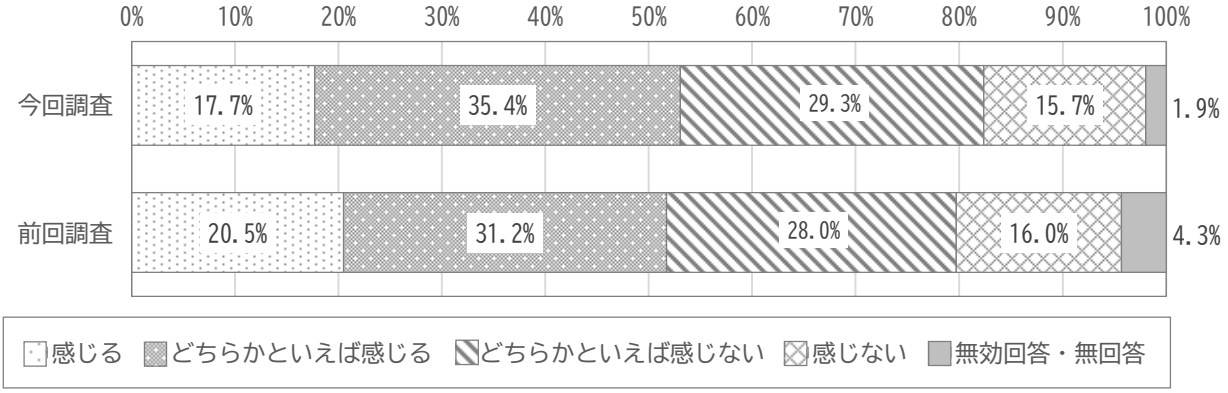


図表 101　地域のつながりを実感することの有無（年齢別・日常生活圏域別）

	感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	無効回答・無回答
65～69歳	13.1%	34.5%	34.5%	16.5%	1.4%
70～74歳	15.0%	34.3%	33.0%	16.5%	1.1%
75～79歳	19.6%	36.2%	27.8%	14.4%	1.9%
80～84歳	21.2%	38.7%	21.2%	14.8%	4.0%
85歳以上	29.8%	32.7%	19.4%	2.2%	15.9%
大森東	22.6%	35.5%	27.2%	12.4%	2.3%
大森西	19.0%	32.1%	30.8%	16.7%	1.4%
入新井	17.3%	35.1%	29.4%	16.0%	2.2%
馬込	13.8%	32.3%	35.8%	13.8%	4.3%
池上	20.0%	35.9%	30.9%	11.8%	1.4%
新井宿	15.9%	36.6%	29.5%	16.7%	1.3%
嶺町	12.0%	33.2%	36.4%	15.7%	2.8%
田園調布	11.6%	39.1%	27.0%	20.9%	1.4%
鵜の木	17.4%	37.4%	24.8%	18.3%	2.2%
久が原	21.7%	33.9%	25.7%	17.8%	0.9%
雪谷	11.3%	35.3%	34.4%	16.7%	2.3%
千束	18.7%	36.0%	25.8%	17.8%	1.8%
糀谷	13.3%	44.2%	26.1%	13.3%	3.1%
羽田	19.2%	37.9%	26.8%	14.3%	1.8%
六郷	20.6%	34.1%	29.6%	13.5%	2.2%
矢口	19.1%	31.7%	30.4%	17.4%	1.3%
蒲田西	22.1%	36.9%	23.9%	15.8%	1.4%
蒲田東	18.5%	34.7%	27.8%	18.1%	0.9%

前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「感じる」の割合が 2.8 ポイント低下し、「どちらかと言えば感じる」が 4.2 ポイント上昇しています。

図表 102　地域のつながりを実感することの有無（前回調査との比較）



（10）心身の健康に関する状況

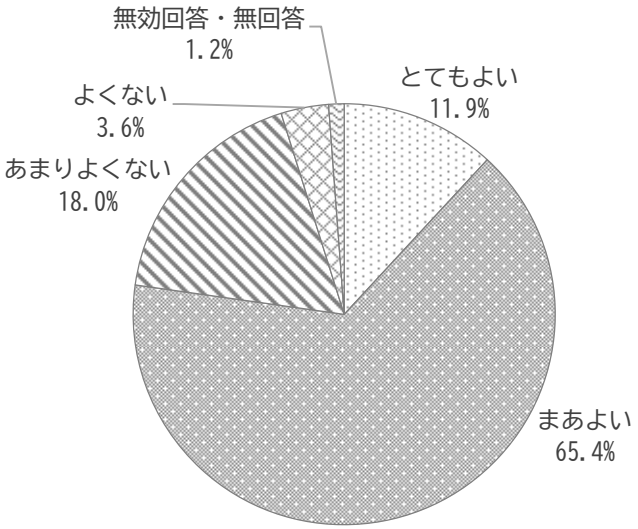
①現在の健康状態【問 20（１）】

現在の健康状態については、「とてもよい」が 11.9%、「まあよい」が 65.4%であり、77.3%が「健康状態がよい」と回答しています。

なお、年齢別の回答を見ると、年齢が高くなるほど「健康状態がよくない」との回答割合が高まる傾向が見られます。

また、問５、問６において「趣味あり」･「生きがいあり」と回答した方については、「思いつかない」と回答した方に比べ「とてもよい」や「まあよい」の割合が高くなっています。

図表 103　現在の健康状態



図表 104　現在の健康状態（年齢別・趣味の有無別・生きがいの有無別）

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無効回答・無回答
65～69歳	13.6%	67.9%	15.1%	2.7%	0.7%
70～74歳	13.2%	68.8%	14.5%	2.8%	0.8%
75～79歳	12.5%	63.7%	18.5%	3.6%	1.6%
80～84歳	8.1%	62.0%	22.6%	5.0%	2.2%
85歳以上	6.7%	55.9%	29.3%	7.4%	0.7%
趣味あり	14.6%	68.5%	13.8%	2.3%	0.8%
思いつかない	6.3%	60.2%	26.1%	6.2%	1.1%
生きがいあり	16.9%	68.3%	12.1%	1.8%	0.8%
思いつかない	5.1%	61.9%	26.0%	6.1%	0.8%

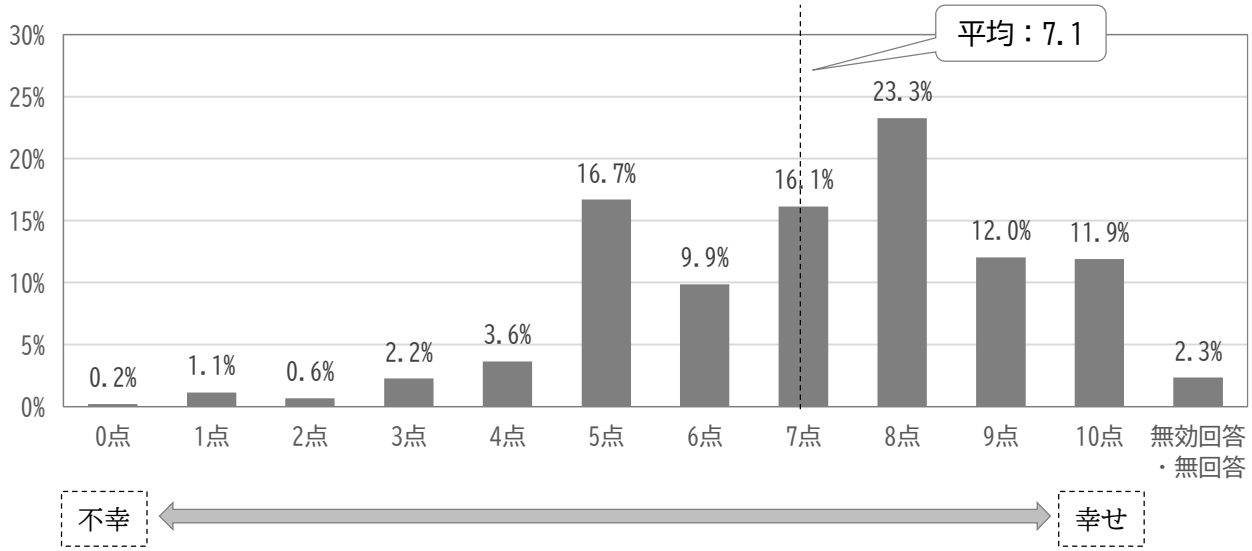
②現在の生活に対する幸福感【問 20（２）】

現在どの程度幸せだと感じるかについて、10 点満点での評価を求めたところ、「８点」との回答が 23.3%と最も多く、平均は 7.1 点でした。一方、数は少ないものの、「１点」や「０点」といった低い評価も見られます。

年齢別の回答を見ると、「85 歳以上」において「10 点」との回答が 16.7%と他の年代よりも多く、平均点が最も高くなっています。

また、問５、問６において「趣味あり」・「生きがいあり」と回答した方については、「思いつかない」と回答した方に比べ「８点」以上の回答が多く、平均点が 1 ポイント以上高くなっています。

図表 105　現在の生活に対する幸福感



図表 106　現在の生活に対する幸福感（年齢別・趣味の有無別・生きがいの有無別）

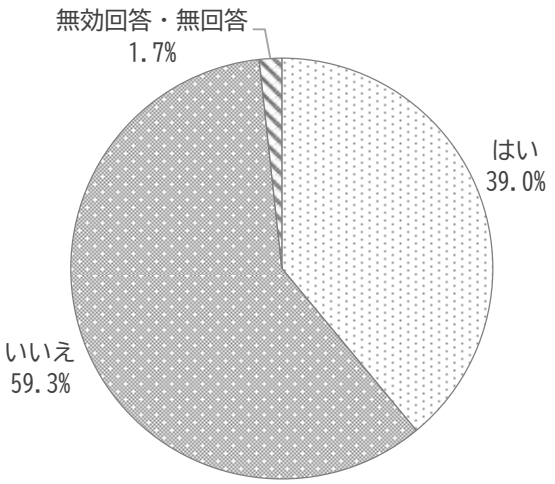
	０点	１点	２点	３点	４点	５点	６点	７点	８点	９点	10点	無効回答・無回答	平均点
65～69歳	0.1%	2.0%	0.7%	3.2%	3.2%	16.0%	9.7%	17.8%	23.6%	12.6%	10.1%	1.1%	6.99
70～74歳	0.2%	1.2%	0.5%	2.6%	3.8%	15.3%	10.1%	17.5%	25.0%	12.1%	9.7%	1.8%	7.04
75～79歳	0.3%	0.3%	0.9%	1.5%	3.6%	18.0%	8.5%	15.9%	21.7%	12.5%	14.1%	2.7%	7.20
80～84歳	0.2%	1.0%	0.6%	1.7%	3.9%	18.8%	10.3%	14.3%	20.6%	11.1%	13.2%	4.2%	7.06
85歳以上	0.0%	0.4%	0.4%	1.1%	3.7%	16.0%	12.6%	9.6%	25.7%	10.4%	16.7%	3.5%	7.33
趣味あり	0.1%	0.8%	0.2%	1.1%	2.4%	12.0%	8.8%	17.2%	27.5%	14.8%	13.5%	1.7%	7.48
思いつかない	0.5%	1.7%	1.6%	4.6%	6.3%	26.2%	11.7%	14.7%	14.7%	6.7%	8.8%	2.4%	6.30
生きがいあり	0.1%	0.9%	0.2%	0.7%	1.6%	9.3%	7.9%	16.4%	29.0%	16.7%	15.9%	1.3%	7.70
思いつかない	0.4%	1.4%	1.3%	4.5%	6.7%	26.9%	12.7%	16.3%	15.7%	5.4%	6.6%	2.3%	6.22

③うつ傾向の有無【問 20（３）、問 20（４）】

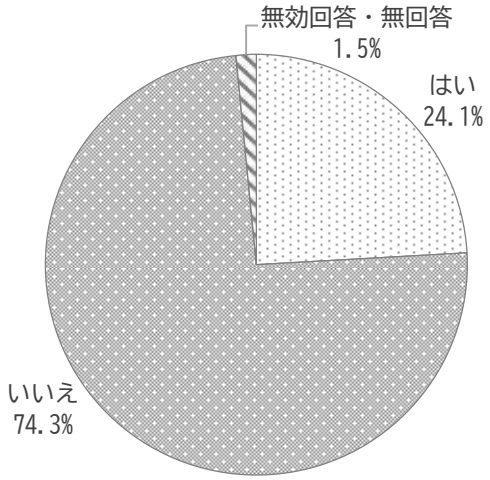
この１か月間に、気分が沈んだり、ゆううつな気分になったことがあったかどうかたずねたところ、「はい」が 39.0%、「いいえ」が 59.3%でした。

また、どうしても物事に対する興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかたずねたところ、「はい」が 24.1%、「いいえ」が 74.3%でした。

図表 107　この１か月間に、気分が沈んだりゆううつな気分になったことがあったか



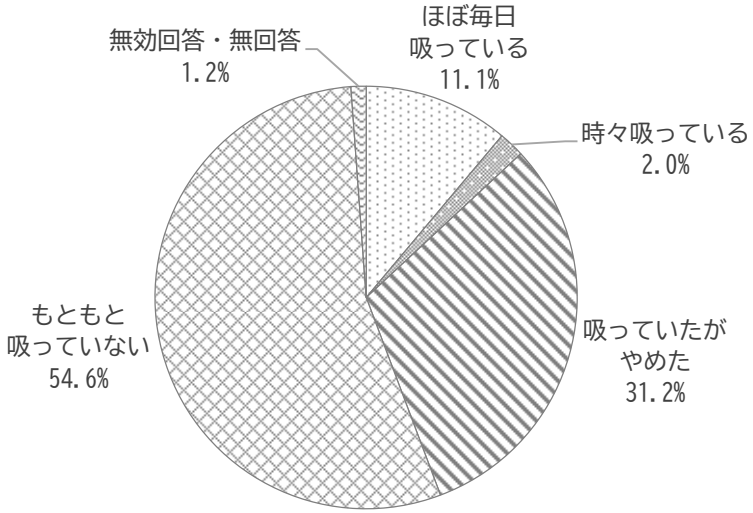
図表 108　この１か月間に、物事に対する興味がわかない等の感じがあったか



④喫煙の状況【問 20（５）】

タバコを吸っているかどうかたずねたところ、「もともと吸っていない」が 54.6%と最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が 31.2%となっており、現在も喫煙しているとの回答（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計）は 13.1%でした。

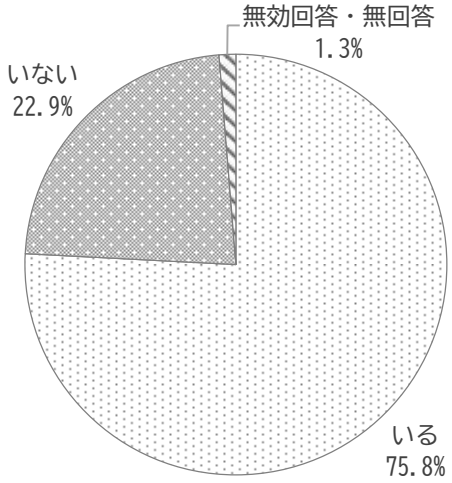
図表 109　喫煙の状況



⑤かかりつけ医の有無【問 20（６）】

日ごろから相談できる、かかりつけ医の有無については、「いる」が 75.8%、「いない」が 22.9%となっています。

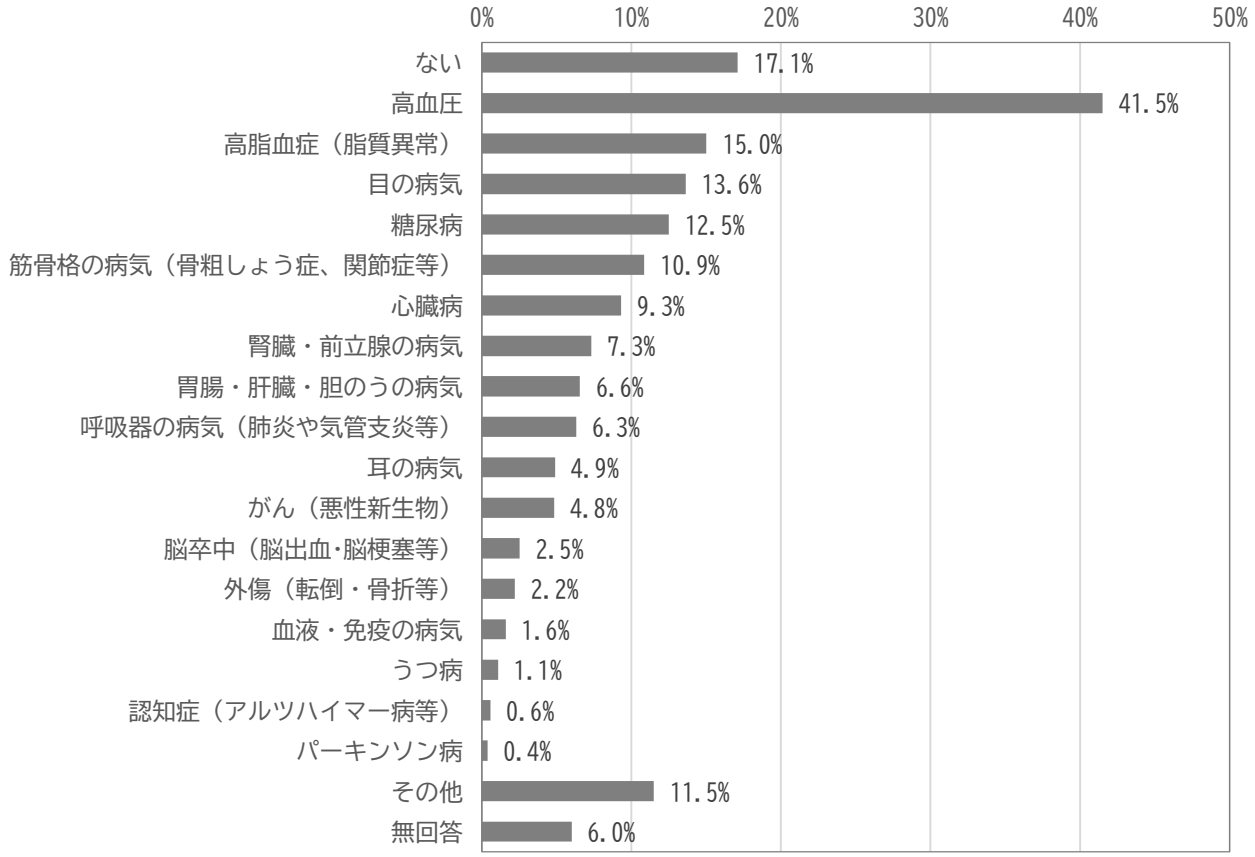
図表 110　かかりつけ医の有無



⑥現在治療中または後遺症のある病気【問 20（７）】

現在治療中、または後遺症のある病気の有無について、「高血圧」が 41.5%と最も多く、他の病気と比べ特に割合が高くなっています。なお、「ない」との回答は 17.1%でした。

図表 111　現在治療中または後遺症のある病気（複数回答）



年齢別の回答を見ると、年齢が高いほうが「ない」の割合が低い傾向が見られ、80 歳以上では「65～69 歳」と比べ半分以下となっています。なお、年齢が高いほど、「高血圧」や「心臓病」、「筋骨格の病気」等の割合が高まる傾向が見られます。

図表 112　現在治療中または後遺症のある病気（年齢別）

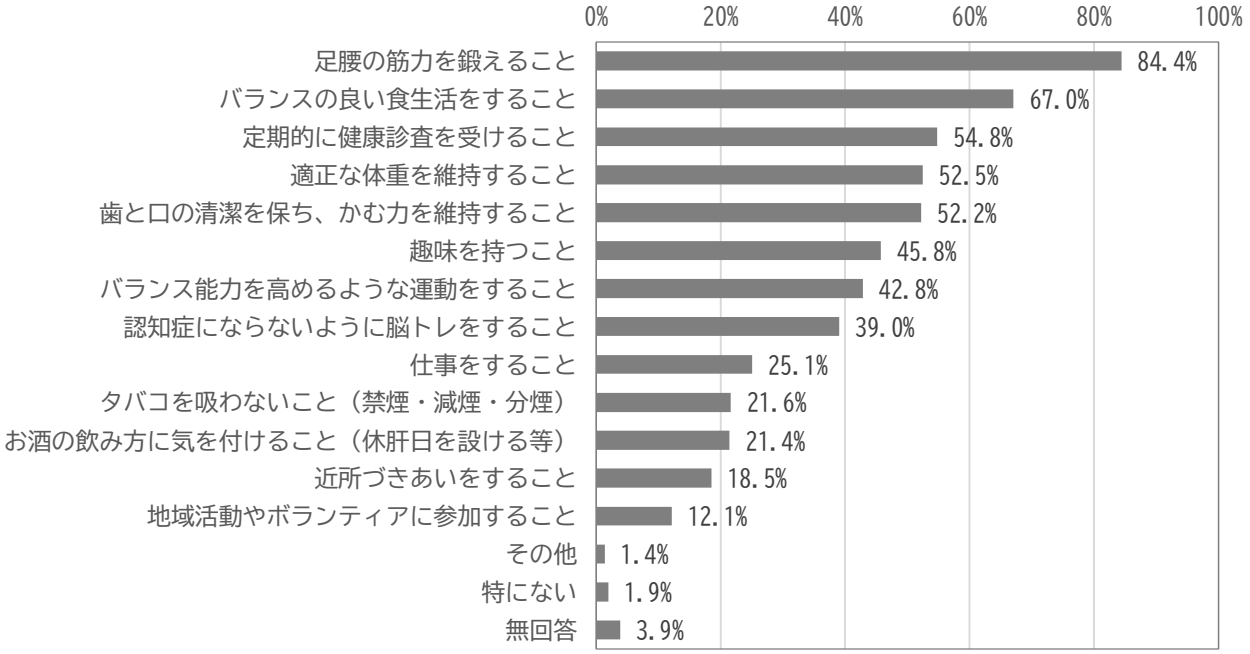
	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
65～69歳	24.4%	34.9%	1.8%	6.0%	11.0%	15.8%	4.9%	6.0%	5.3%	7.7%
70～74歳	18.4%	40.5%	2.4%	7.8%	13.9%	15.2%	5.9%	6.1%	7.5%	9.6%
75～79歳	14.3%	43.1%	2.8%	10.9%	13.9%	15.8%	6.7%	7.2%	6.9%	11.6%
80～84歳	9.7%	48.7%	2.2%	12.3%	10.7%	12.2%	8.7%	6.4%	8.6%	14.1%
85歳以上	12.1%	47.4%	5.3%	15.3%	11.7%	15.3%	6.9%	8.9%	11.6%	16.8%

	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
65～69歳	1.3%	4.6%	1.3%	1.1%	0.1%	0.7%	12.0%	3.8%	12.4%	5.2%
70～74歳	1.9%	6.1%	1.5%	1.5%	0.4%	0.3%	12.8%	3.9%	12.0%	6.1%
75～79歳	2.4%	4.9%	1.3%	0.7%	0.4%	0.2%	14.4%	5.4%	10.7%	6.4%
80～84歳	3.0%	4.4%	2.3%	1.0%	1.5%	0.3%	15.6%	5.8%	10.7%	6.5%
85歳以上	4.3%	1.7%	2.4%	0.7%	1.2%	0.3%	15.9%	8.8%	10.5%	6.0%

⑦充実した高齢期の生活を送るために取り組むべきこと【問 21～問 23】

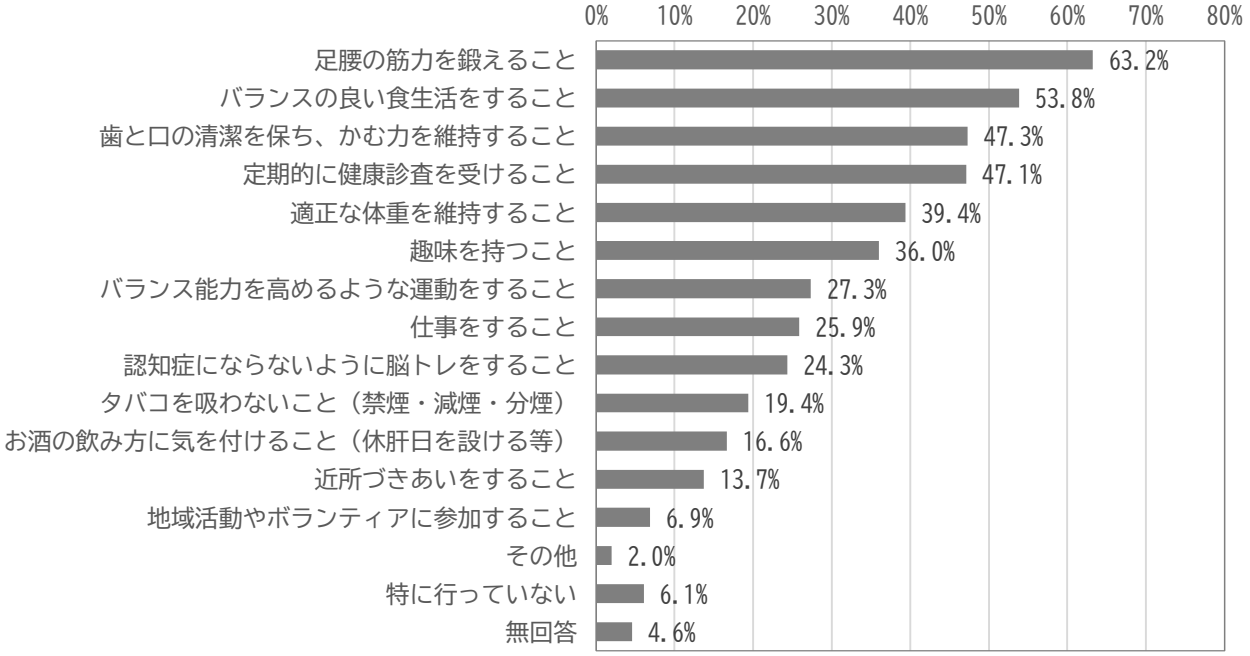
いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、これから取り組んだほうがよいと思うことについてたずねたところ、「足腰の筋力を鍛えること」が 84.4%と最も多く、次いで「バランスの良い食生活をすること」が 67.0%、「定期的に健康診査を受けること」が 54.8%となっています。

図表 113　充実した高齢期の生活を送るために、取り組んだほうがよいと思うこと（複数回答）



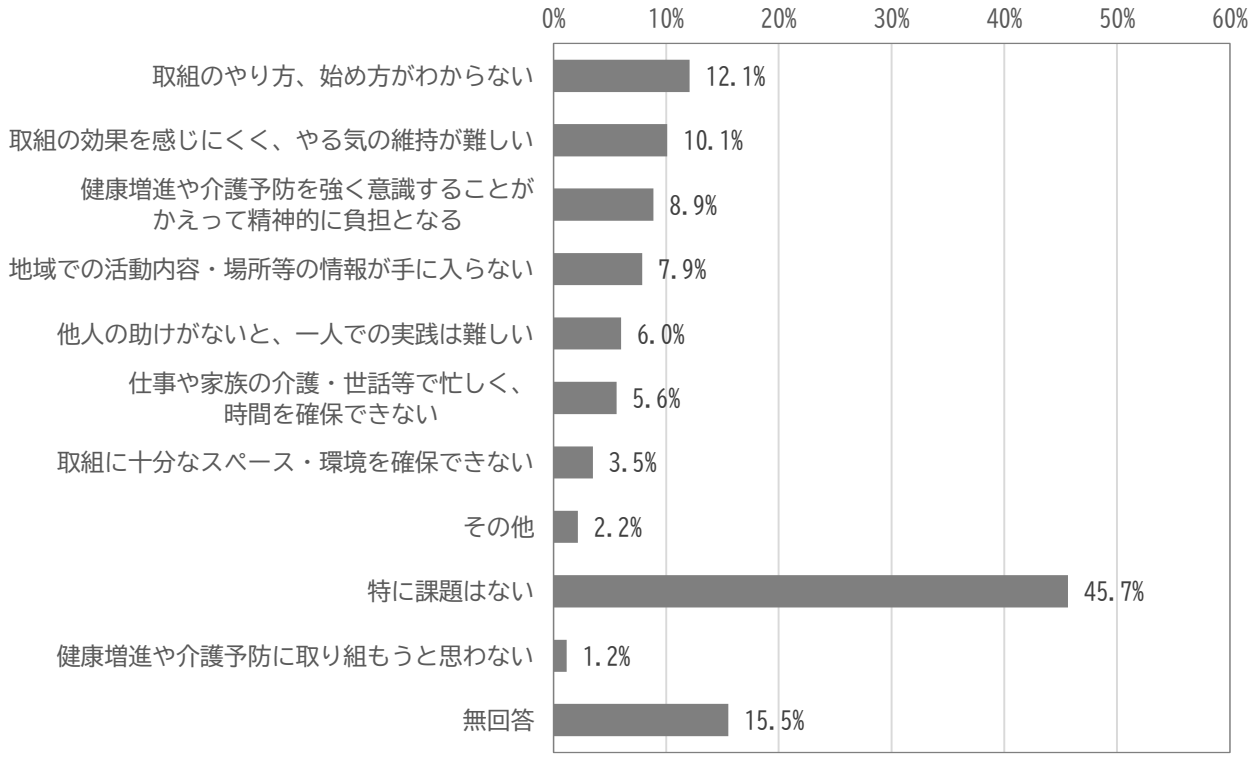
なお、いきいきと充実した高齢期の生活を送るために、実践していることについてたずねたところ、回答傾向は概ね同様となっています。「足腰の筋力を鍛えること」が 63.2%、「バランスの良い食生活をすること」が 53.8%であり、多くの方が健康の維持に取り組んでいることがうかがえます。

図表 114　充実した高齢期の生活を送るために、今実践していること（複数回答）



健康の維持・増進や介護予防に取り組むにあたって抱えている課題についてたずねたところ、「特に課題はない」との回答が45.7%でした。なお、課題として挙げられたこととしては、「取組のやり方、始め方がわからない」が 12.1%と最も多く、次いで「取組の効果を感じにくく、やる気の維持が難しい」が10.1%となっています。

図表 115　健康の維持・増進や介護予防に取り組むにあたっての課題（複数回答）

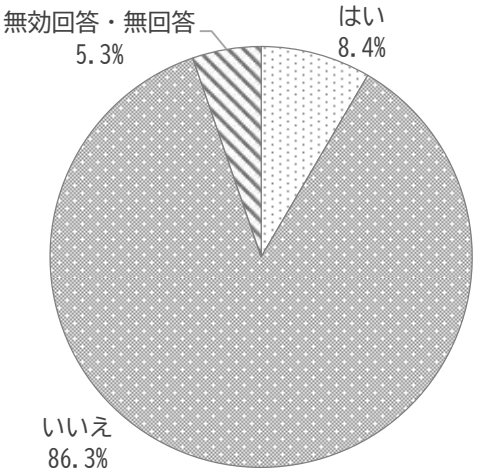


（11）認知症に関する状況

①自身や家族の認知症状の有無【問 24（１）】

自分自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある方がいるかどうかについては、「はい」が 8.4%、「いいえ」が 86.3%でした。

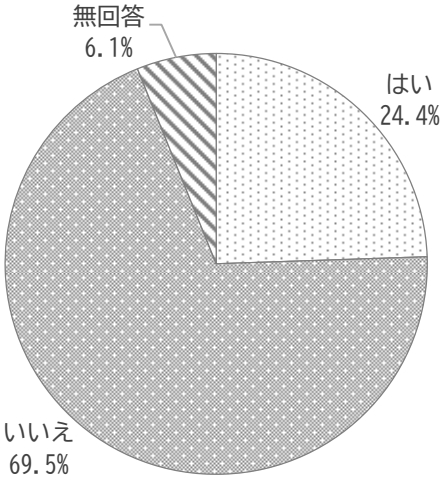
図表 116　自分自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかどうか



②認知症に関する相談窓口の認知度及び相談先の想定【問 24（２）、問 24（３）】

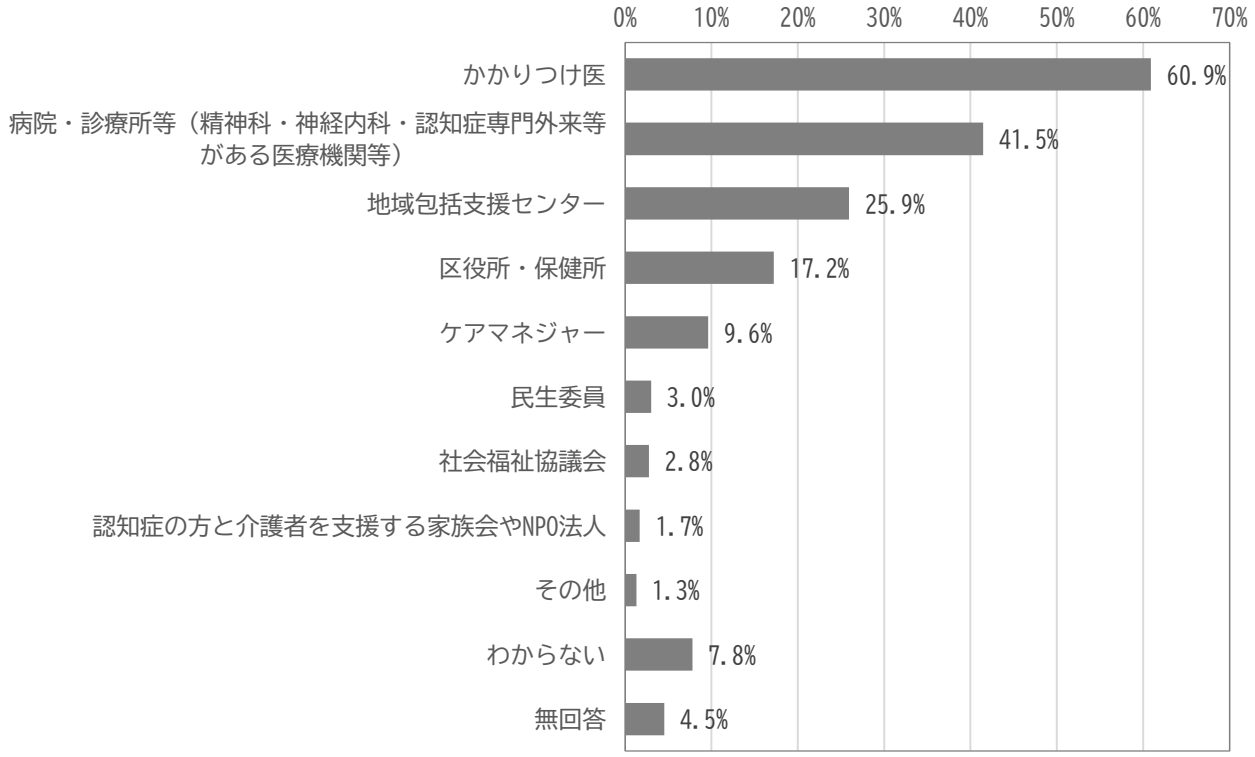
認知症に関する相談窓口を知っているかどうかについて、「はい」が 24.4%、「いいえ」が 69.5%でした。

図表 117　認知症に関する相談窓口を知っているか



自分自身や家族に認知症の心配が出た際に、どこに相談しようと思っているかについては、「かかりつけ医」が 60.9%と最も多く、次いで「病院・診療所等」が 41.5%でした。なお、「わからない」との回答は 7.8%となっています。

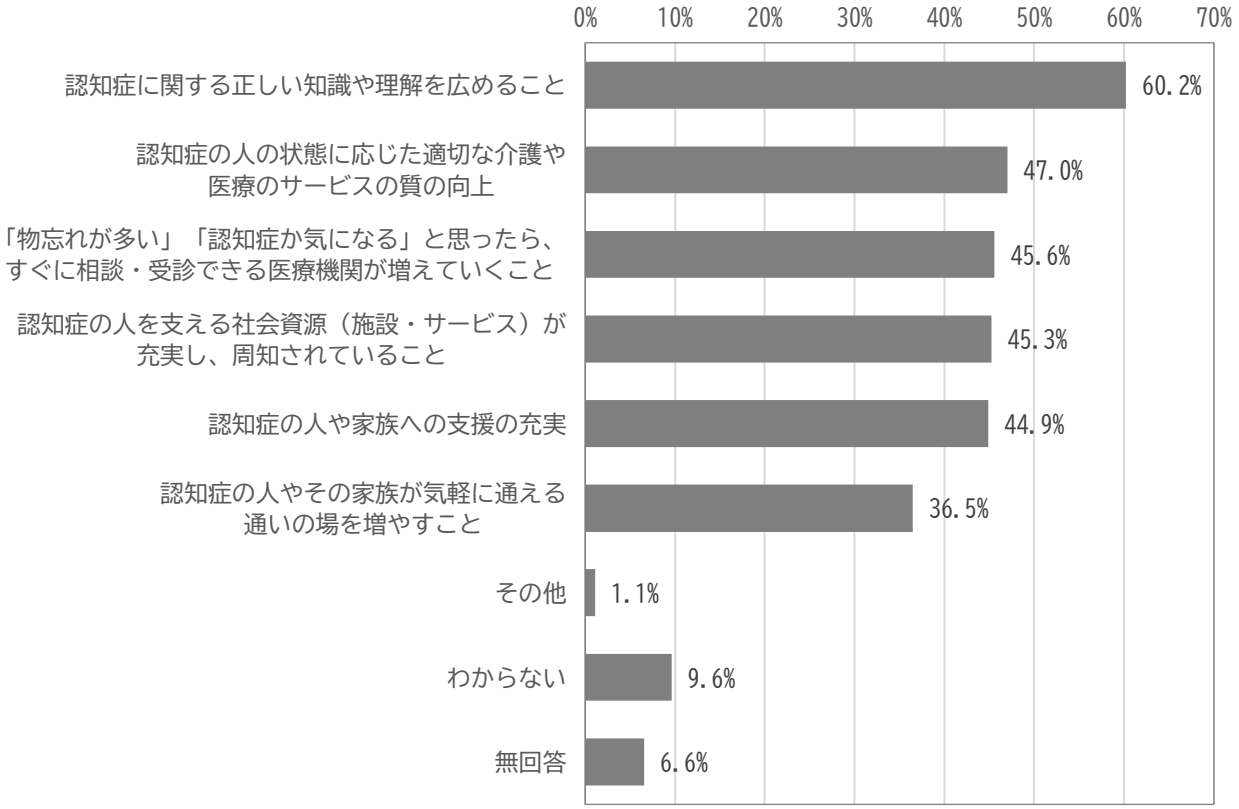
図表 118　自分自身や家族に認知症の心配が出た際に、相談しようと思う機関等（複数回答）



③認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援【問 25】

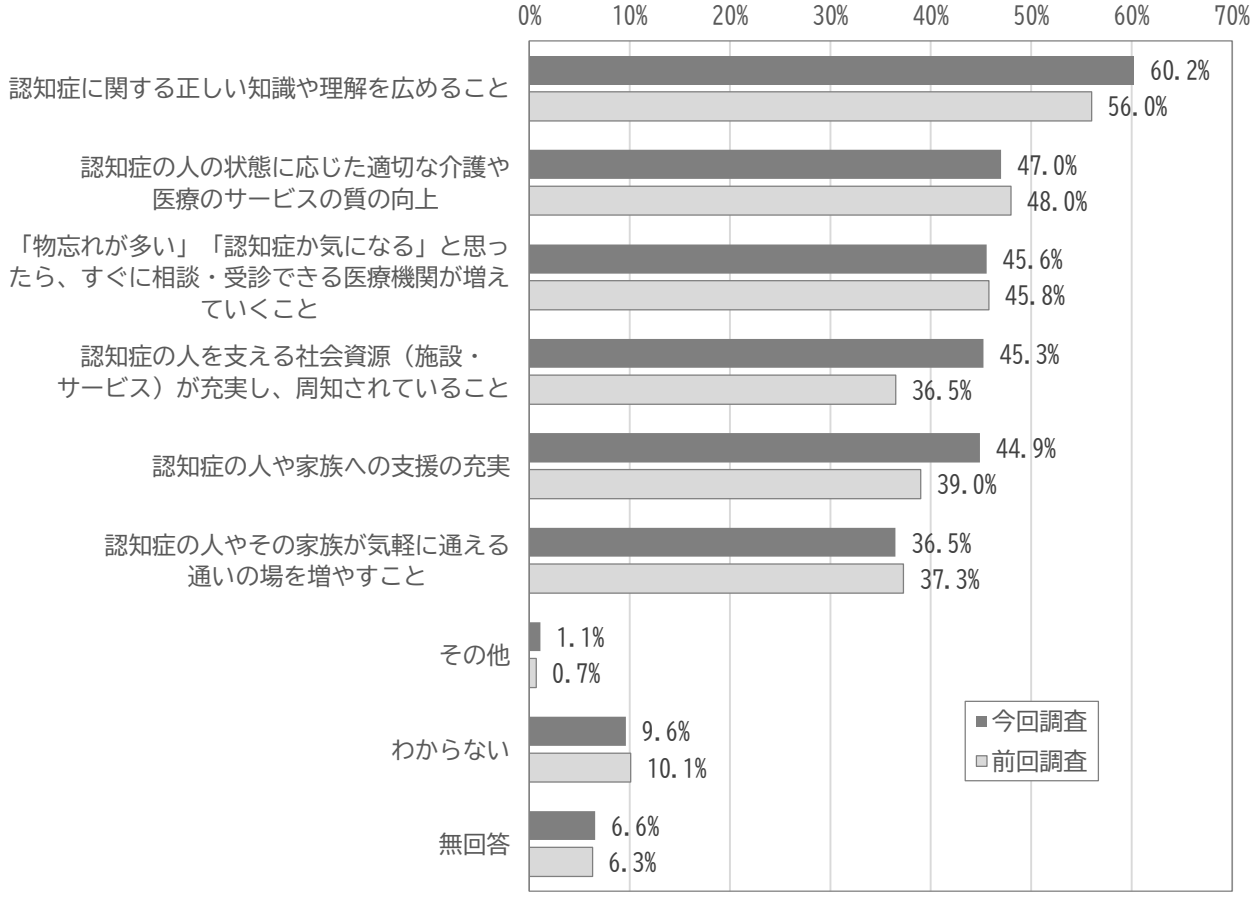
認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりの実現に向けてどのような取組や支援が必要と思うかたずねたところ、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が 60.2%と最も多く、次いで「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」が 47.0%となっています。

図表 119　認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（複数回答）



前回調査結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「認知症の人を支える社会資源（施設・サービス）が充実し、周知されていること」や「認知症の人や家族への支援の充実」については前回調査よりも回答割合が高くなっています。

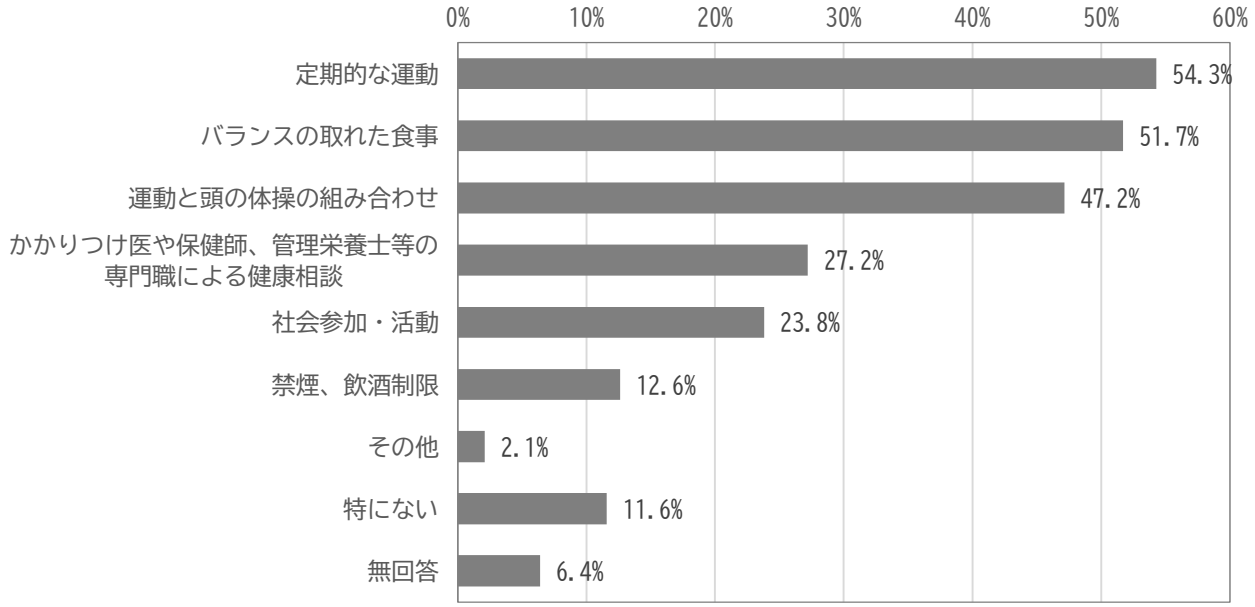
図表 120　認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（前回調査との比較）



④認知症の予防に向けて取り組んでいきたいこと【問 26】

認知症の予防に効果があると考えられるもののうち、取り組んでいきたいことについてたずねたところ、「定期的な運動」が 54.3%と最も多く、次いで「バランスの取れた食事」が 51.7%、「運動と頭の体操の組み合わせ」が 47.2%となっています。

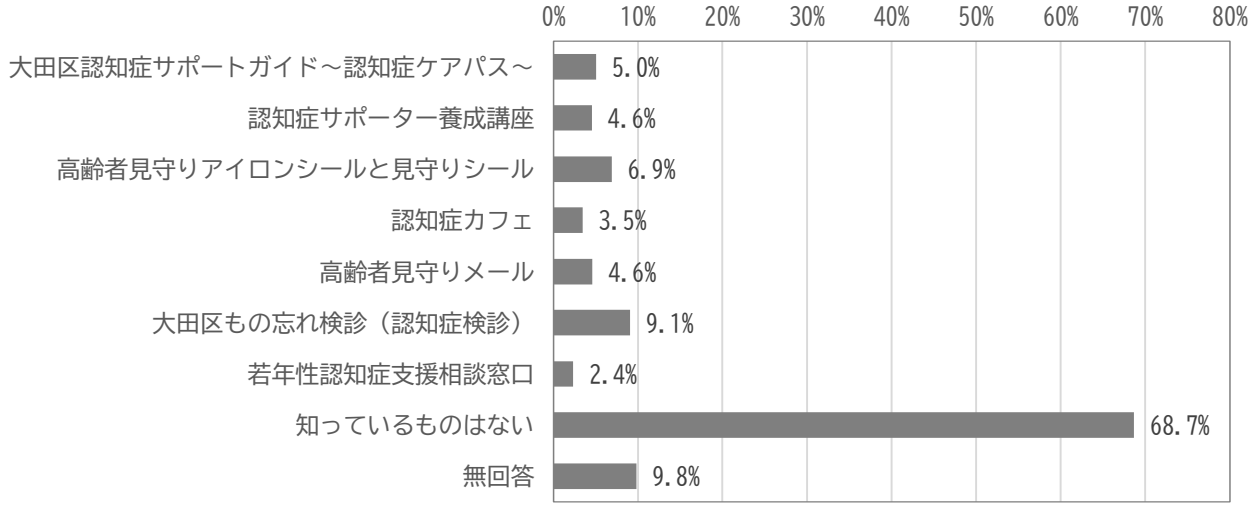
図表 121　認知症の予防に向けて取り組んでいきたいこと（複数回答）



⑤区の認知症施策の認知度【問 27】

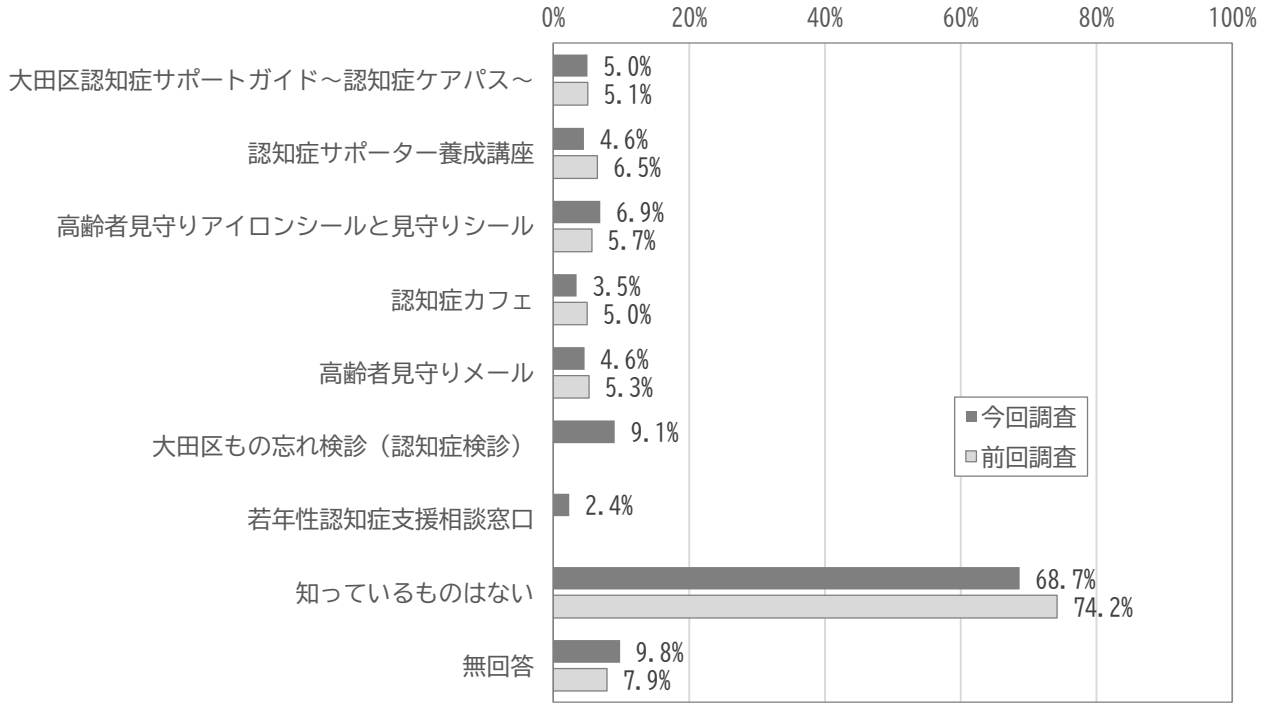
区が実施している認知症施策のうち、知っているものについてたずねたところ、「知っているものはない」との回答が 68.7%となっています。

図表 122　区の認知症施策の認知度（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、「知っているものはない」の割合が 5.5 ポイント低下しています。なお、各項目の回答割合は概ね同様となっています。

図表 123　区の認知症施策の認知度（前回調査との比較）



※「大田区もの忘れ検診（認知症検診）」・「若年性認知症支援相談窓口」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

（12）今後の生活に対する希望や支援ニーズ

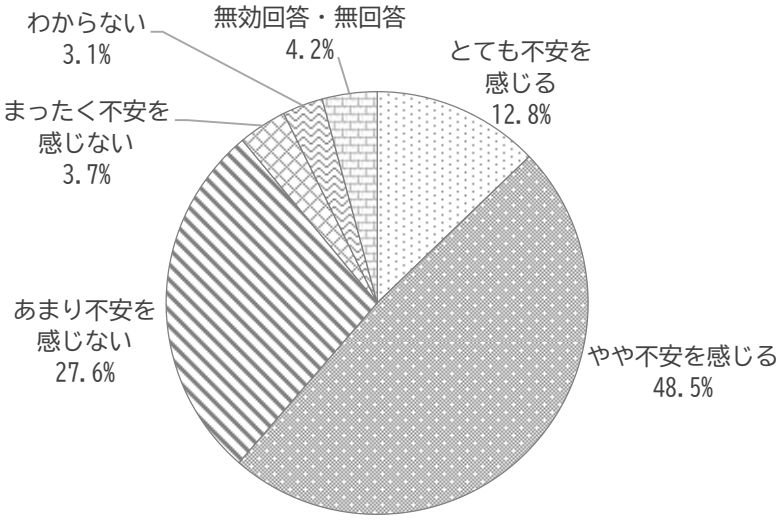
①今後の生活に対する不安【問 28、問 29】

今後の生活に不安を感じているかどうかたずねたところ、「とても不安を感じる」が 12.8%、「やや不安を感じる」が 48.5%でした。

年齢別の回答を見ると、「とても不安を感じる」・「やや不安を感じる」の割合がいずれの年代でも６割程度となっています。

また、家族構成別の回答を見ると、「１人暮らし」では「とても不安を感じる」の割合が他と比べ高くなっています。

図表 124　今後の生活に不安を感じるか

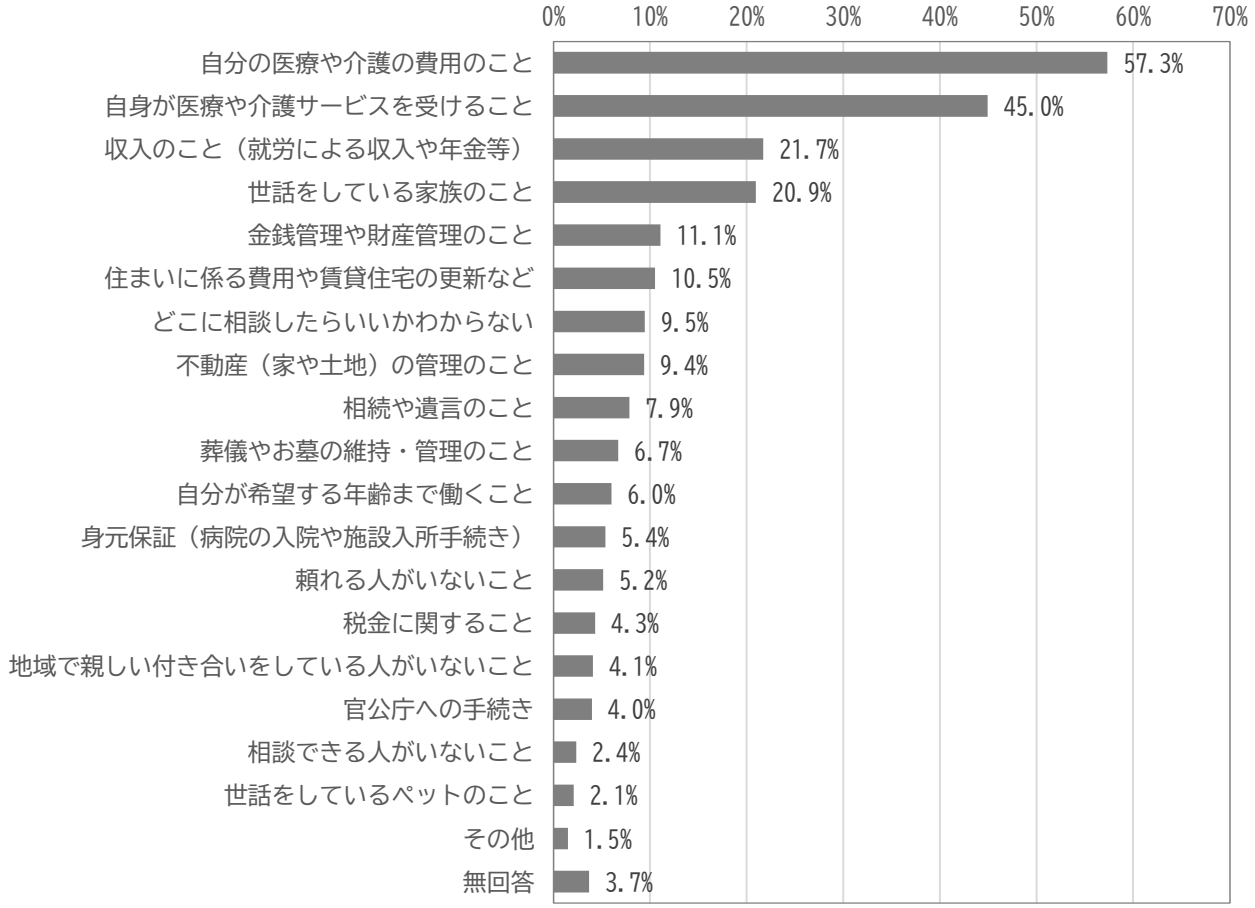


図表 125　今後の生活に不安を感じるか（年齢別・家族構成別）

	とても不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない	わからない	無効回答・無回答
65～69歳	11.9%	49.1%	30.9%	2.6%	2.6%	2.9%
70～74歳	11.5%	52.0%	26.2%	3.8%	2.9%	3.6%
75～79歳	12.0%	46.3%	29.0%	4.5%	3.4%	4.9%
80～84歳	16.7%	46.9%	23.6%	3.8%	3.2%	5.8%
85歳以上	15.5%	43.6%	26.9%	4.3%	4.3%	5.4%
1人暮らし	17.6%	49.3%	22.9%	2.2%	2.8%	5.1%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	11.0%	49.1%	29.5%	3.8%	2.8%	3.8%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	10.7%	47.2%	32.0%	2.8%	4.6%	2.7%
息子・娘との2世帯	10.2%	49.4%	29.1%	5.7%	2.8%	2.8%
その他	13.8%	47.2%	27.9%	3.8%	3.6%	3.7%

今後の生活に不安を感じていると回答した方に、病気や加齢で判断能力が低下した時に、安心して暮らすために心配なことをたずねたところ、「自分の医療や介護の費用のこと」が 57.3%と最も多く、次いで「自身が医療や介護サービスを受けること」が 45.0%となっています。

図表 126　病気や加齢で判断能力が低下した時に不安なこと（複数回答、３つまで選択可）



年齢別の回答結果を見ると、いずれの年代でも「自分の医療や介護の費用のこと」や「自身が医療や介護サービスを受けること」については回答割合が高くなっており、総じて同様の回答傾向が見られます。

図表 127　病気や加齢で判断能力が低下した時に不安なこと（年齢別）

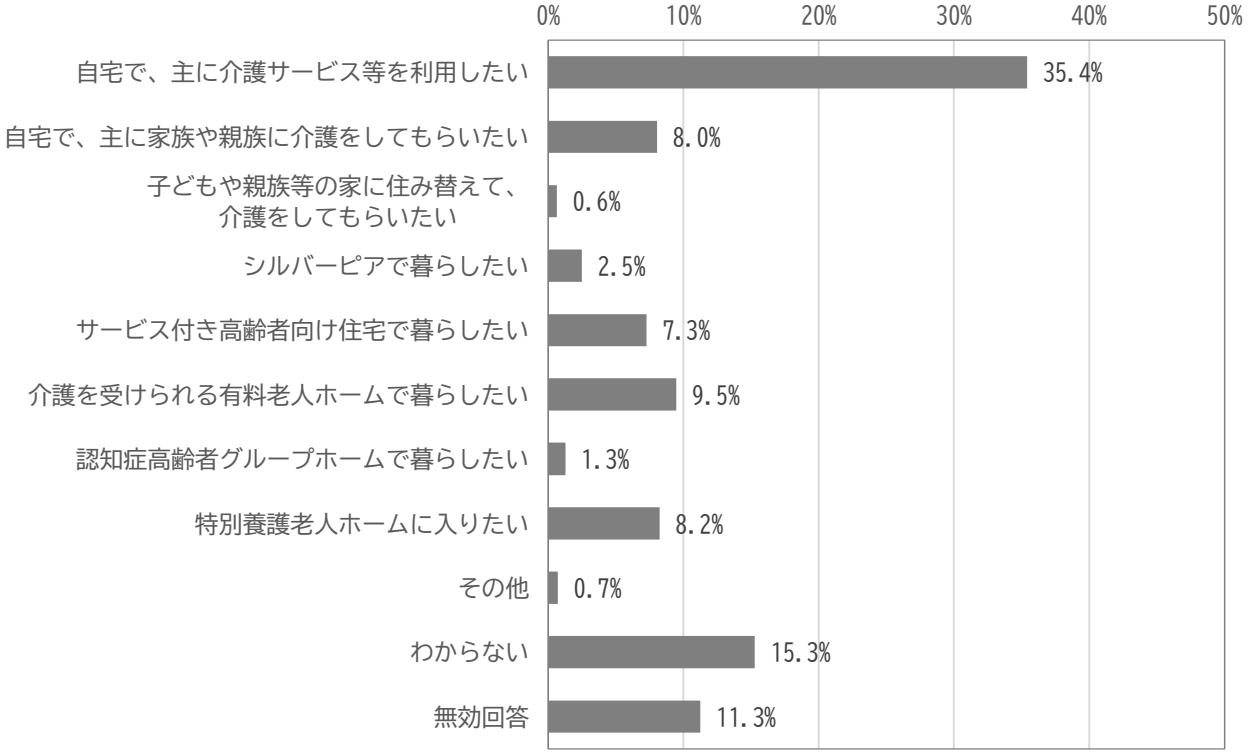
	自分の医療や介護の費用のこと	自身が医療や介護サービスを受けること	不動産（家や土地）の管理のこと	住まいに係る費用や賃貸住宅の更新など	金銭管理や財産管理のこと	収入のこと（就労による収入や年金等）	自分が希望する年齢まで働くこと	税金に関すること	身元保証（病院の入院や施設入所手続き）	官公庁への手続き
65～69歳	60.3%	47.6%	11.8%	11.6%	12.0%	22.4%	6.2%	4.2%	4.8%	3.2%
70～74歳	56.7%	46.4%	9.0%	10.3%	13.3%	21.0%	6.6%	4.1%	5.0%	4.2%
75～79歳	57.0%	45.1%	6.4%	8.7%	7.5%	20.6%	3.3%	4.0%	5.7%	4.2%
80～84歳	54.8%	47.8%	9.6%	8.6%	12.1%	20.9%	5.6%	4.7%	5.4%	4.6%
85歳以上	56.9%	43.0%	10.3%	9.3%	11.1%	19.6%	6.4%	4.4%	5.8%	4.3%

	相続や遺言のこと	葬儀やお墓の維持・管理のこと	世話をしている家族のこと	世話をしているペットのこと	頼れる人がいないこと	地域で親しい付き合いをしている人がいないこと	相談できる人がいないこと	どこに相談したらいいかわからない	その他	無回答
65～69歳	8.7%	4.7%	17.3%	2.5%	4.3%	2.5%	2.7%	9.2%	1.8%	3.1%
70～74歳	6.2%	7.7%	24.1%	1.8%	4.2%	6.7%	2.3%	8.6%	1.8%	4.1%
75～79歳	8.7%	7.8%	23.6%	1.8%	6.0%	4.8%	2.6%	10.2%	2.1%	3.9%
80～84歳	7.2%	5.3%	22.7%	2.1%	4.8%	4.0%	2.4%	8.1%	1.2%	3.9%
85歳以上	7.7%	7.7%	20.1%	2.2%	4.6%	4.7%	2.6%	10.5%	1.9%	3.8%

②介護が必要になった場合に希望する暮らし方【問 30】

介護が必要になった場合に、どのような暮らし方を希望するかについてたずねたところ、「自宅で、主に介護サービス等を利用したい」が 35.4%、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」が 8.0%であり、合わせて 43.4%が自宅での生活を希望しています。

図表 128　介護が必要になった場合に希望する暮らし方



介護が必要になった場合に、どのような暮らし方を希望するかについて、男女別の回答を見ると、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」については「男性」のほうが回答割合が高くなっています。

また、年齢別の回答を見ると、「85 歳以上」では「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」の割合が 15.5%であり、他の年代と比べ割合が高くなっています。

さらに、家族構成別の回答を見ると、「１人暮らし」では「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」の割合が低くなっています。

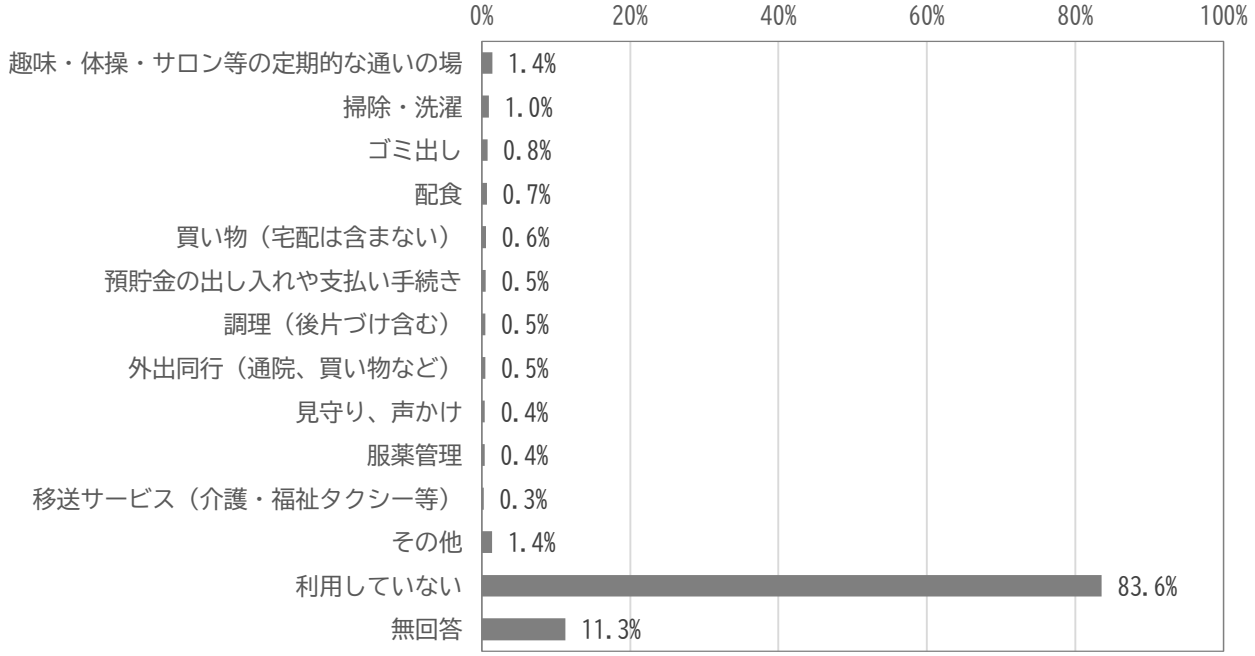
図表 129　介護が必要になった場合に希望する暮らし方（男女別・年齢別・家族構成別）

	自宅で、主に介護サービス等を利用したい	自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい	子どもや親族等の家に住み替えて、介護をしてもらいたい	シルバーピアで暮らしたい	サービス付き高齢者向け住宅で暮らしたい	介護を受けられる有料老人ホームで暮らしたい	認知症高齢者グループホームで暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無効回答・無回答
男性	34.4%	11.9%	0.5%	1.8%	7.0%	8.8%	0.9%	6.9%	0.7%	15.5%	11.5%
女性	36.2%	4.8%	0.7%	3.0%	7.5%	10.1%	1.6%	9.4%	0.7%	15.1%	11.1%
65～69歳	33.5%	7.8%	0.6%	2.6%	9.0%	10.9%	1.0%	7.5%	1.0%	18.7%	7.3%
70～74歳	33.9%	7.7%	0.6%	3.2%	7.9%	9.4%	1.4%	8.5%	0.6%	16.9%	9.9%
75～79歳	37.6%	6.5%	0.7%	2.2%	7.3%	9.1%	1.4%	8.3%	0.8%	13.4%	12.7%
80～84歳	39.0%	7.6%	0.5%	1.7%	5.4%	8.1%	1.6%	9.1%	0.5%	11.7%	14.6%
85歳以上	33.3%	15.5%	1.2%	1.7%	2.9%	8.9%	0.7%	7.6%	0.0%	10.6%	17.7%
1人暮らし	33.4%	2.4%	0.9%	4.4%	9.1%	9.6%	1.5%	9.0%	1.1%	17.6%	11.1%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	36.4%	8.5%	1.0%	1.7%	8.2%	11.5%	1.3%	7.5%	0.5%	12.3%	11.2%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	39.4%	11.9%	0.0%	0.5%	8.3%	6.8%	0.4%	5.8%	0.7%	14.5%	11.9%
息子・娘との2世帯	35.0%	11.3%	0.4%	3.0%	4.7%	7.4%	1.5%	9.6%	0.1%	17.3%	9.9%
その他	35.6%	10.4%	0.2%	2.1%	5.6%	8.1%	1.3%	8.9%	1.3%	16.4%	10.1%

③在宅での生活を続けるために必要な支援やサービス【問 31～問 33】

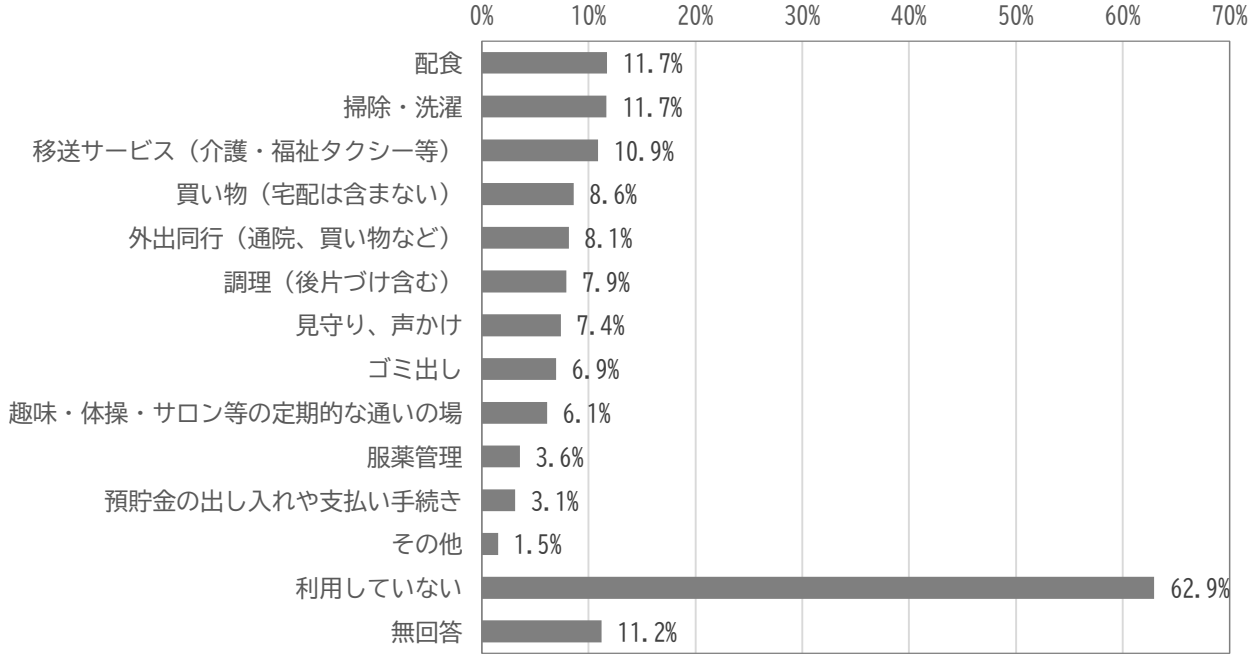
現在利用している支援やサービスについてたずねたところ、「利用していない」が 83.6%であり、要介護認定を受けていない高齢者では以下のような生活サービスの利用者は少ないことがわかります。

図表 130　現在利用している支援やサービス（複数回答）



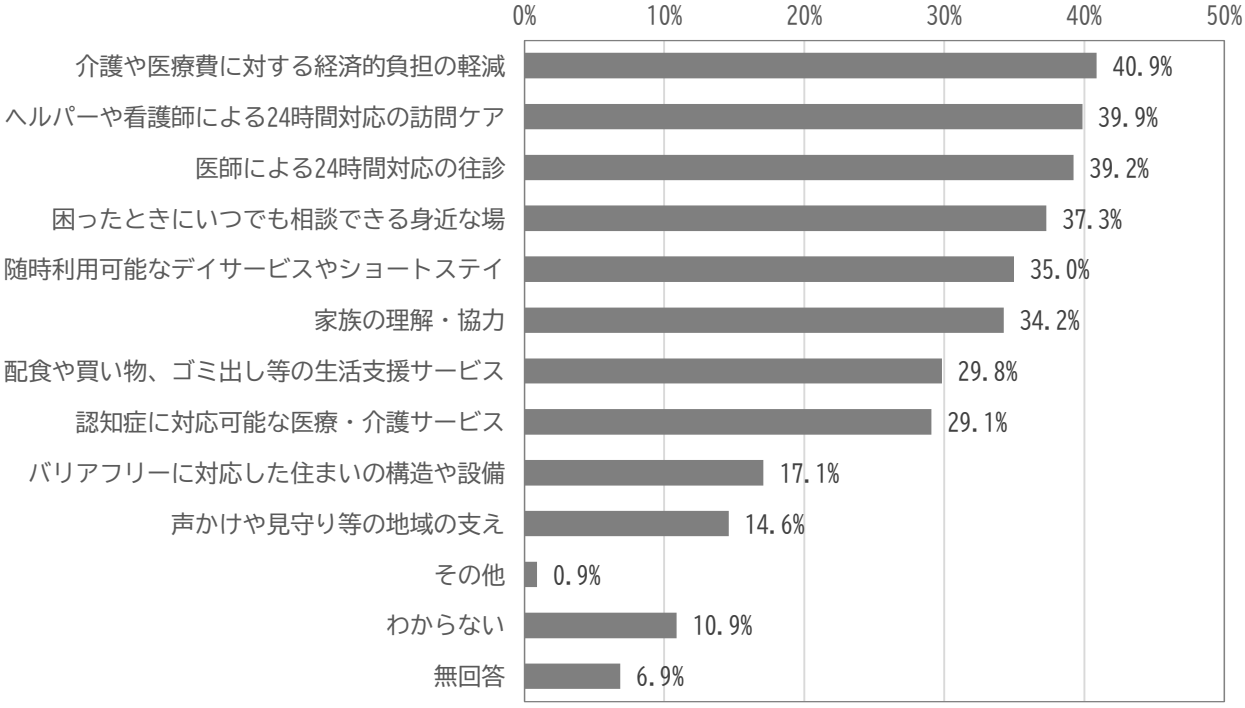
今後の在宅生活の継続に向けて必要だと感じるサービスについてたずねたところ、「配食」と「掃除・洗濯」がともに 11.7%と最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 10.9%となっています。

図表 131　今後の在宅生活の継続に向けて必要だと感じる支援・サービス（複数回答）



介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために望ましい支援やサービスについてたずねたところ、「介護や医療費に対する経済的負担の軽減」が 40.9%と最も多く、次いで「ヘルパーや看護師による 24 時間対応の訪問ケア」が 39.9%、「医師による 24 時間対応の往診」が 39.2%となっており、費用負担の軽減や、緊急時の対応、相談対応等のニーズが高いことがうかがえます。

図表 132　介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために
望ましい支援やサービス（複数回答）



介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために望ましい支援やサービスについて、男女別・年齢別・家族構成別の回答は図表 133 のとおりです。

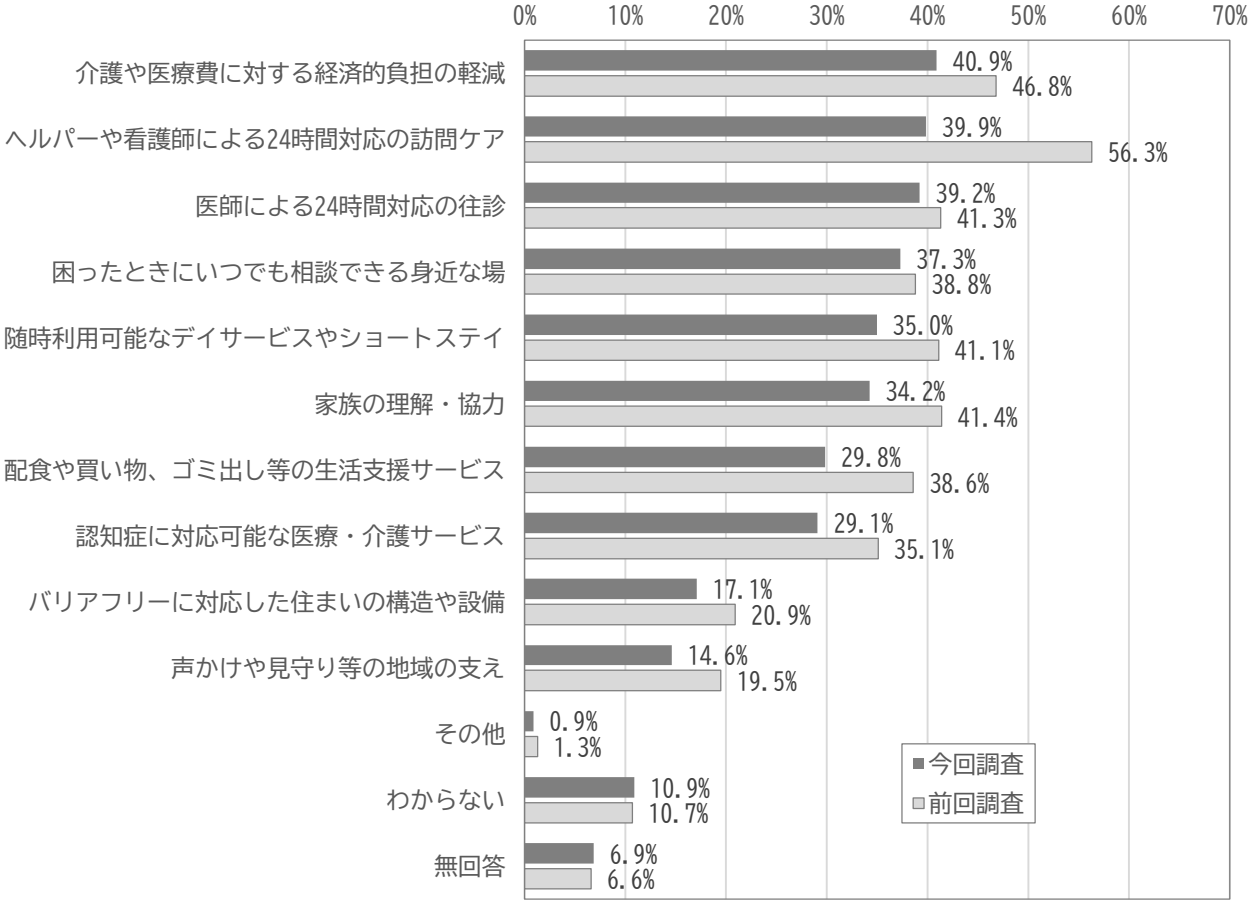
年齢別の回答では、総じて年齢が若いほど各項目の回答割合が高い傾向が見られます。

図表 133　介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために
望ましい支援やサービス（男女別・年齢別・家族構成別）

	医師による24時間対応の往診	ヘルパーや看護師による24時間対応の訪問ケア	随時利用可能なデイサービスやショートステイ	配食や買い物、ゴミ出し等の生活支援サービス	認知症に対応可能な医療・介護サービス	バリアフリーに対応した住まいの構造や設備	介護や医療費に対する経済的負担の軽減	困ったときにいつでも相談できる身近な場	声かけや見守り等の地域の支え	家族の理解・協力	その他	わからない	無回答
男性	38.0%	38.9%	29.9%	26.1%	28.8%	15.8%	39.4%	32.4%	12.3%	33.3%	1.0%	13.1%	5.9%
女性	40.2%	40.7%	39.2%	33.0%	29.3%	18.2%	42.1%	41.4%	16.5%	35.0%	0.8%	9.1%	7.7%
65～69歳	40.5%	45.8%	38.9%	35.2%	35.2%	20.4%	46.5%	39.7%	15.5%	36.9%	0.9%	11.6%	4.5%
70～74歳	38.6%	41.2%	36.1%	29.9%	29.1%	17.7%	42.2%	37.1%	13.9%	35.2%	0.8%	11.8%	5.6%
75～79歳	38.5%	37.6%	34.9%	27.7%	27.5%	15.0%	37.2%	34.7%	14.1%	30.5%	1.1%	9.4%	8.5%
80～84歳	42.1%	35.9%	31.0%	25.9%	24.8%	15.9%	38.6%	38.2%	15.6%	31.7%	1.2%	9.7%	9.8%
85歳以上	33.6%	30.8%	26.5%	26.4%	22.7%	12.6%	33.9%	36.2%	14.2%	38.3%	0.2%	11.6%	8.2%
1人暮らし	31.5%	35.3%	25.6%	30.9%	21.8%	11.2%	33.9%	40.0%	16.5%	18.0%	1.7%	16.0%	7.3%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	41.3%	41.8%	38.7%	32.8%	31.3%	18.6%	39.3%	38.6%	14.9%	36.2%	0.8%	9.6%	7.4%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	37.8%	43.4%	34.2%	28.4%	30.6%	16.0%	40.3%	35.0%	14.4%	33.9%	1.4%	13.8%	5.2%
息子・娘との2世帯	42.4%	38.8%	38.3%	23.6%	30.4%	18.3%	44.4%	35.3%	11.9%	45.1%	0.1%	9.9%	5.5%
その他	42.3%	41.1%	36.4%	28.0%	31.5%	20.0%	49.1%	35.3%	13.5%	40.3%	0.9%	7.9%	5.3%

前回調査の結果と比較すると、「わからない」を除く各項目の割合が低下しており、特に「ヘルパーや看護師による 24 時間対応の訪問ケア」の割合が 16.4 ポイント低下しています。

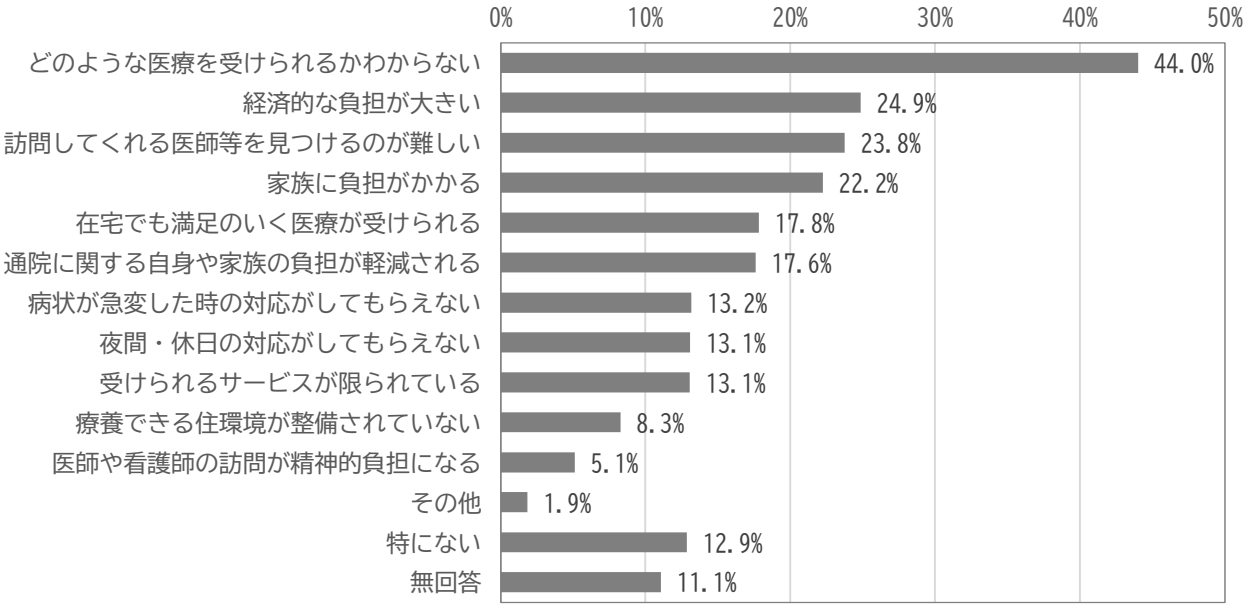
図表 134　介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために
望ましい支援やサービス（前回調査との比較）



④在宅医療サービスに対する考え【問 34】

在宅医療サービスに対する考えについてたずねたところ、「どのような医療を受けられるかわからない」が 44.0%となっており、在宅医療がどのようなものであるかについて、より一層の情報発信が必要であることがうかがえます。

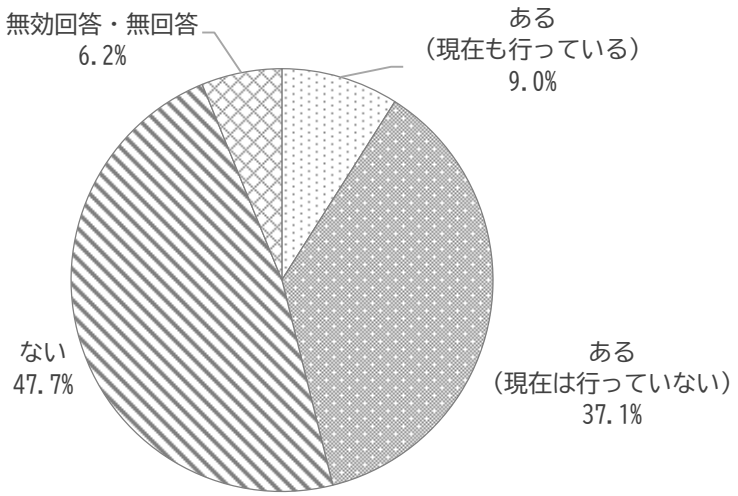
図表 135　在宅医療サービスに対する考え（複数回答）



⑤家族や親戚等の介護を行った経験の有無【問 35】

家族や親戚等の介護を行った経験については、「ある」と「ない」が概ね同数となっています。なお、「ある（現在も行っている）」が 9.0%であり、いわゆる「老老介護」の状態にあると思われる方も見られます。

図表 136　家族や親戚等の介護を行った経験の有無



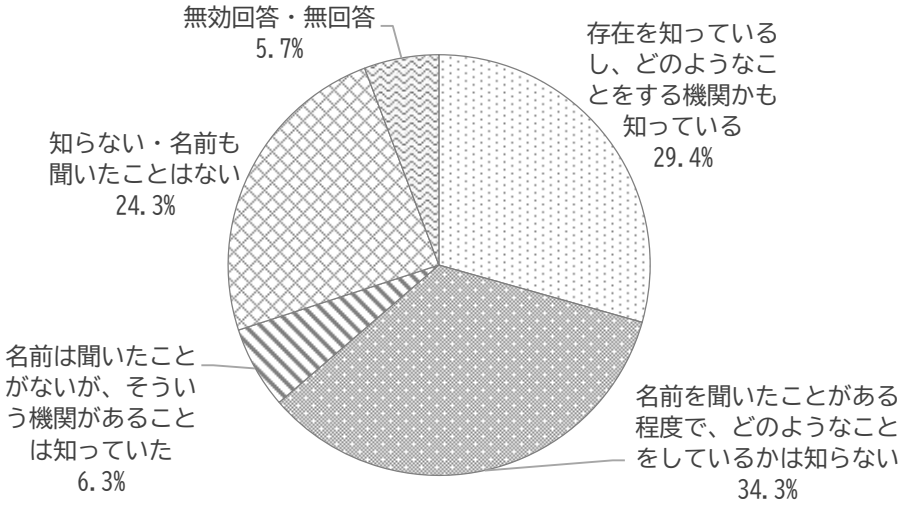
（13）区の取組に対する認知度や意見

①地域包括支援センターの認知度【問 36】

地域包括支援センターについて知っているかどうかたずねたところ、「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」は 29.4%でした。一方、「知らない・名前も聞いたことはない」との回答は 24.3%となっています。

日常生活圏域別の回答を見ると、「池上」では「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」の割合が 41.4%と全地域の中で最も高くなっていますが、一方で最も低い「馬込」、「羽田」では 24.1%であり、地域によって差が見られます。

図表 137　地域包括支援センターの認知度

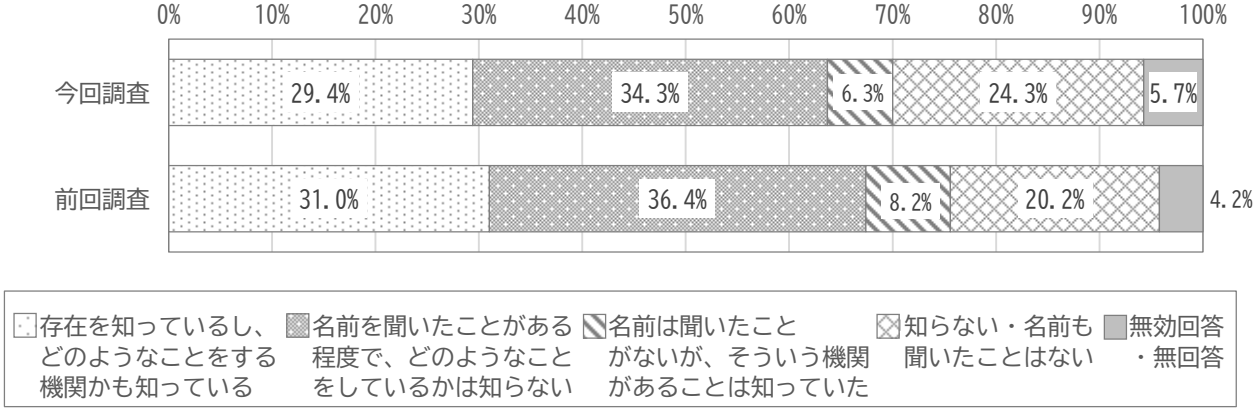


図表 138　地域包括支援センターの認知度（日常生活圏域別）

	存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている	名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない	名前は聞いたことがないが、そういう機関があることは知っていた	知らない・名前も聞いたことはない	無効回答・無回答
大森東	27.2%	33.6%	7.4%	22.1%	9.7%
大森西	31.2%	31.7%	4.5%	25.8%	6.8%
入新井	33.3%	33.8%	7.4%	22.9%	2.6%
馬込	24.1%	37.5%	7.3%	25.0%	6.0%
池上	41.4%	24.1%	6.4%	22.3%	5.9%
新井宿	29.5%	34.4%	6.2%	22.9%	7.0%
嶺町	30.4%	36.4%	3.2%	24.4%	5.5%
田園調布	31.6%	31.6%	7.9%	24.7%	4.2%
鵜の木	31.7%	33.5%	7.0%	22.2%	5.7%
久が原	30.4%	36.5%	3.9%	26.1%	3.0%
雪谷	27.1%	37.6%	5.0%	24.4%	5.9%
千束	24.9%	32.4%	6.7%	30.2%	5.8%
糀谷	27.9%	36.3%	7.5%	22.1%	6.2%
羽田	24.1%	39.3%	4.5%	23.2%	8.9%
六郷	33.2%	32.3%	6.7%	21.1%	6.7%
矢口	26.1%	33.5%	8.7%	25.7%	6.1%
蒲田西	25.7%	35.6%	8.1%	28.4%	2.3%
蒲田東	27.3%	38.0%	5.1%	23.6%	6.0%

前回調査の結果と比較すると、「知らない・名前も聞いたことはない」の割合が 4.1 ポイント高くなっています。

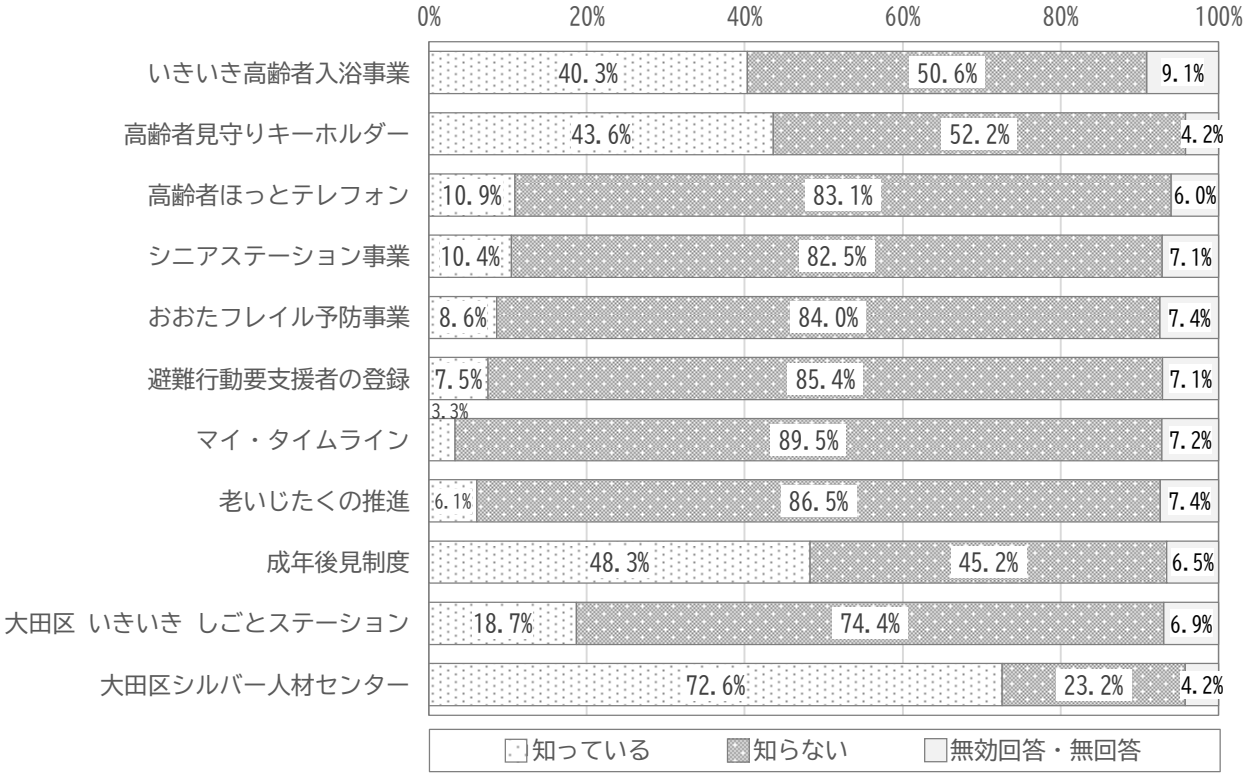
図表 139　地域包括支援センターの認知度（前回調査との比較）



②区の高齢者向け事業・サービスの認知度や利用意向【問 37】

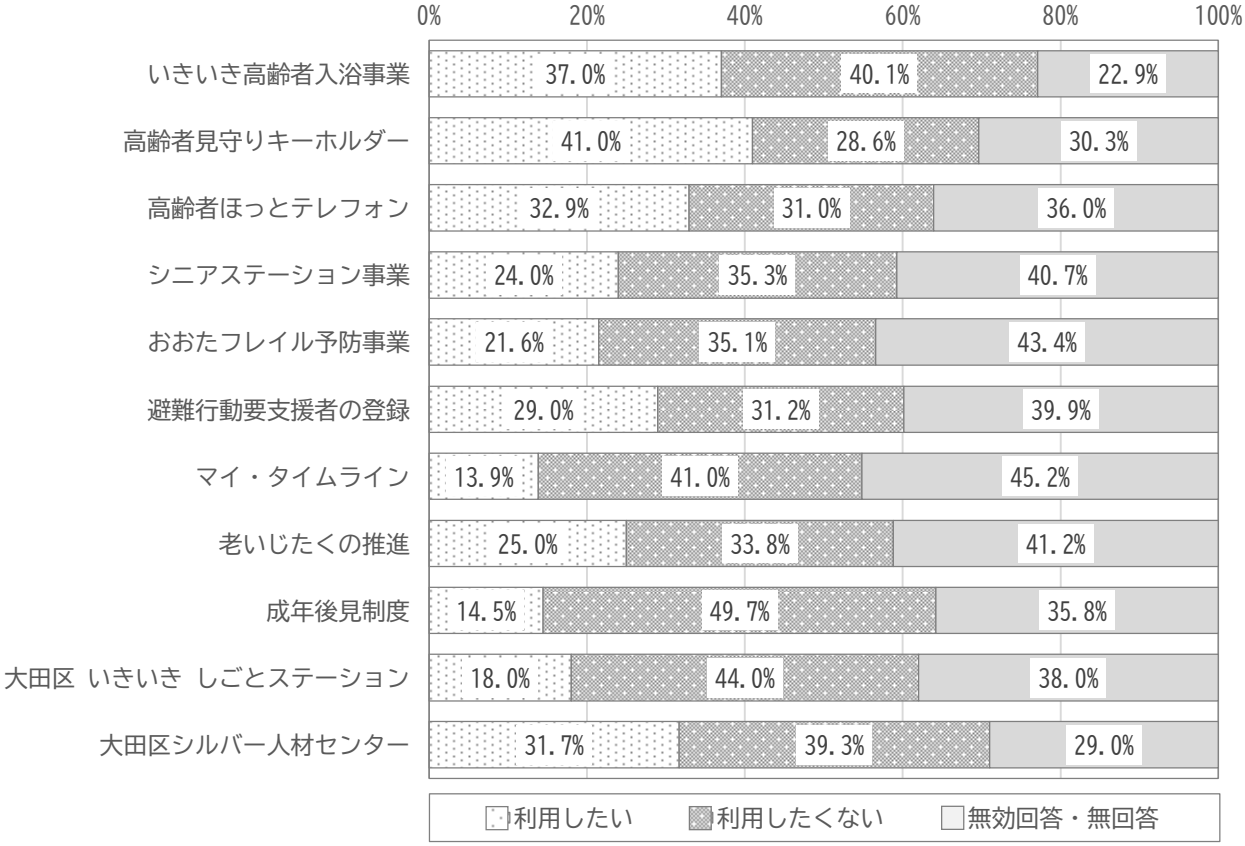
区の高齢者向け事業やサービスについて知っているかどうかたずねたところ、「大田区シルバー人材センター」は 72.6%が「知っている」と回答しており、そのほか「いきいき高齢者入浴事業」や「高齢者見守りキーホルダー」、「成年後見制度」等は比較的認知度が高くなっています。一方、「マイ・タイムライン」や「老いじたくの推進」のように、「知らない」が８割以上となっている事業も見られます。

図表 140　区の高齢者向けの事業・サービスの認知度



区の高齢者向け事業やサービスについて、今後利用してみたいと思うかどうかたずねたところ、認知度の高かった「高齢者見守りキーホルダー」や「いきいき高齢者入浴事業」、「大田区シルバー人材センター」については３割以上が「利用したい」と回答しています。また、認知度は低かったものの、「高齢者ほっとテレフォン」については 32.9%が「利用したい」と回答しています。

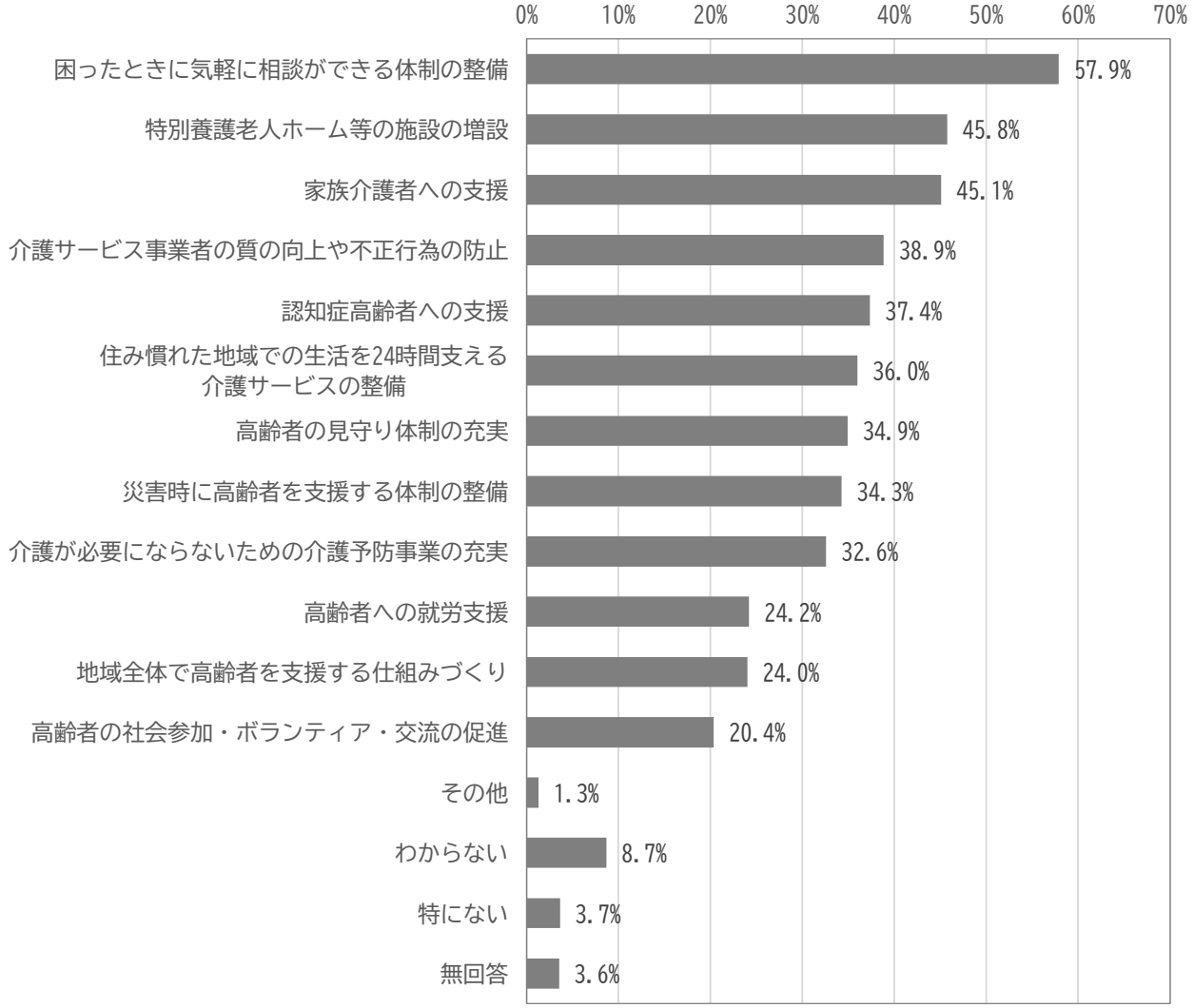
図表 141　今後利用したいと思う区の高齢者向け事業・サービス



③今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス【問 38】

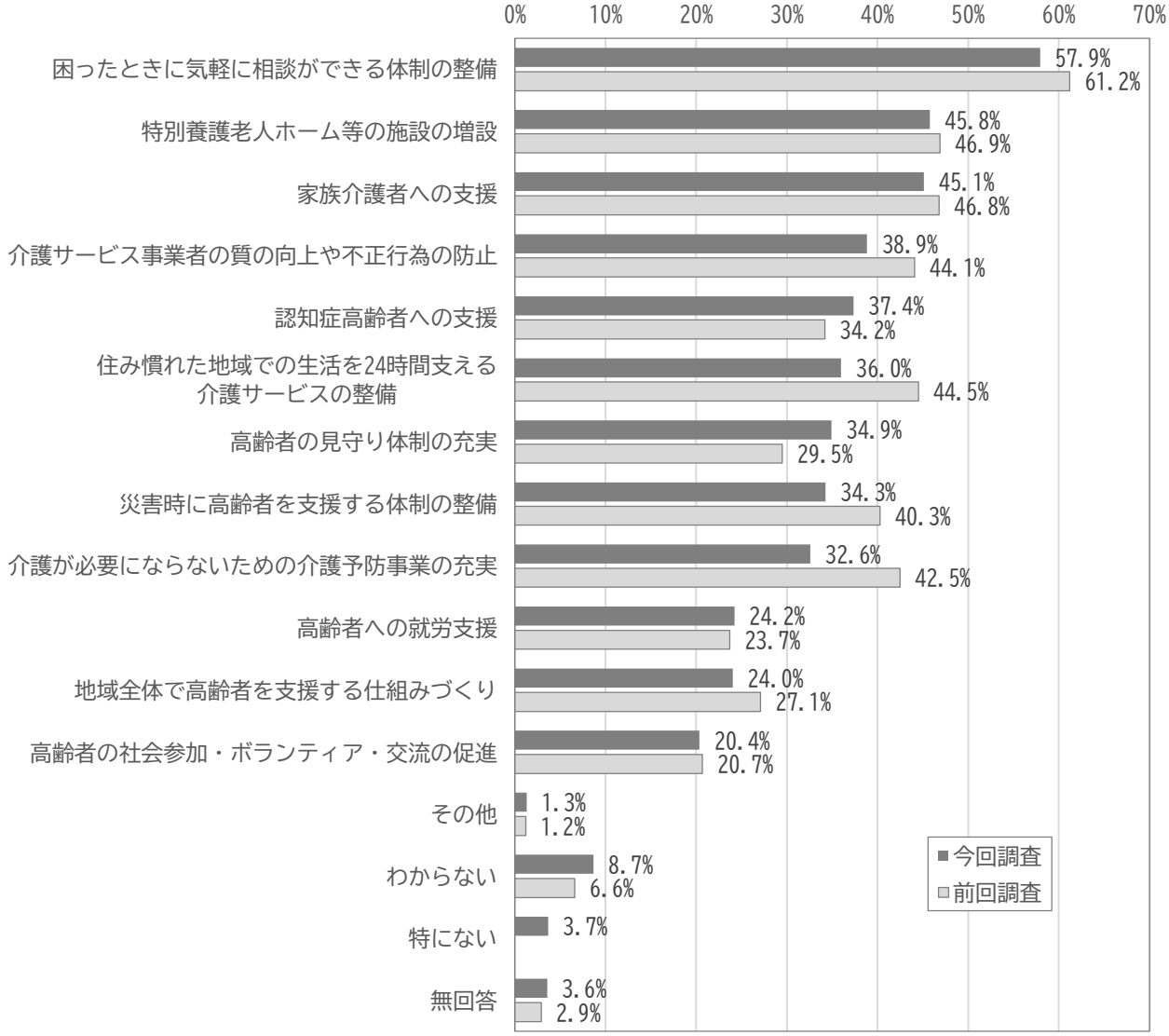
今後、区が特に力を入れて取り組むべきと考えられる事業やサービスについてたずねたところ、「困ったときに気軽に相談ができる体制の整備」が 57.9%と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設の増設」が 45.8%、「家族介護者への支援」が 45.1%となっています。

図表 142　今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、回答傾向は概ね同様となっていますが、前回調査よりも割合が低くなっている項目が多く、特に「介護が必要にならないための介護予防事業の充実」は前回より 9.9 ポイント低くなっています。

図表 143　今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス（前回調査との比較）



※「特にない」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

④区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見・要望【問 39】

区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見や要望について、自由記述形式でたずねたところ、様々な回答が得られました。以下、いただいた回答の一部を掲載します。

■介護保険や介護サービスに関すること

【介護保険・介護サービスへの要望・意見：44 件】

・姑（認知症）の介護を 10 年余りしたことがあります。夜間の徘徊等でクタクタの日々でした。ショートステイがなかなか取れず苦しい思いをしたことがあります。家族介護者への支援の充実を願います。

・介護保険もいろいろ制限が有り、使える物が不足していると思います。充実してもらい、独居の人や、介護が必要な人が、不自由なく介護してもらえる制度が、早く出来る事を祈ります。

・夫婦共に後期高齢者で、夫の介護をしております。介護をする家族が健康であることが前提の介護サービスの様な気がします。デイサービスを欠席すると、家族は、通院はもちろんのこと、休養も出来ず、体調を崩してはならないと頑張っております。老老介護の事をご検討下さいませ。

【介護保険料に関する要望・意見：30 件】

・介護保険料が高い。利用者負担をもっと増やし、65 歳以上で働いている人間の負担を減額すべき。働いているのは、生活が苦しいからである。

・元気で生活している者（健康に気を付けている者）にとって介護保険料は高額です。かと言って介護を受ける生活は送りたくありません。身体に気を付けて体調を整えて生活しているのに保険料を年金から取られるのは民間の保険会社の掛け捨ての保険と同じような気がします。元気で生活をしている者には特典があっても良いのでは。

【介護保険の手続きに関する意見や要望：10 件】

・介護を受ける時、書類が多すぎて文字も書くのが大変です。最近は、英文もあり、高齢者には理解出来ません。

・高齢者への書類の手続をスムーズにわかりやすく出来るようにしてほしい。若い人と同じようには出来ません。何回も足を運ぶようなことがないようにして下さい。時間はたっぷりありますが、出かけるのは大変です。

【介護人材の確保・処遇改善に関する意見や要望：8 件】

・介護施設に働く職員の待遇改善をして職員数を増やしてほしい。

■高齢者福祉施策や行政の役割に関すること

【高齢者の住まいの整備に関する要望・意見：42 件】

・家族で介護するには限度がある。高額な年収の人はともかく、どの人も自分の年金で施設に安心して入所出来るようにして欲しい。近所に高額な施設が出来ても年金生活では入所できない。区の施設は少なすぎる。せまき門です。

・特別養護老人ホームの増設。長いこと待たずにすぐに入居できるようお願いします。

・区立の介護施設を増やすこと。民間にゆだねる時は事業内容を充分に審査してほしい。

【福祉施策に関する要望・意見：29 件】

・高齢者だけを囲い込むような政策は考え直すべきかと思う。働く世代は別として、若年層との関わりは、核家族時代の今どうしたら、ふれ合えるのか。若い人からの刺激はとても大事。

・高齢者、認知症といってもその個人の生活環境など（家を所有しているか、借りているか、１人暮しか、家族がいるか等）により、様々な対応があると思います。今後、更に高齢者が増えますので、良き生活ができるようサポートをお願い致します。

【行政への要望・意見：33 件】

・高齢者についての事業に限らないが、様々な事業を実施している場所に偏りがある。例えば、区報に載っている趣味の活動、今回初めて知ったシニアステーション事業も、私が住んでいる地域からは不便で、仕事の合間に利用するには適していない。場所の確保に問題があるのだとは思うが、もう少し分散していただけるとありがたい。

・区からの書類がたくさん送られてくるのですが部署の違いがわかりづらいため、高齢者事業の組織図（全体の流れがわかる）みたいな物があると良いと思います。また行政の中でも横の繋がりがあった方が良いと思われます。

・地域包括支援センターの担当地域の見直し改善。歩いて１分のところは担当ではなく担当のセンターは遠くにあり不便。災害時の避難場所も同様。

【地域づくりに関する意見や要望：14 件】

・地域で気軽に集えてお茶飲みできる様な場があったらと空き店舗を見ながら思います。情報交換もでき、時には出来る範囲で手助けもできるのではと。

・これから１人住まいの高齢者がますます増えてくるので町会の役割が重要になってくると思う。役所も補助金などを出して見回りの緊急通報システムを整備することなどが必要だと思う。

■介護予防等に関すること

【介護予防や健康づくりに関する意見や要望：18 件】

・自分の健康状態、体力がどの位か、わかりません。大田区では体力測定を抽選で行っていますが、全員が受けられるようにしてほしい。

・認知症にならないよう脳トレや歩行訓練に励んでいますが、自分一人での体操等には限界があり、介護施設で続けていたかったのですが打切りになり、自宅での訪問看護リハビリに変更になった。仲間とのコミュニケーション不足で寂しいです。

・高齢者向け、スポーツ（マシントレーニング含む）を身近な施設で受けられるようにして頂けたらありがたい事です。

【社会参加に関する意見や要望：16 件】

・就労に対する取組を充実させてほしい。しごとステーションに行ったが、高齢者の仕事が、あまりにも限られているのに失望した。

・出来る限り働きたい。経済的理由からで、体力に自信がある訳ではないので、高齢者でも出来る仕事を探してほしい。

・元気でいられる間は、社会参画していきたいので、有償・無償ボランティアの機会、情報提供が欲しい。

【活動の場に関する意見や要望：12 件】

・高齢者が利用する文化センター等の施設の申込みをネット及びスマートフォンでできるようにしてほしいです。

・生涯学習が、昔より盛んになったのには驚いています。同様に大田区の事業以外に、区民のボランティア精神を活用して、各地域の人々が助け合って高齢者介護などの支援するしくみが出来ればと願っています。

■生活支援に関すること

【生活の不安に関すること：21 件】

・いろいろな制度や施策が見えづらく、わかりづらいのでほとんど知られていないということは問題だと思います。地域で安心して暮らすということが実感できず、地域のつながりもないのでこれから先孤立するのではないかと心配です。

・自分では、今の所、何とか生活をしておりますが１番心配なのは、ここの所２～３年で世の中が急変して、１人暮らしの老人では、聞いたことの無い言葉も増え、スマホの使用もわからず、世の中に置いて行かれるようでとっても不安です。

【生活支援に関する意見や要望：15 件】

・このごろ自然災害が多く、周りの家では大きな木が多く地震・台風などの大雨強風の時も大きな木々が倒れたらと思うと心配です。危険対策も見直して下さい。

【経済的な支援に関する意見や要望：12 件】

・住居、食費、医療費の経済的支援をお願いします。

・年金の少ない 70 歳以上の老人に手厚い補助をお願いしたい。

■情報発信、相談対応

【情報発信に関する要望・意見：73 件】

・80 歳になりましたが、区から何も支援に関する問い合わせもありません。すべて申請主義で何をどう支援してもらえるかもわかりません。他の区の対応で、昔、父母、祖母の時代は区からプレゼントが届くとともに訪問があっていろいろ説明されたこともありました。申請を待つのでなく、手をさしのべる福祉であってほしいです。

・区報を含め、高齢者向けの情報やサービス（65 歳以上対象）の充実、文字の体裁を含めわかり易い内容の情報サービスを求める。また、問い合わせ先も、わかり易く丁寧な対応を求める。

【相談対応に関する意見や要望：14 件】

・介護経験者ですが、どこへ相談したらいいのか、何をしたらいいのかわからなかったのが実状です。今も事業やサービスは把握できていません。

・区役所、保健所などで気軽に相談にのって頂けたら精神的に楽で出かけ易いと思います。

【アンケート調査への意見：58 件】

・このアンケートについて質問量が多い。時間制限がある為に紙に記入してから（電子回答に）入力してみたが、紙と入力が一致してない箇所があり、選択肢で選べない入力が多々ある。

・本人に聞いても、考えがでてこない所もありました。本人に代わり、書いた所もあります。89 歳の父には、むずかしいですね。

・この調査にて知らない大田区の高齢者の為の事業がある事を初めて知りました。自分が健康で理解力のあるうち、もう少し取り組む必要があると思いました。

（14）調査結果に基づく一般高齢者のリスク指標

今回実施した「高齢者一般調査」では、国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」に準拠し、運動器の機能や栄養状態等に関する指標を把握するための質問を設けています。

これらの質問に対する回答結果に基づき、各種指標について以下のとおり判定しました。

①「運動器の機能低下」に関する指標

下記の質問に基づき「運動器の機能低下」に関する判定を行いました。

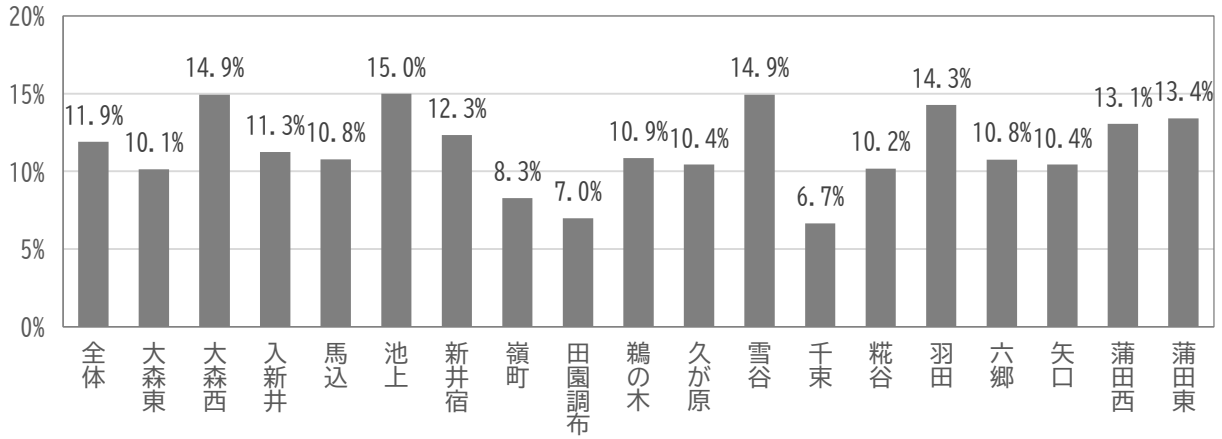
図表 144　「運動器の機能低下」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 13(1)	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているか	３．できない	左記のうち、３つ以上該当
問 13(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	３．できない	
問 13(3)	15 分位続けて歩いているか	３．できない	
問 13(4)	過去 1 年間に転んだ経験があるか	１．何度もある ２．1 度ある	
問 13(5)	転倒に対する不安は大きいか	１．とても不安である ２．やや不安である	

区全体では、11.9%が「運動器の機能低下」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、いずれも区全体と比べ±５ポイント程度の範囲に収まっており、「嶺町」(8.3%)・「田園調布」（7.0%）・「千束」（6.7%）において、比較的割合が低くなっています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 11.8%が「運動器の機能低下が見られる」と判定されており、今回もほぼ同様の結果（+0.1 ポイント）となっています。

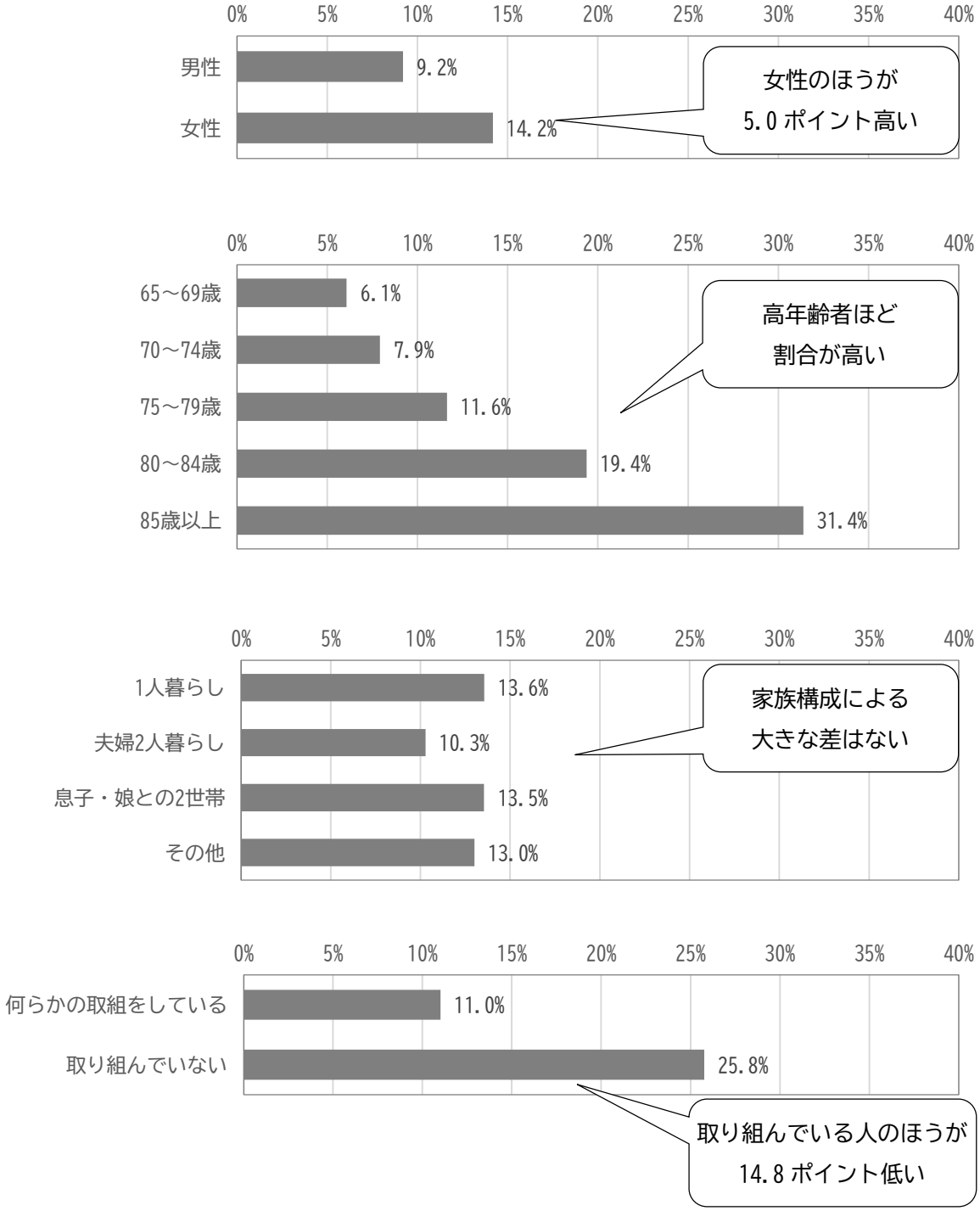
図表 145　「運動器の機能低下」が見られると判定された方の割合



「運動器の機能低下」の指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況（問22 で「特に行っていない」と回答した方を「取り組んでいない」、それ以外を「何らかの取組をしている」と判定）別の結果は以下のとおりです。

年齢が 80 歳を超えると顕著に割合が高くなり、また介護予防に関して取り組んでいる方・取り組んでいない方で状態に差が見られます。

図表 146　「運動器の機能低下」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）



②「転倒リスク」に関する指標

下記の質問に基づき「転倒リスク」に関する判定を行いました。

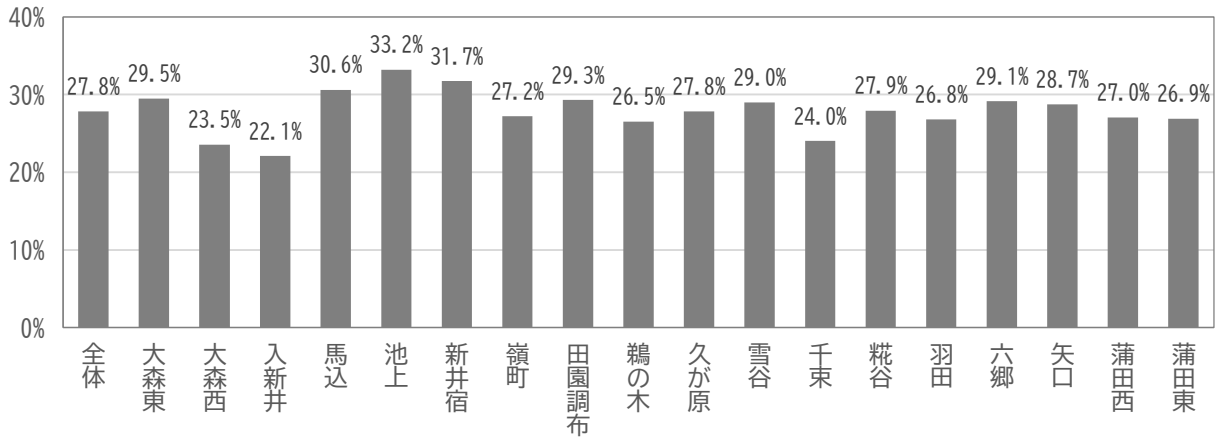
図表 147　「転倒リスク」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 13(4)	過去 1 年間に転んだ経験があるか	１．何度もある ２．１度ある	左記のうち １つ以上該当

区全体では、27.8%が「転倒リスク」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、総じて区全体と比べ±５ポイント程度の範囲に収まっています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 25.8%が「転倒リスクがある」と判定されており、前回よりも 2.0 ポイント高い結果となっています。

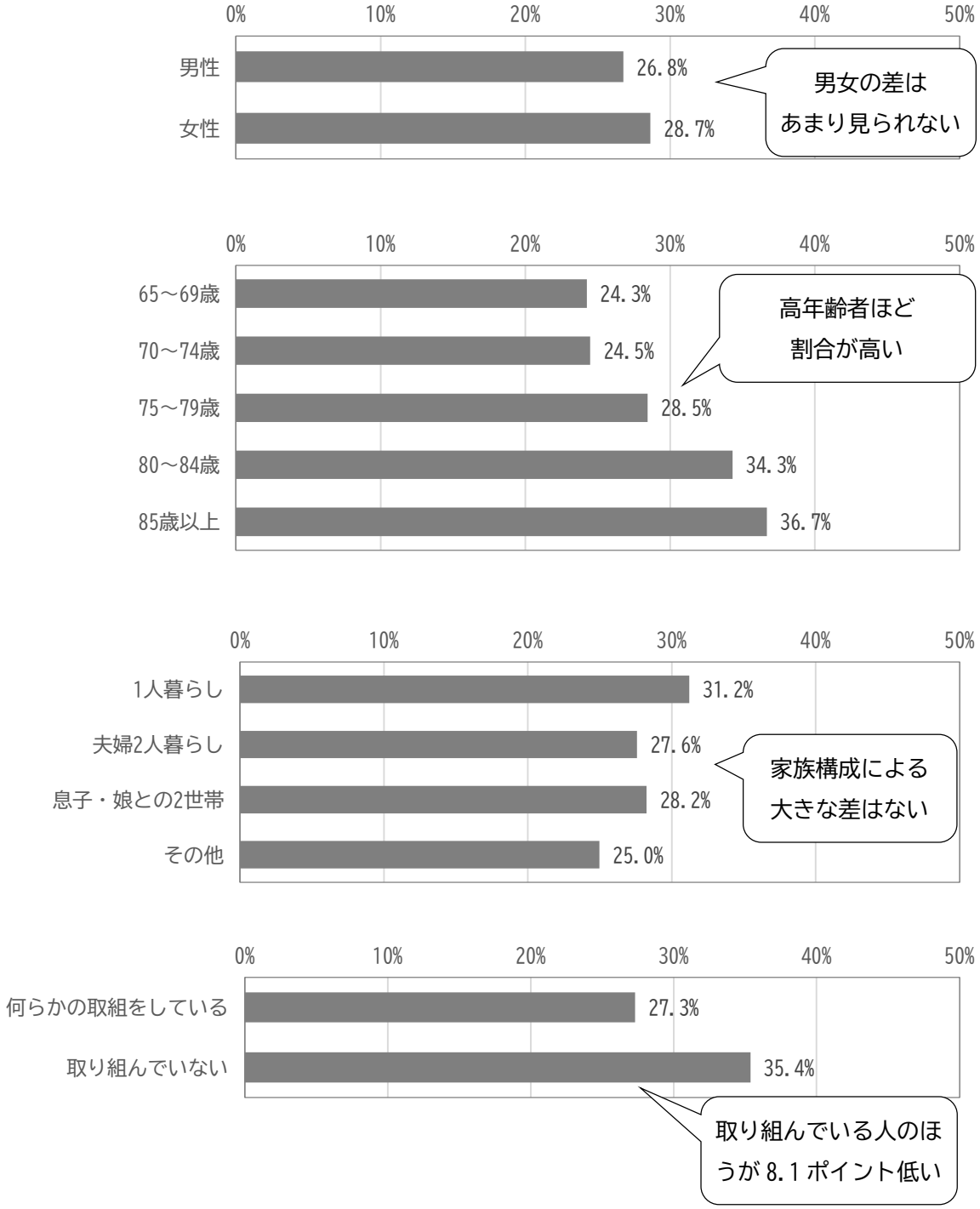
図表 148　「転倒リスク」が見られると判定された方の割合



「転倒リスク」の指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

「運動器の機能低下」に関する指標と同様、年齢が高くなるにつれて、「リスクが見られる」と判定される割合が高くなる傾向が見られます。

図表 149　「転倒リスク」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）



③「閉じこもり傾向」に関する指標

下記の質問に基づき「閉じこもり傾向」に関する判定を行いました。

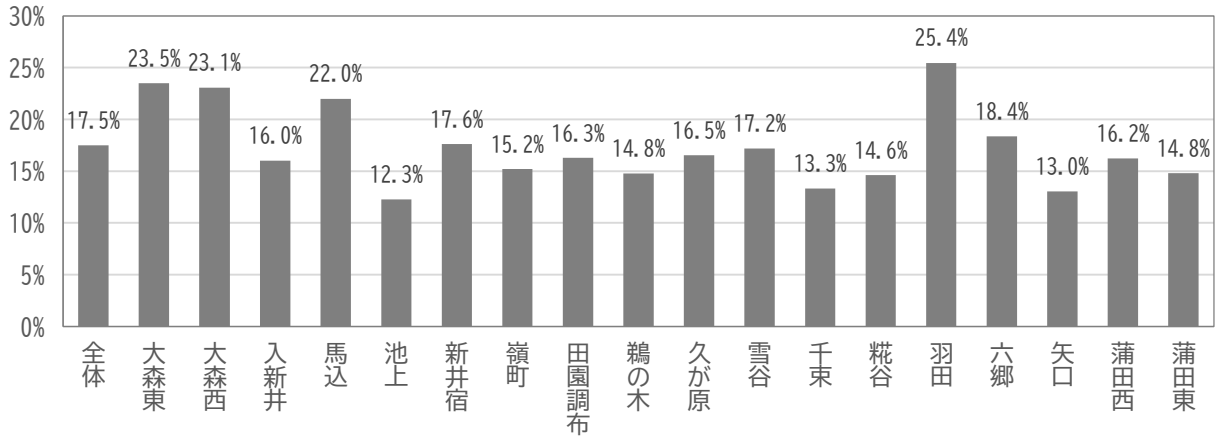
図表 150　「閉じこもり傾向」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 13(6)	週に１回以上は外出しているか	１．ほとんど外出しない ２．週１回	左記に該当

区全体では、17.5%が「閉じこもり傾向」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、総じて 15%程度の圏域が多いのに対し、「大森東」(23.5%)、「大森西」(23.1%)、「馬込」(22.0%)、「羽田」(25.4%) では 20%を上回っています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 12.2%が「閉じこもり傾向が見られる」と判定されており、前回調査よりも 5.3 ポイント高い結果となっています。

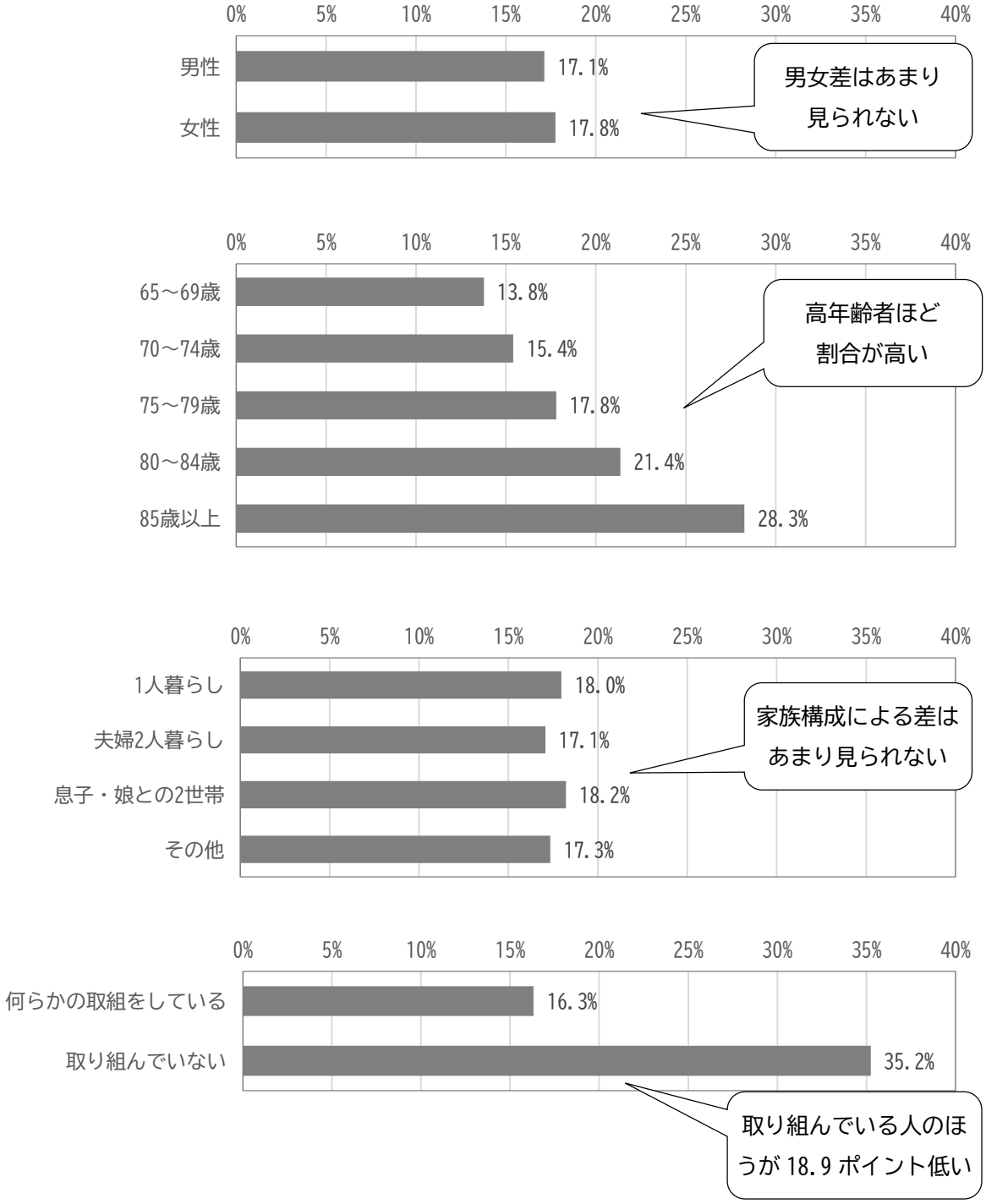
図表 151　「閉じこもり傾向」が見られると判定された方の割合



「閉じこもり傾向」に関する指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

他の指標と同様、年齢が高くなるにつれて「リスクが見られる」と判定される割合が高くなる傾向が見られますが、これには身体機能の低下も影響していると考えられます。なお、介護予防に取り組んでいる人と取り組んでいない人の差については、他の指標よりも大きな差が見られます。

図表 152　「閉じこもり傾向」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）



④「低栄養の傾向」に関する指標

下記の質問に基づき「低栄養の傾向」に関する判定を行いました。

図表 153　「低栄養の疑いがある」という指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 14(1)	身長・体重	身長・体重から算出された BMI※	BMI が 18.5 未満

※BMI の計算式：体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）

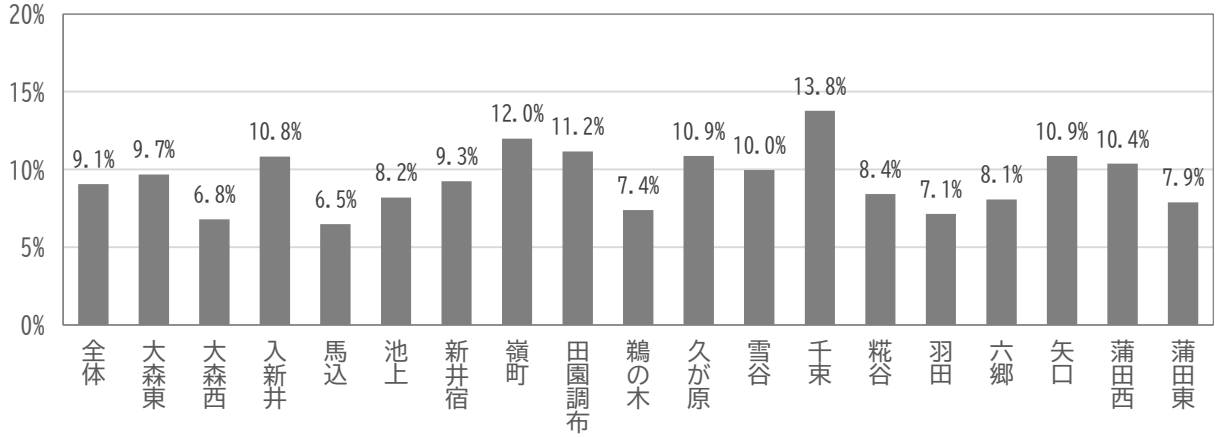
図表 154　「低栄養状態にある」という指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 14(1)	身長・体重	身長・体重から算出された BMI が 18.5 未満	両方が該当
問 14(2)	６か月間で２～３kg以上の体重減少があったか	１．はい	

区全体では、9.1%が「低栄養の疑いがある」と判定されました。日常生活圏域別の結果では、いずれも区全体と比べ±３ポイント程度の範囲に収まっており、「嶺町」(12.0%)、「千束」(13.8%）において、比較的割合が高くなっています。

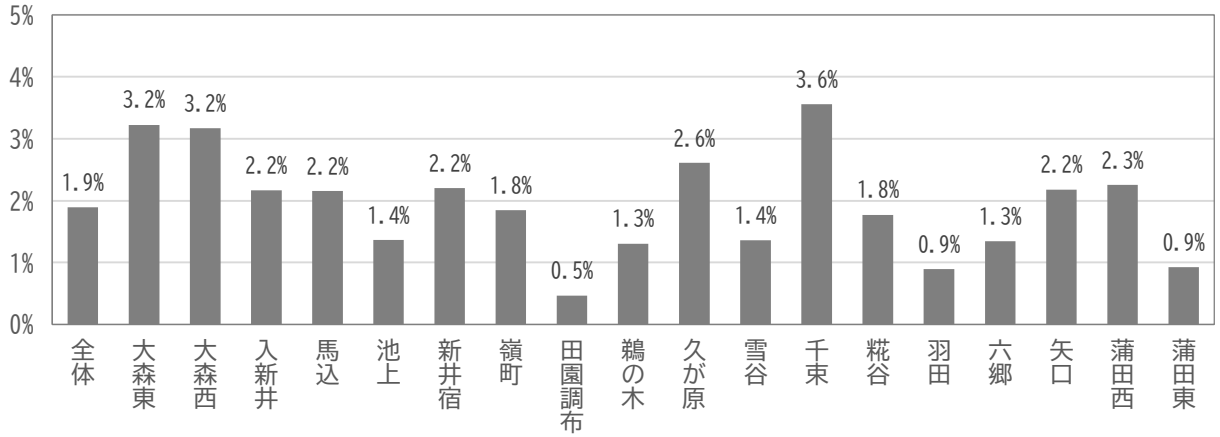
「低栄養状態にある」との判定は区全体で 1.9%であり、最も割合が高かったのは千束（3.6%）となっています。

図表 155　「低栄養の疑いがある」と判定された方の割合



※分母が全回答者となっているため、問 14(1)の「BMI が 18.5 未満」の割合（9.6%）とは一致しません

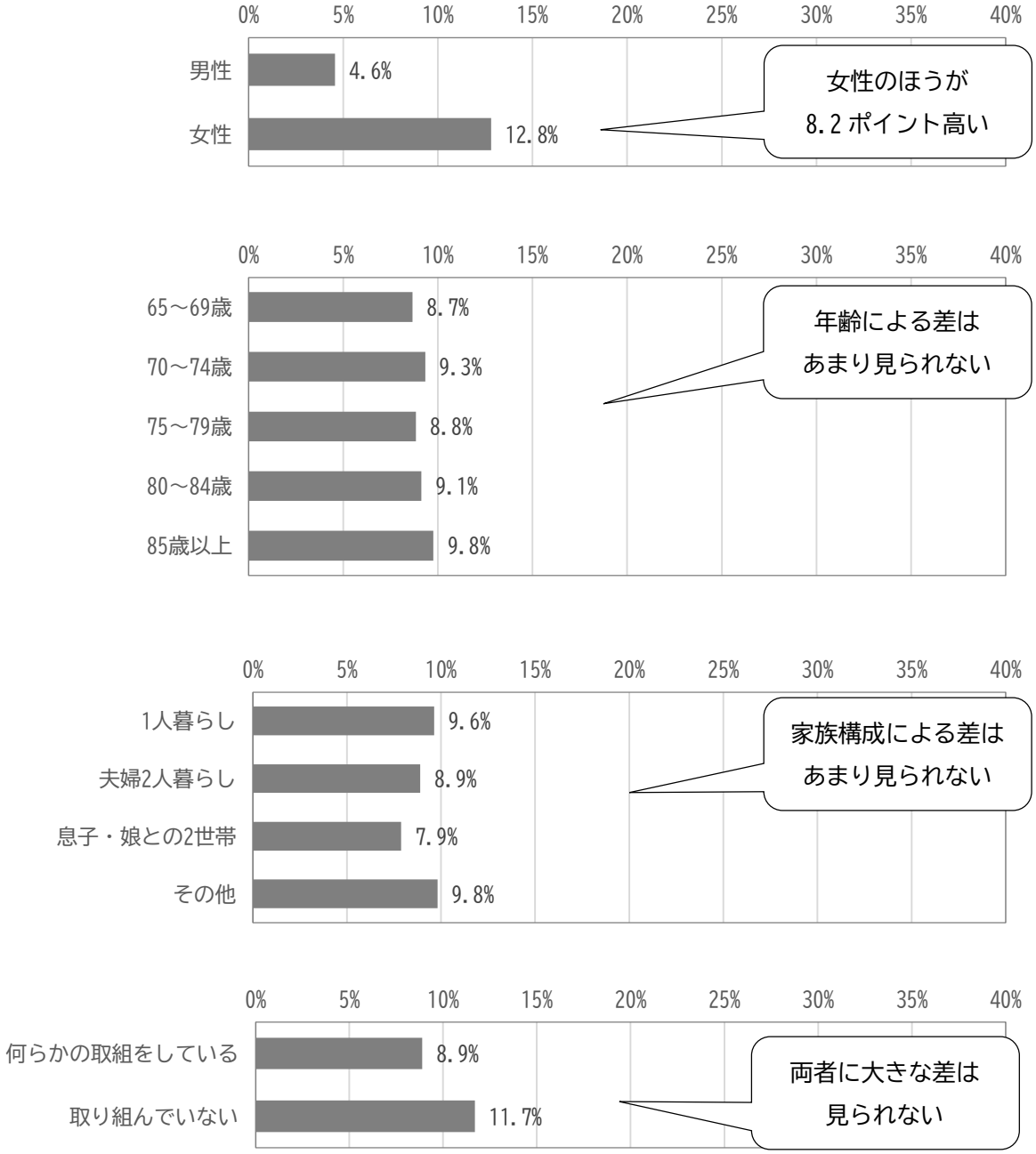
図表 156　「低栄養状態にある」と判定された方の割合



「低栄養の疑いがある」との指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

全体的に女性のほうが体重が軽いということも影響し、女性のほうが判定割合が高くなっていますが、それ以外の属性については特に差は見られません。

図表 157　「低栄養の疑いがある」と判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）



⑤「口腔機能の低下」に関する指標

下記の質問に基づき「口腔機能の低下」に関する判定を行いました。

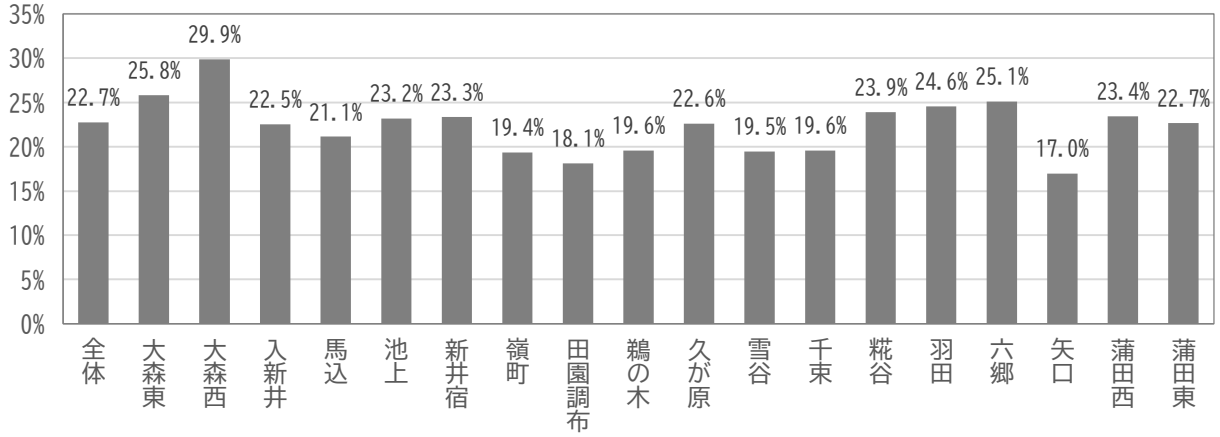
図表 158　「口腔機能の低下」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 14(3)	半年前に比べ、固いものが食べにくくなったか	１．はい	左記のうち、２つ以上該当
問 14(4)	お茶や汁物等でむせることがあるか	１．はい	
問 14(5)	口の渇きが気になるか	１．はい	

区全体では、22.7%が「口腔機能の低下」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、総じて区全体と比べ±５ポイント程度の範囲に収まっていますが、「大森西」では 29.9%と、他の圏域と比べ割合が高くなっています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 19.9%が「口腔機能の低下が見られる」と判定されており、前回よりも 2.8 ポイント高い結果となっています。

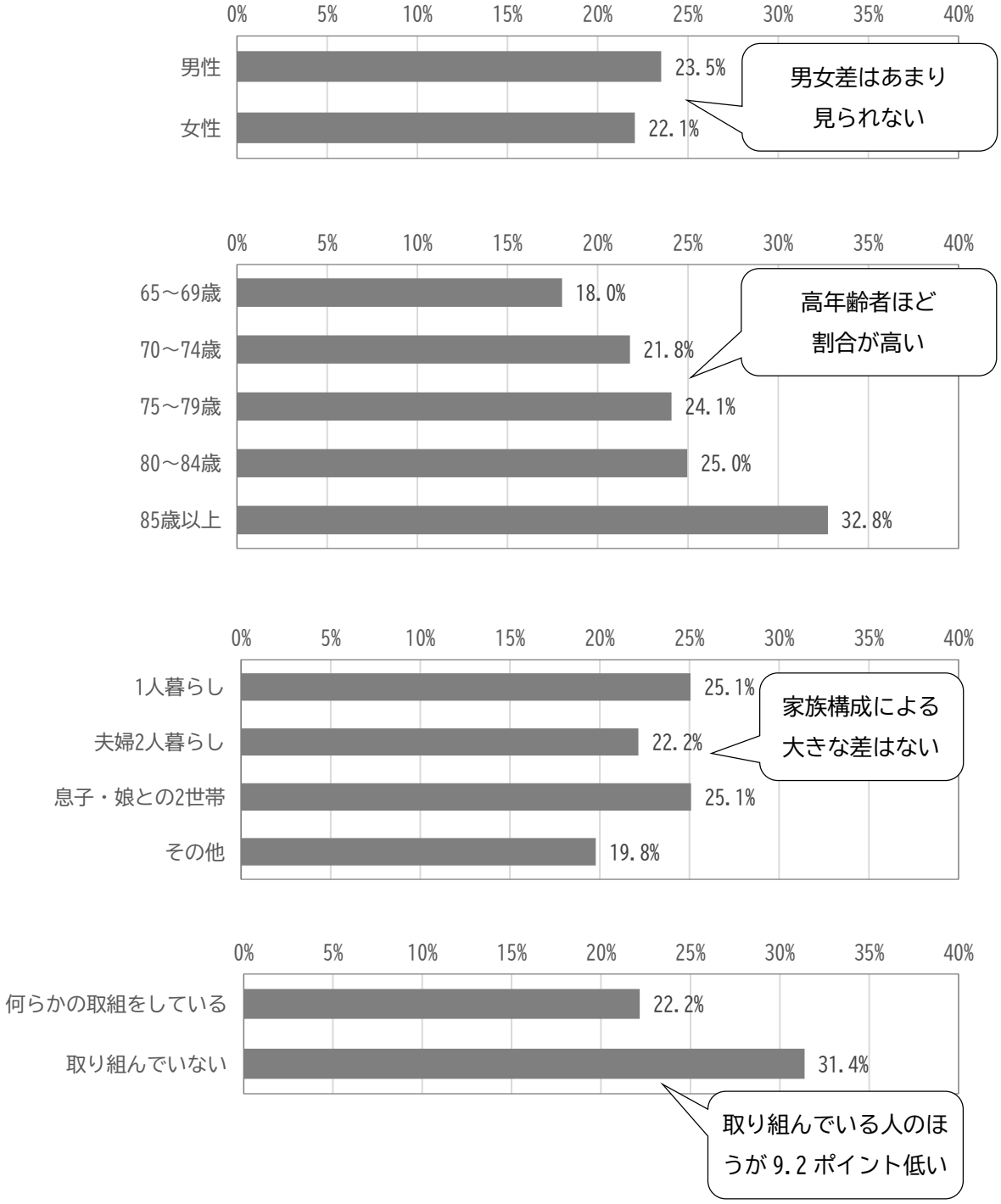
図表 159　「口腔機能の低下」が見られると判定された方の割合



「口腔機能の低下」に関する指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

「運動器の機能低下」等に関する指標と同様、年齢が高くなるにつれて、「リスクが見られる」と判定される割合が高くなる傾向が見られます。また、介護予防に取り組んでいる人のほうが判定割合が低いという結果が得られています。

図表 160　「口腔機能の低下」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）

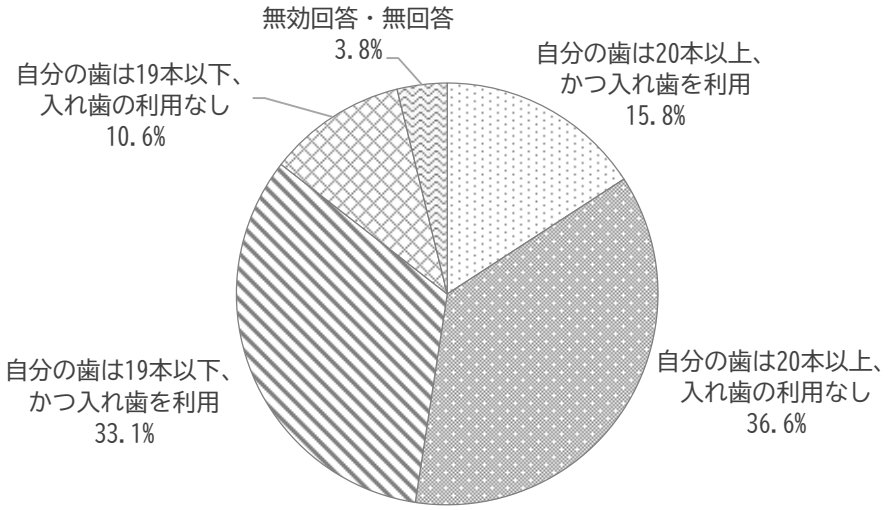


「口腔機能の低下」と関連して、「入れ歯の使用状況と歯の本数」に関する質問への回答は以下のようになっています。

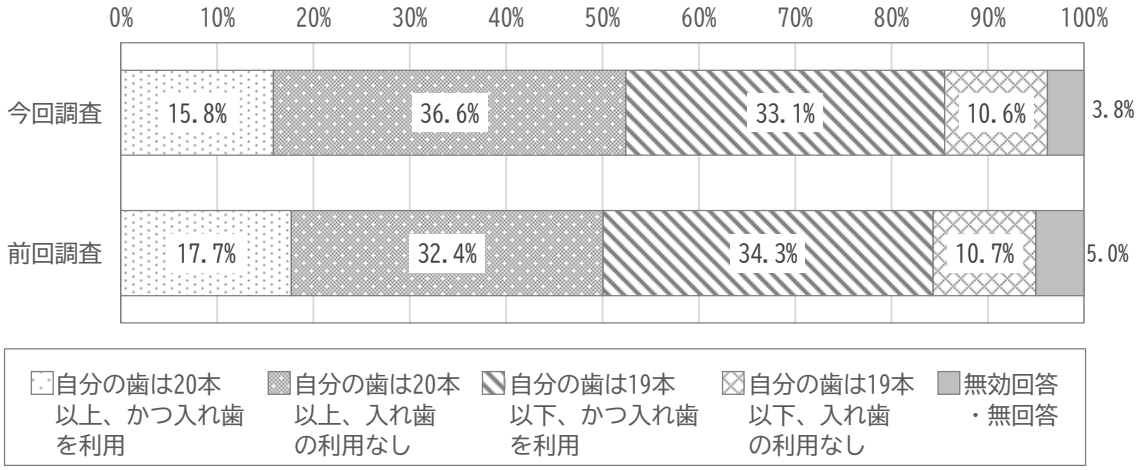
歯の本数及び入れ歯の利用状況について、「自分の歯は 20 本以上」（「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」の合計）の回答が 52.4%であり、また「入れ歯を利用している」（「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の合計）との回答は 48.9%となっています。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。

図表 161　「歯の本数と入れ歯の利用有無」に関する質問への回答（再掲）

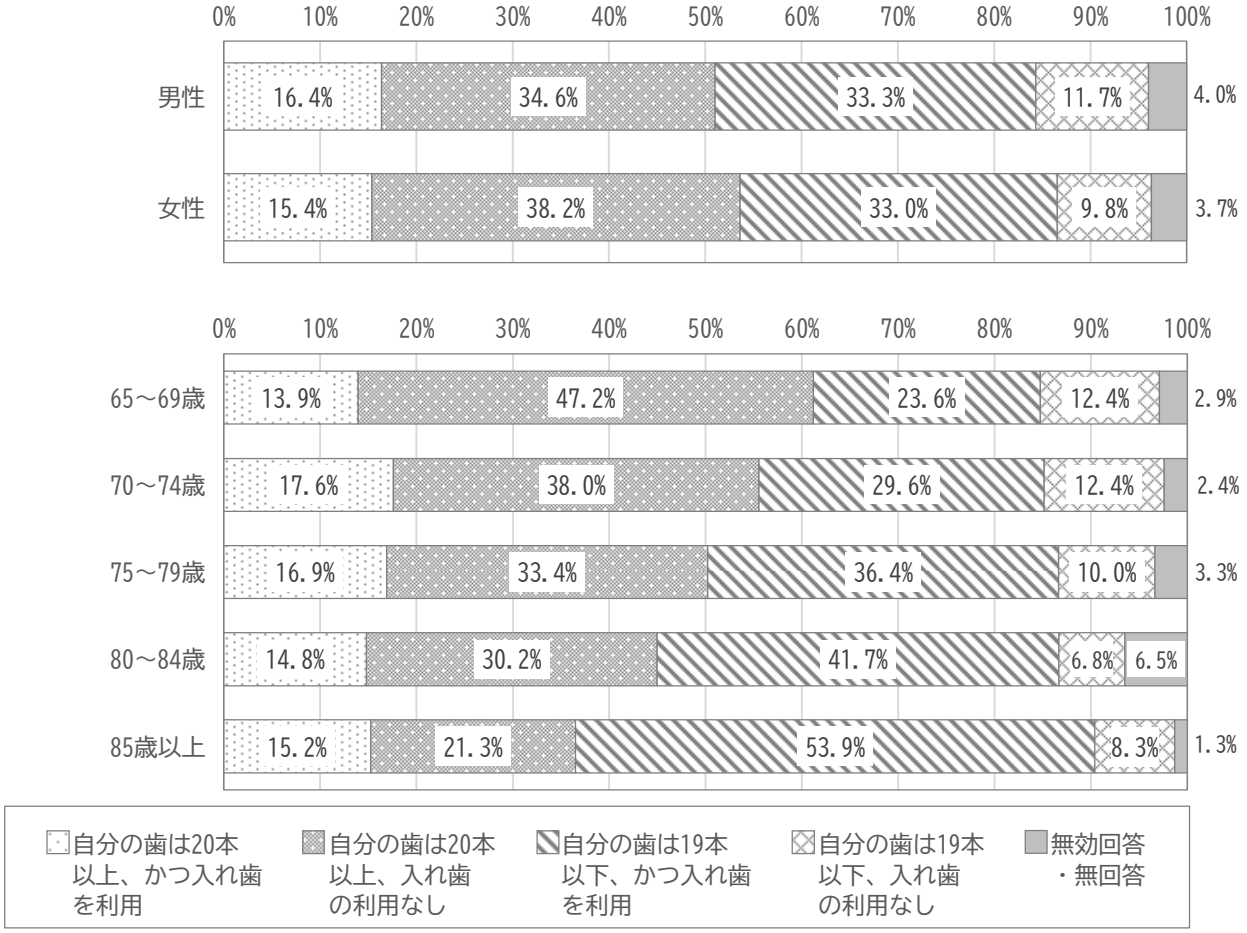


図表 162　「歯の本数と入れ歯の利用有無」に関する質問への回答（前回調査との比較）



歯の本数及び入れ歯の利用状況について、男女別には特に差は見られませんが、年齢別の回答を見ると、年齢が高いほど「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高くなっています。

図表 163　「歯の本数と入れ歯の利用有無」に関する質問への回答（男女別・年齢別）

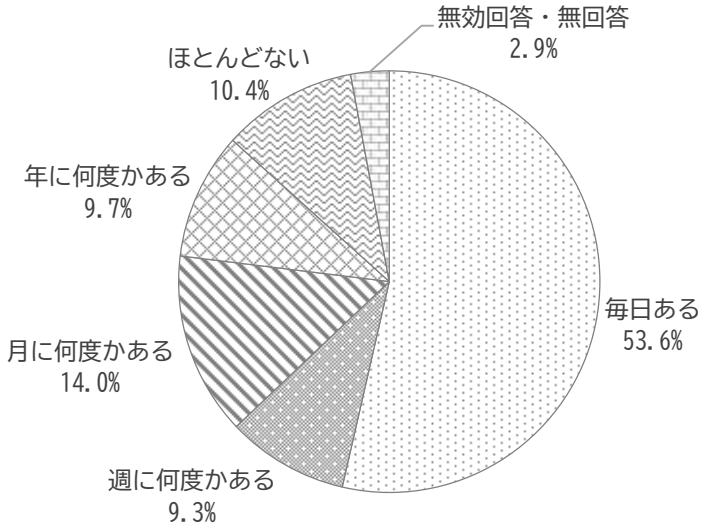


また、「誰かと食事をともにする頻度」に関する質問への回答は以下のようになっています。

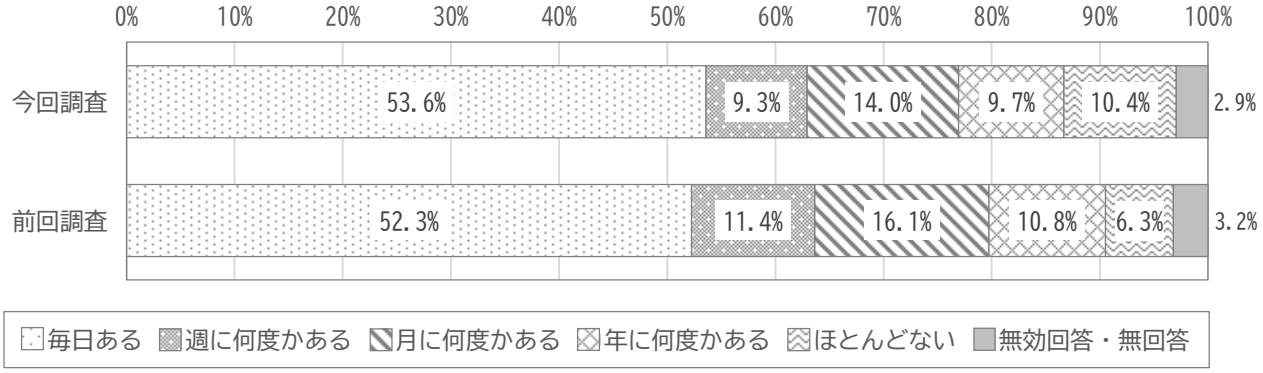
「毎日ある」が 53.6%となっている一方、「年に何度かある」、「ほとんどない」といった、頻度の低い回答も見られます。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。

図表 164　誰かと食事をともにすることの頻度（再掲）

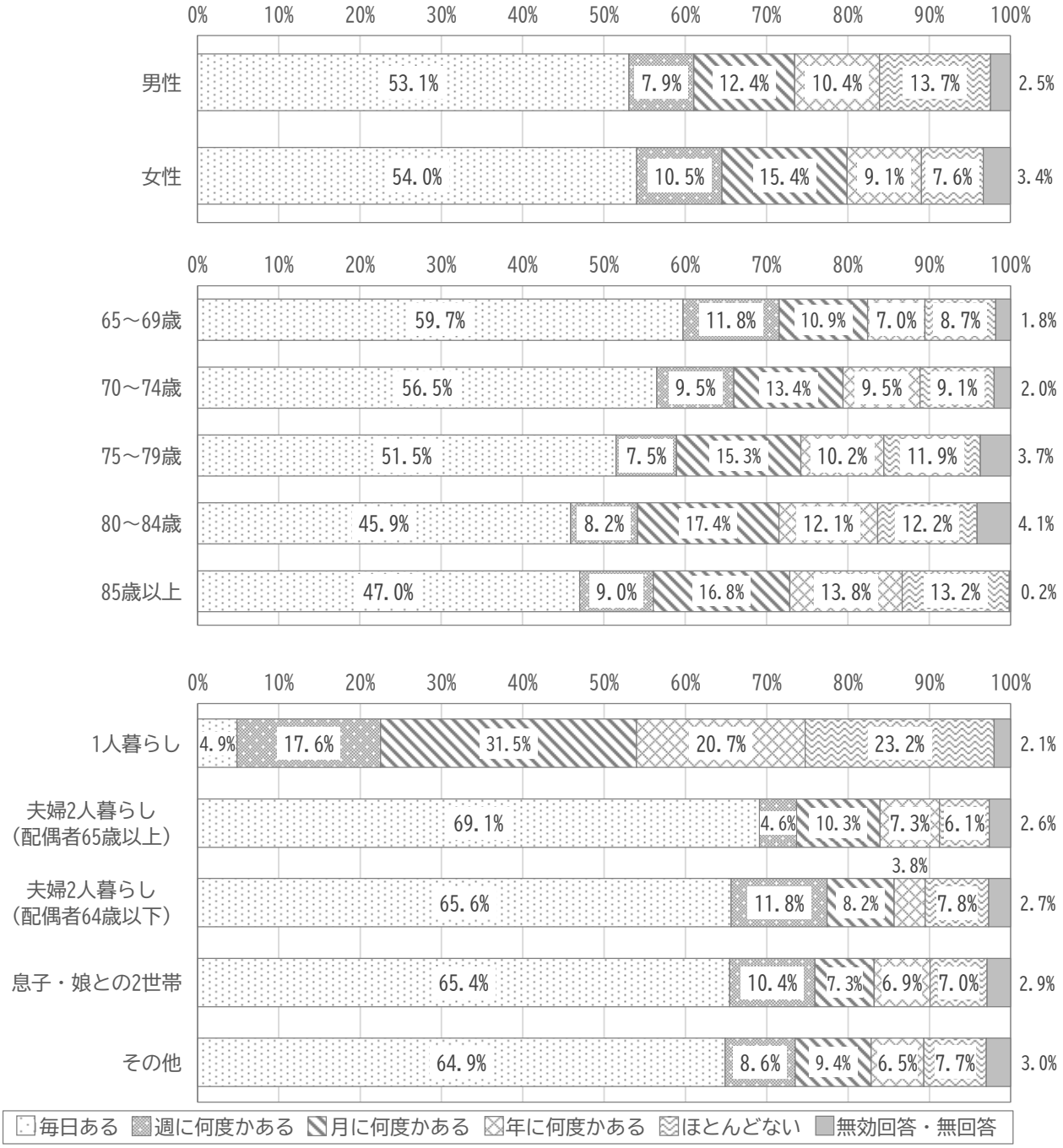


図表 165　誰かと食事をともにすることの頻度（前回調査との比較）



男女別には特に回答傾向の違いは見られませんが、年齢別には、年齢が高いほど「毎日ある」の割合が低下し、頻度の低い回答の割合が高くなる傾向が見られます。また、家族構成別に見ると、「１人暮らし」では「年に何度かある」、「ほとんどない」といった、頻度の低い回答が４割を超えており、他の家族構成と比べ割合が高くなっています。

図表 166　誰かと食事をともにすることの頻度（男女別・年齢別・家族構成別）



⑥「認知機能の低下」に関する指標

下記の質問に基づき「認知機能の低下」に関する判定を行いました。

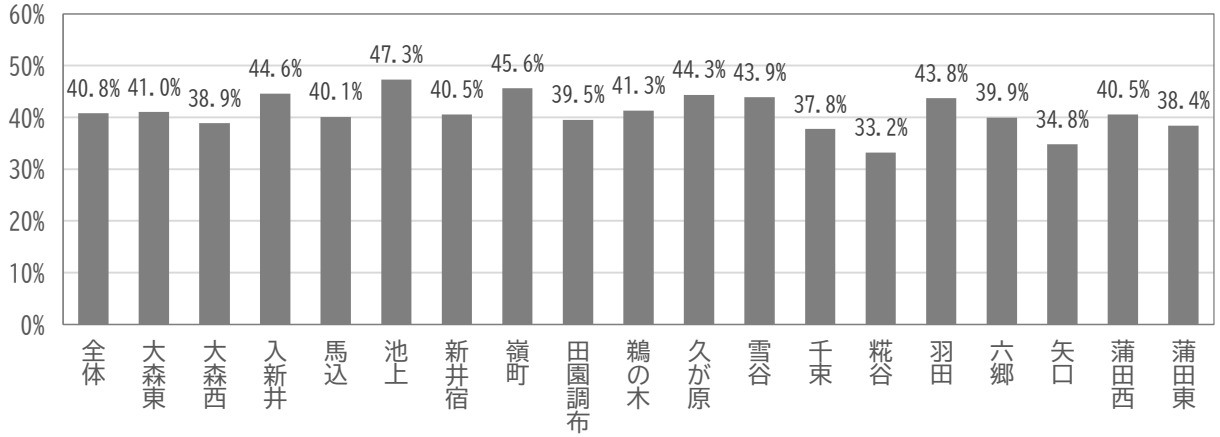
図表 167　「認知機能の低下」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 15(1)	物忘れが多いと感じるか	１．はい	左記に該当

区全体では、40.8%が「認知機能の低下」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、「池上」が 47.3%と最も割合が高く、次いで「嶺町」が 45.6%、「入新井」が 44.6%となっています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 37.0%が「認知機能の低下が見られる」と判定されており、前回調査よりも 3.8 ポイント高い結果となっています。

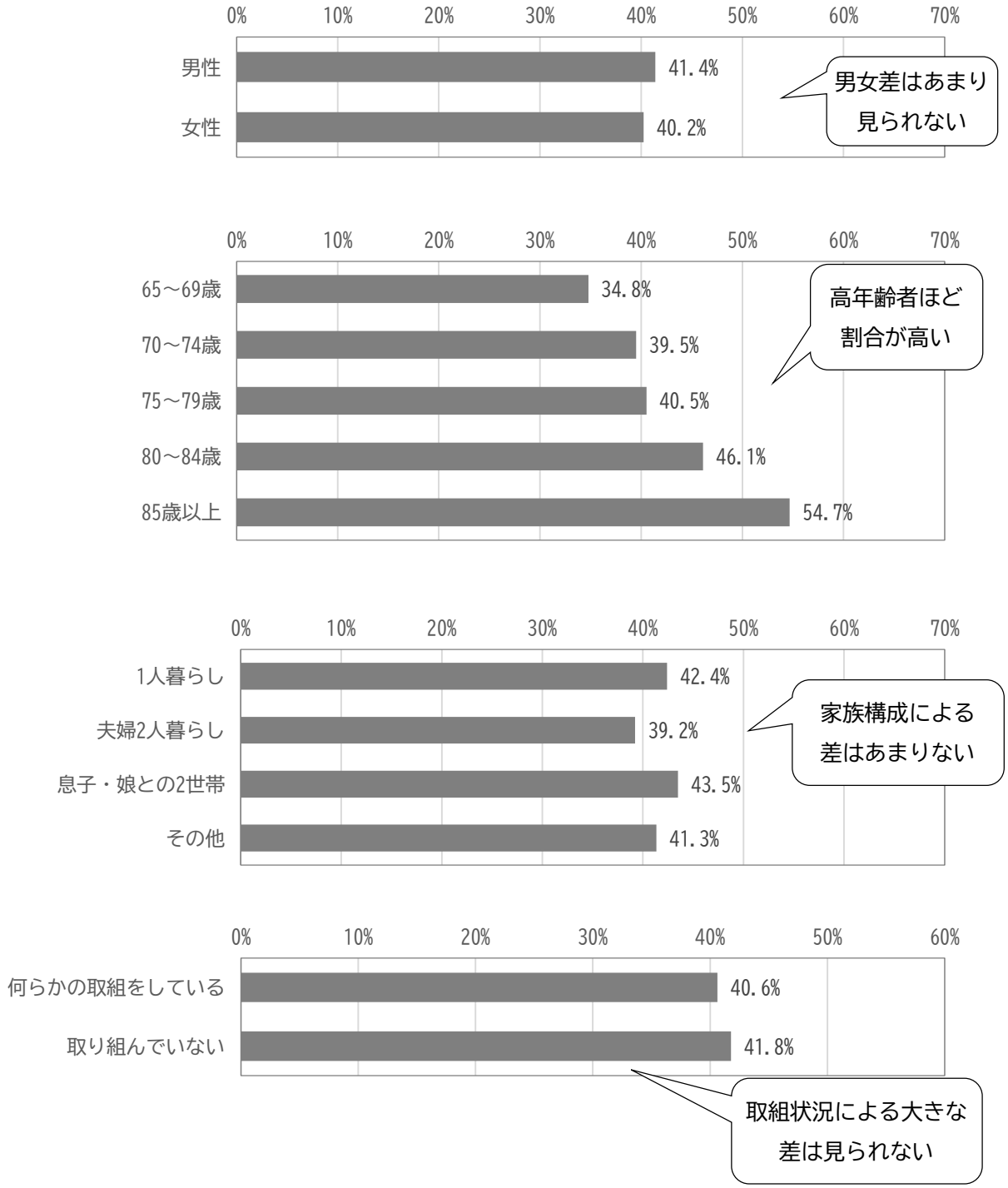
図表 168　「認知機能の低下」が見られると判定された方の割合



「認知機能の低下」に関する指標について、男女別・年齢別・家族構成別・認知症予防への取組状況別（問 26 において、「特にない」と回答した方を「取り組んでいない」、それ以外を「何らかの取組をしている」と判定）の結果は以下のとおりです。

他の指標と同様に年齢が高くなるにつれて「リスクが見られる」と判定される割合が高くなる傾向が見られますが、それ以外の属性についてはあまり差が見られません。認知症には様々な原因があり、誰にでも発生する恐れがあることから、予防に取り組むだけでなく、相談先や対応について、周知を図ることが重要であると考えられます。

図表 169　「認知機能の低下」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・認知症予防への取組状況別）



⑦「手段的日常生活動作（IADL）の低下」に関する指標

下記の質問に基づき「IADL の低下」に関する判定を行いました。

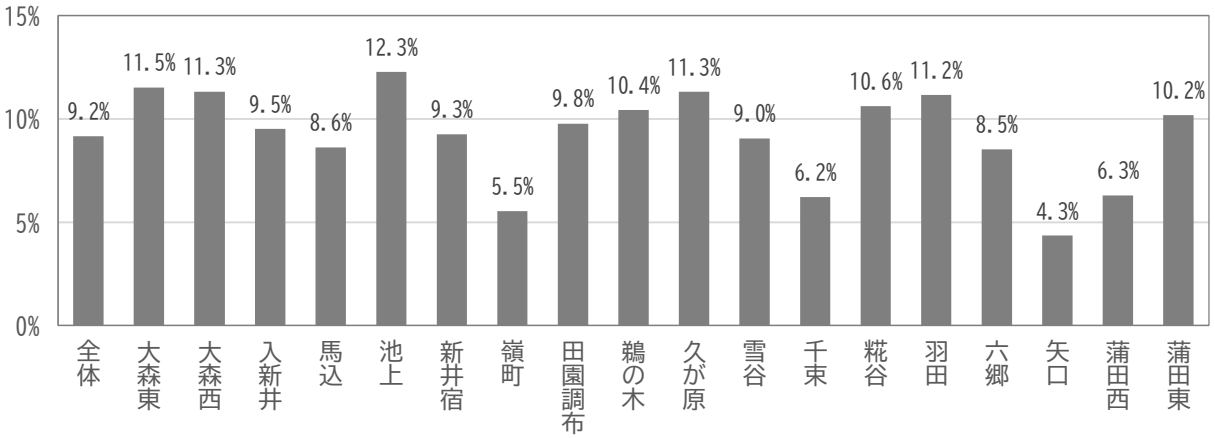
図表 170　「IADL の低下」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 15(2)	バスや電車、自家用車を使って１人で外出しているか	１．できるし、している ２．できるけどしていない	それぞれ「1.」「2.」に該当する場合＋1 点 ↓ 合計 4 点以下は「低下リスクあり」と判定
問 15(3)	自分で食品・日用品の買い物をしているか	１．できるし、している ２．できるけどしていない	
問 15(4)	自分で食事の用意をしているか	１．できるし、している ２．できるけどしていない	
問 15(5)	自分で請求書の支払いをしているか	１．できるし、している ２．できるけどしていない	
問 15(6)	自分で預貯金の出し入れをしているか	１．できるし、している ２．できるけどしていない	

区全体では、9.2%が「IADL の低下」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、総じて区全体と比べて±３ポイント程度の範囲に収まっていますが、「矢口」では 4.3%と、圏域の中で最も割合が低くなっています。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 12.4%が「IADL の低下が見られる」と判定されており、前回調査よりも 3.2 ポイント低い結果となっています。

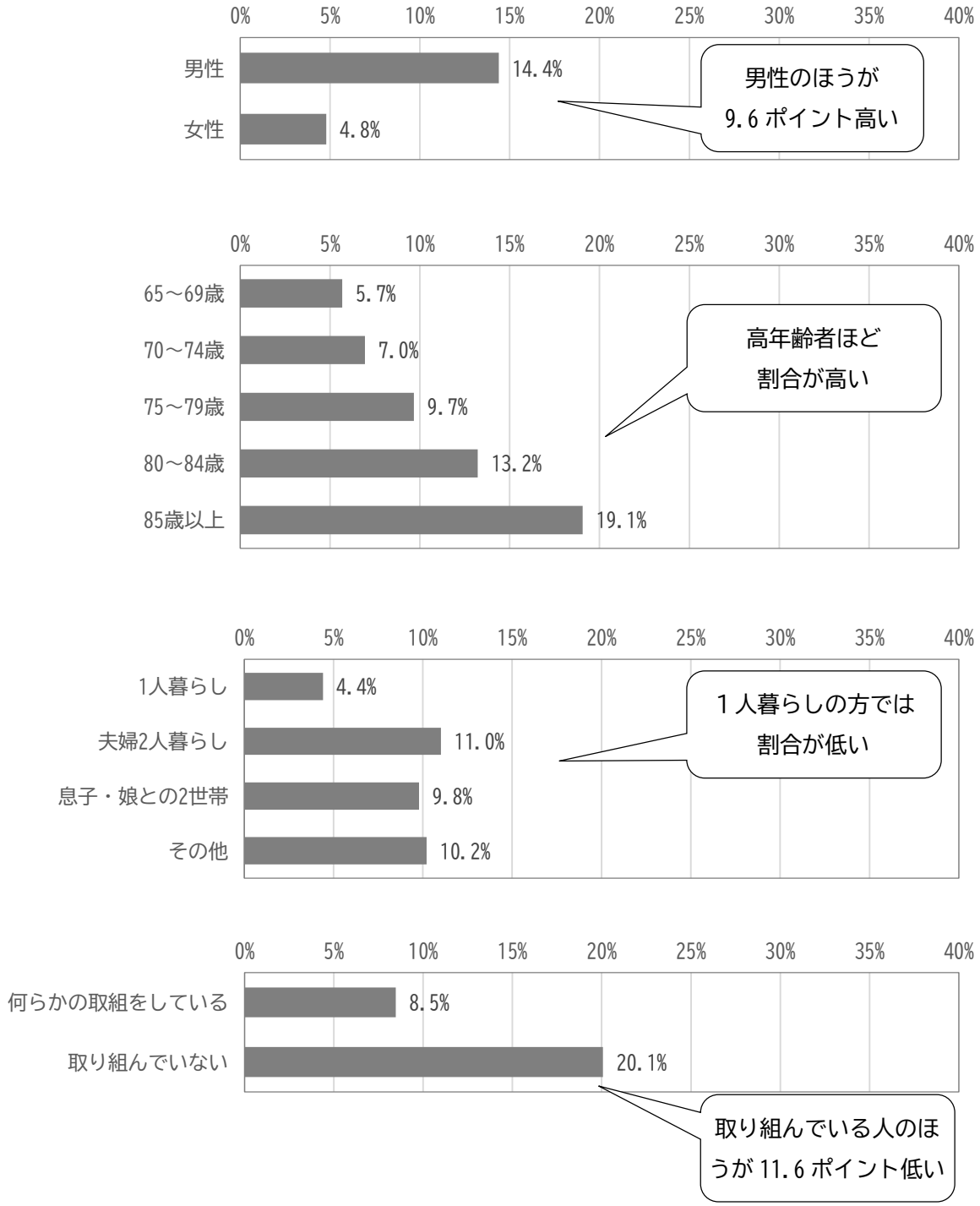
図表 171　「IADL の低下」が見られると判定された方の割合



「IADL の低下」に関する指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

家事に関する項目が含まれているためか、男性のほうが判定割合が高くなっているほか、年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向が見られます。また、自分自身で行う必要があるためか、同居者がいない「１人暮らし」のほうが割合が低いという特徴も見られます。加えて、介護予防に取り組んでいるか否かで 11.6 ポイントの差が見られるなど、個人の生活状況による差がよく見られる指標であることがわかります。

図表 172　「IADL の低下」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）



⑧「うつ傾向」に関する指標

下記の質問に基づき「うつ傾向」に関する判定を行いました。

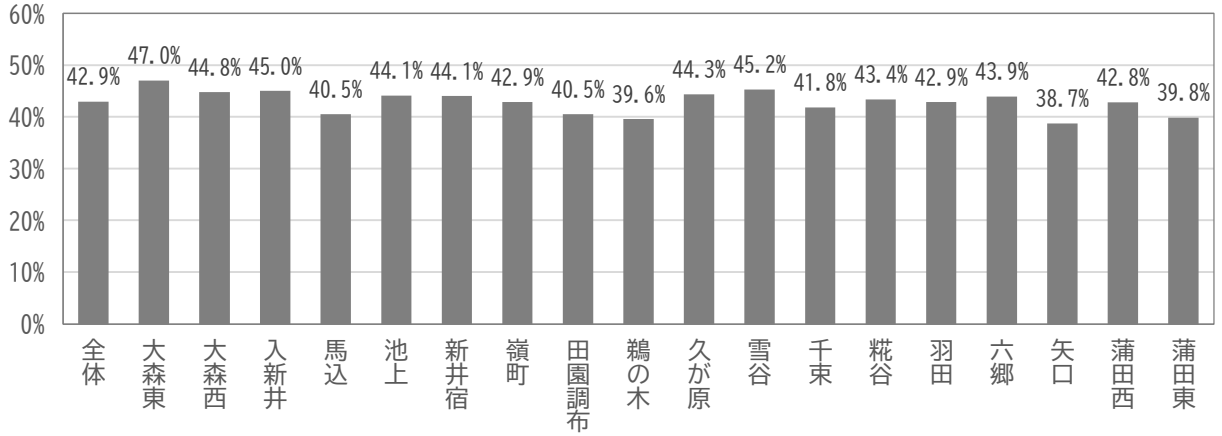
図表 173　「うつ傾向」に関する指標の判定要件

設問番号	質問内容	判定に用いる回答	判定要件
問 20(3)	この１か月間に、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった経験の有無	１．はい	左記のうち１つ以上該当
問 20(4)	この１か月間に、どうしても物事に興味がわかない、心から楽しめないと感じた経験の有無	１．はい	

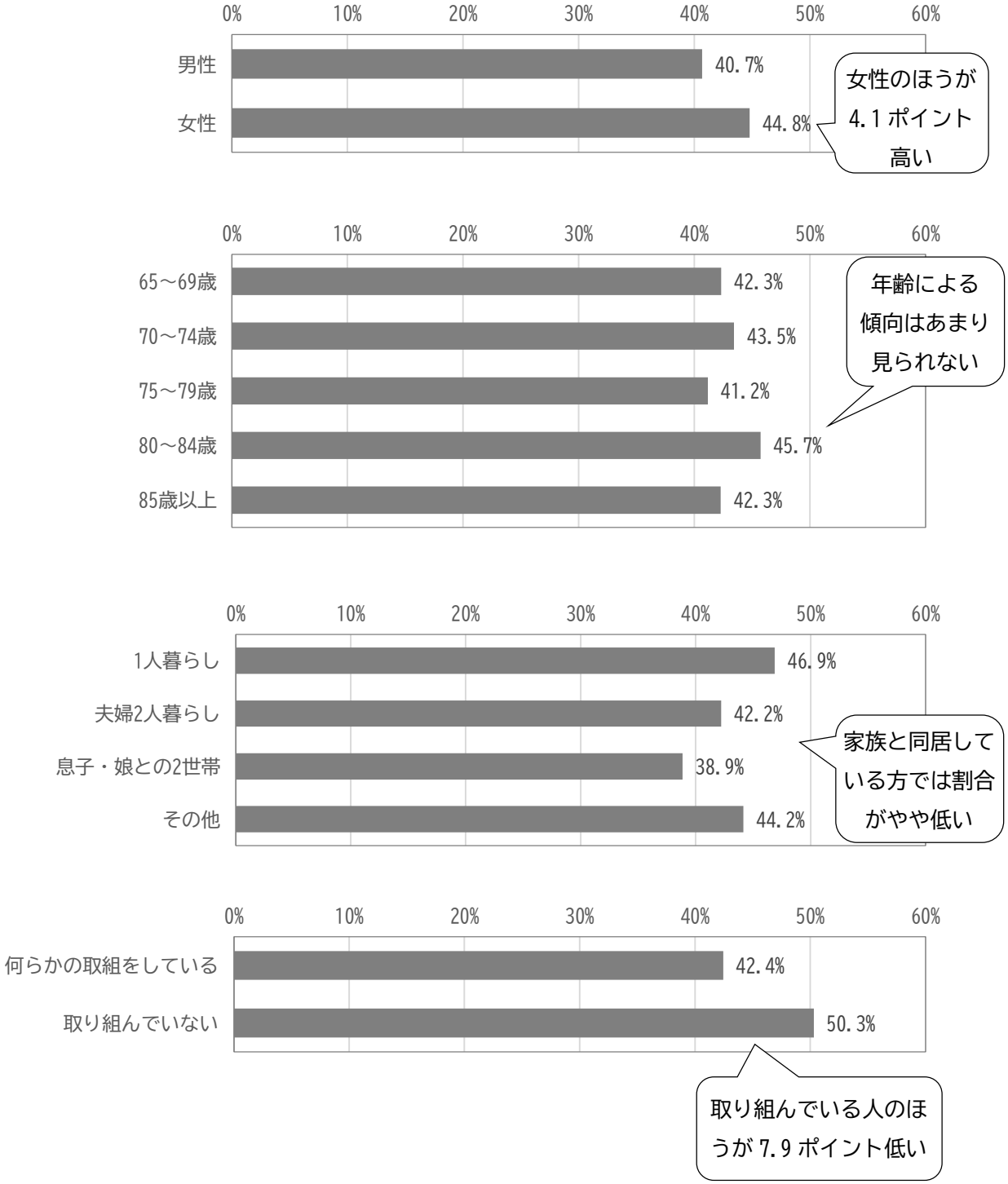
区全体では、42.9%が「うつ傾向」が見られると判定されました。日常生活圏域別の結果では、総じて区全体と比べ±３ポイント程度の範囲に収まっており、他の指標と比べ地域差が小さいことがうかがえます。

なお、令和元（2019）年に実施した前回調査では、区全体で 37.4%が「うつ傾向が見られる」と判定されており、前回調査よりも 5.5 ポイント高い結果となっています。

図表 174　「うつ傾向」が見られると判定された方の割合



「うつ傾向」に関する指標について、男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別の結果は以下のとおりです。

他の指標とは異なり、年齢による傾向はあまり見られず、年齢・性別によらず４割程度は「うつ傾向がある」と判定されています。

図表 175　「うつ傾向」が見られると判定された方の割合
（男女別・年齢別・家族構成別・介護予防への取組状況別）